

自己点検・評価報告書

(平成 26 年度分)



Nagano College of Nursing

目 次

序 章

学長あいさつ	1
長野県看護大学の概要	2

第1章 学事と組織

第1節 教育理念・教育目標	3
第2節 大学組織	5
第3節 学生の状況	12

第2章 年間の活動状況

第1節 学部・研究科の行事及び教授会活動	15
第2節 学部の教育活動	19
第3節 研究科の教育活動	22
第4節 看護実践国際研究センターの活動	24
第5節 健康センターの活動	36

第3章 教員の研修・研究、社会活動

第1節 研修	37
第2節 研究活動	39
第3節 社会・地域貢献活動	54

第4章 社会貢献

第1節 公開講座	59
第2節 分野の活動	59

第5章 学内委員会等の活動

第1節 運営委員会	60
第2節 広報・交流委員会	60
第3節 教務委員会	63
第4節 実習委員会	65
第5節 入試検討委員会	68
第6節 図書委員会（紀要委員会）	70
第7節 学生委員会	73
第8節 ネットワーク推進委員会	75
第9節 FD委員会	77
第10節 評価委員会	79
第11節 倫理委員会	80
第12節 ハラスメント防止委員会	81
第13節 動物実験委員会	83
第14節 感染症対策委員会	85
第15節 コンソーシアム信州運営委員会	86
第16節 防災委員会	87

第 17 節	安全衛生委員会	89
第 18 節	創立 20 周年記念事業実行委員会	90
第 19 節	研究科委員会教務部会	92
第 20 節	研究科委員会入試部会	94

第 6 章 学生生活及び学生への支援

第 1 節	学生支援活動	96
第 2 節	キャリア形成支援	99
第 3 節	保健厚生	102
第 4 節	修学資金等	104
第 5 節	サークル活動及び大学際	106
第 6 節	関係団体の活動	107
第 7 節	学生生活アンケート	112

第 7 章 施設の管理運営

第 1 節	施設の状況	116
第 2 節	財政の状況	122

第 8 章	点検・評価総括	124
-------	---------	-----

自己点検・評価報告書（平成 26 年度）の刊行にあたって

平成 23 年度に、自己点検・評価報告書（報告書）が刊行されて以来、今回で 4 刊目の発刊にあたります。報告書は、第 1 章 学事と組織、第 2 章 年間の活動状況、第 3 章 教員の研修・研究、社会活動、第 4 章 社会貢献、第 5 章 学内委員会等の活動、第 6 章 学生生活及び学生への支援、第 7 章 施設の管理運営、第 8 章 点検・評価総括となります。

今刊では、昨年の報告書に記載できなかった内容を盛り込み、次刊以降に引きついでいく予定です。第 3 章・4 章に看護実践国際研究センターの活動報告とは別に、分野・個人・グループで行っている活動を加え、第 6 章に学年顧問の活動と学生生活アンケートを加えています。大学の年間活動の概況をまとめることは、1 年間の取り組みを整理し、次年度への課題を認識することにつながります。つまりは、報告書の刊行は、大学の「自律」と「自治」の取り組みの証と考えます。

本学は開学以来、2 回目の基準協会の審査を平成 23 年に終え、平成 30 年に 3 回目の審査に向け進んでいます。その中間点として平成 27 年度 7 月末には、努力課題について報告しました。その課題の一つである大学院担当教員の選考に関する規定を定めて審査に基づいた研究科委員会が組織され、また、授業評価の検証について組織的に取り組むための体制もスタートしました。

さらに、平成 26 年度は創立 20 年の節目にあたり、前年度からの準備を踏まえて記念事業を成功させるために教職員が一丸となってそれぞれの役割を担ってきました。私たちは、20 年間の歩みを振り返りながら、これから先にある未来の姿を自らの決断と選択によって切り開いていかなければなりません。

今日、看護系大学の増加に伴い、教員の確保は厳しい状況が続いており、欠員教員の確保が大きな課題となっています。

学部長、研究科長はもとより、教授は、大学の運営の中枢を担っています。教授が中心となって、教員を育てることは、看護系大学が増加する時代にあって重要なことだと考えます。加えて、大学運営が各委員会の主体的な活動に支えられていることを考えますと、各委員会単位の評価とそれに伴った改革は大きな原動力になります。大学の大切な使命である学生の教育に全力を注ぐとともに、変化する社会にあって大学全体としての課題を見極めながら時代に応じた改革を促し、学長のリーダーシップのもと一丸となって取り組むことのできる組織になるよう努力します。

平成 27 年 11 月 11 日

長野県看護大学長 清水嘉子

長野県看護大学の概要

1 設置の趣旨・目的

人口の少子高齢化等の社会環境の変化、医療の専門化・多様化・高度化等の対応に指導的役割を果たし得る資質の高い人材を育成するとともに、看護学の発展に寄与し、看護学の研究・研修の拠点となることを目的とする。

2 沿革

平成 6 年 1 2 月	看護学部看護学科設置認可（文部省）
7 年 4 月	同 開 学
1 0 年 1 2 月	大学院看護学研究科看護学専攻博士前期課程設置認可（文部省）
1 1 年 4 月	同 開 学
1 2 年 1 2 月	大学院看護学研究科看護学専攻博士後期課程設置承認（文部省）
1 3 年 4 月	同 開 学
2 2 年 1 0 月	認定看護師教育機関認定（日本看護協会）
2 3 年 6 月	同 開 講

3 学部・学科の構成、入学定員等

構 成	修業年限	定 員	総定員	卒業（修了）時取得可能資格
看護学部看護学科	4 年	入学定員 8 0 名 編入学定員 （3 年次から） 1 0 名	3 4 0 名	学士（看護学） 看護師国家試験受験資格 保健師国家試験受験資格 助産師国家試験受験資格（選択） 養護教諭二種（保健師免許取得後）
大学院看護学研究科 看護学専攻 博士前期課程	2 年	1 6 名	3 2 名	修士（看護学）
大学院看護学研究科 看護学専攻 博士後期課程	3 年	4 名	1 2 名	博士（看護学）

4 施 設

- (1) 所 在 地 長野県駒ヶ根市赤穂 1 6 9 4 番地
 (2) 敷地面積 7 5, 7 3 3. 0 0 m²
 (3) 建物延床面積 1 9, 1 5 1. 2 2 m²

第1章 学事と組織

第1節 教育理念・教育目標

(1) 教育理念

本学は、1995年に長野県立では初めて設立された4年制の看護の単科大学であり、学年進行に沿って、大学院博士前期課程、博士後期課程を開設してきた。それらの時期、および2006年の学部新カリキュラム導入時には、教育理念および教育目標の見直しを行った。教育理念の見直しは、これまでの学生個々人の資質を向上させることに加えて、看護職者としての基本である人間理解、特に人間の生のありようを理解すること（「さまざまな生を営む人間を深く理解し」）を盛り込んでおり、その教育理念は学部・研究科とも共通である。

○本学の教育理念

学生個々人のもつ可能性が最大限に開花することを目指し、自立性、主体性を育むとともに、さまざまな生を営む人間を深く理解し、人々への配慮が自然にできる豊かな人間性と幅広い視野を養う。

これらを基盤として、看護実践に関する総合的な能力を養成し、看護の社会的機能を担い人々の健康福祉の向上に貢献する人材を育成する。さらに、看護の発展に寄与する実践者、教育者及び研究者を育成する。

(2) 学部の教育目標

1. 豊かな人間性と幅広い視野を養う。
 - (1) 学びの体験を通して命の尊さに触れ、人間の理解を深める。
 - (2) 豊かな感受性を養い、想像力と洞察力を身につける。
 - (3) さまざまな文化や社会の中で生活する人々を理解し、多様な価値を尊重できる。
2. 看護専門職者として社会に貢献できる能力を養う。
 - (1) 生命の尊厳を理解し、人間としての権利を尊重して主体的に行動できる。
 - (2) 看護の対象となる人を身体的、精神的、社会文化的側面から全人的に理解できる。
 - (3) 対象となる人の主体性を尊重し、協力して援助関係を築くことができる。
 - (4) あらゆる健康段階にある人々に対して、よりよい社会生活を支援する看護実践を展開できる。
 - (5) 科学的な根拠に基づいて適切な判断を下し、問題を解決することができる。
 - (6) 自らの看護実践をふりかえり、新たな課題に取り組むことができる。
 - (7) 専門職としての責任を自覚して行動し、リーダーシップを発揮できる。
 - (8) 保健・医療・福祉等に携わる人々と協働し、看護をより有効に機能させることができる。
3. 看護実践における課題の究明に取り組む能力を養う。
 - (1) 研究課題を見出すことができ、多角的な視点と想像力を身につける。
 - (2) 研究を遂行するための論理的思考能力と表現能力を身につける。
 - (3) 課題の究明を通して看護学の発展に寄与することができる。

(3) 研究科の教育目標

1. 博士前期課程

- (1) 専門分野に関連する理論と技術を学び、質の高い看護実践能力を養う。
- (2) 研究のプロセスを修得し、研究に必要な基礎的能力を養う。
- (3) 国内外の学術的な場において研究成果を公表する能力を養う。
- (4) 専門性を基盤にして他職種と協働し、調整する能力を養う。

2. 博士後期課程

- (1) 看護学の発展に寄与する研究を独立して行う能力を養う。
- (2) 国内外で学術的な交流をする能力を養う。
- (3) 学際的な視野に立ち、研究活動および保健医療福祉活動に貢献する能力を養う。
- (4) 専門性を基盤に、優れた人材を育成する教育能力を養う。

(4) 研究科のディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

1. 博士前期課程

課程修了の要件を満たし、次に該当する者に修士（看護学）の学位を授与する。

広い視野を持ち看護学に関する専門分野の学識を深め、科学的な思考力を身に付け、保健医療福祉の現場において、研究成果を活用できる高度な専門知識と実践能力を有する者。

修士論文コースにおいては、看護の質向上に貢献できる研究能力を備えた者。

専門看護師コースにおいては、高度な専門知識と実践能力に基づき、多様な健康課題を解決でき、看護の質向上に貢献できる者。

2. 博士後期課程

学際的な視野を持ち、看護学の発展に寄与する研究を独立して行う能力ならびに優れた人材を育成する教育能力を有し、課程修了の要件を満たした者に博士（看護学）の学位を授与する。

(5) 研究科のカリキュラム・ポリシー

1. 博士前期課程

博士前期課程では、看護学に関する理論と実践を専門的かつ学際的に探求することを目指し、修士論文コースと専門看護師コースを設け、以下のようにカリキュラムを編成している。

- (1) 広い視野と創造性を養うための科目から編成される「共通選択科目」（8 単位）、修士論文コース・専門看護師コースどちらのコースにおいても看護学の基礎的能力と倫理観を養うための「必修科目」（修士論文コース 12 単位，専門看護師コース 8 単位）を置いている。
- (2) 専門性を深め研究遂行能力を養う、または専門職の実践力を育てるための 4 領域 11 分野において、特論（4 単位以上）、演習（6 単位）を置いている。
- (3) 修士論文の作成にあたっては「修士論文の指導・審査の流れ」に基づき、倫理委員会の承認を得た後、論文作成に着手する手続きを課している。

- (4) 修士論文コースにおいては、学際的な視野から教育を行うために主指導教員に加え副指導教員を配置し、「看護学課題研究」(6単位)を課している。
- (5) 専門看護師コースにおいては、卓越した専門的能力を育成し、保健医療福祉分野でのケアと倫理的課題について調整する能力を養うため、「専門科目」の特論、演習、実習を置いている。これに加え、実践者としての分析・考察力を養うため「看護実践課題研究」(2単位)を課している。
- (6) 修士論文審査の透明性と客観性を確保するため「学位規程に関する内規」を設け、これに基づいた指導と審査を行うことで論文の質保証に努めている。

2. 博士後期課程

博士後期課程では、看護学の発展に貢献する教育者・研究者を養成するために、以下のようにカリキュラムを編成している。

- (1) 学際的視野を広げるため、「共通選択科目」(4単位以上)を置いている。
- (2) 領域別専門科目9分野において、専門的な研究能力と倫理観を養うため、特論(2単位)、演習(4単位)を置いている。
- (3) 博士論文の作成にあたっては、「博士論文の指導・審査の流れ」に基づき、倫理委員会の承認を得た後、博士論文作成に着手する手続きを課している。
- (4) 博士論文審査の透明性と客観性を確保するために「学位規程に関する内規」を設け、これに基づいた指導と審査を行うことで論文の質保証に努めている。

第2節 大学組織

(1) 組織

1) 組織図

本学の管理運営体制については、設置主体が県であり、知事の指揮監督の下に置かれ、予算については毎年県議会の承認を得るとともに、執行状況について監査委員の監査を受けている。

こうした体系の中で、学内体制は表2-1のとおりとなっており、大学全体の管理運営責任を負う学長の下、大学運営に関する重要事項を審議する機関として教授会及び研究科委員会がある。

また、本学では、教員、大学院生等が専門領域・講座を超えて研究プロジェクトに参画、地域貢献を行う看護実践国際研究センターを設置しており、看護地域貢献研究部門他4つの部門が置かれ、各々活動を行っている。

併せて、平成22年度半ばに、職員・学生のメンタル面の健康相談等を行う健康センターを設置し、関係機関と連携しメンタルケアに取り組んでいる。

事務局の体制は、大学運営全般を行う総務課と学生支援及び教務全般を業務とする教務・学生課との2つの課で成り立っている。

長野県看護大学



②研究科は、基本的には学部の教育研究組織の上にのせる形で組織されているが、学部の講座を超えた5つで構成している。(表2-3) そのうち、広域看護学領域の里山・遠隔看

表2-2 学部の組織構成

表2-3 研究科の組織構成

看護基礎 科学領域	病態機能学分野 病態治療学分野
基礎看護学 領域	基礎看護学分野 看護管理学分野 母性・助産看護学分野
発達看護学 領域	小児看護学分野 成人看護学分野
広域看護学 領域	老年看護学分野 精神看護学分野 地域・在宅看護学分野
	里山・遠隔看護学分野
	哲学・倫理学 心 理 学 社会・経済学 健康・保健学 生 物・化 学 英語・英米文化学
専門関連 領域	

また、研究科には、質の高い看護実践能力を養うという本学研究科博士前期課程の教育目標に基づいて、平成 14 年度に小児看護学分野、平成 15 年度に老年看護学分野、平成 24 年度に精神看護学分野の専門看護師（以後 CNS と省略する）コースを設置している。

3) 大学運営協議会

① 概要

県立大学の運営に広く県民の意見を反映させるため、運営協議会を設置している。本協議会は、下表のとおり学外の委員で構成されている。学内規程として「長野県看護大学運営協議会規程」を設けて、協議会の審議結果等を大学運営に反映させるよう定めている。

運営協議会委員名簿（任期：平成 25 年 4 月～平成 27 年 3 月）

区分	職	氏名	所属
地方公共団体	須坂市長	三木 正夫	市長会 社会環境部会長
看護現場	看護部長	宮坂 佐知子	諏訪赤十字病院
〃	副院長 看護部長	斎藤 依子	長野県立病院機構 県立こども病院
〃	協議会長 管理者	山本 由紀子	長野県訪問看護ステーション連絡協議会 Aライン訪問看護ステーション
保健現場	課長	古畑 崇子	松本市健康福祉部健康づくり課
教育研究機関	教授	駒津 光久	信州大学大学院 医学系研究科
〃	副学長 病院長	笠原 悦男	松本歯科大学
〃	学部長	中村 英三	長野大学社会福祉学部
地域経済界	専務取締役	中島 光孝	長野県経営者協会 (株)ヤマウラ
卒業(11 回)生	看護師	野口 岳志	本学同窓会 飯田市立病院
学識経験者	小児科部長	藪原 明彦	伊那中央病院

（平成 26 年 10 月 28 日現在、敬称略）

② 平成 26 年度の開催概要

開催日	開催場所	協議事項等
平成 26 年 10 月 28 日	看護大学 大会議室	・看護大学の概要について ・看護大学の中期構想について ・スマート看護・福祉研究会について ・創立 20 周年記念事業について ・編入学制度の停止と学部定員増について ・認定看護師教育課程の受講・修了状況について ・駒ヶ根市との包括的連携について ・最先端遠隔ケアシステムの開発と普及に関する研究 ・第 1 回公開講座・第 3 回県内大学市民開放セミナーについて ・学生短期交換留学「国際看護実習」の概要について

(2) 教職員

1) 教職員名簿

① 学部専任教員

(平成26年5月1日現在)

講座	分野	職位	氏名
人間基礎科学		学長	清水嘉子
		学部長	安田貴恵子
		准教授	屋良朝彦
	哲学・倫理学	講師	松本淳子
	心理学	特任教授	多賀谷昭
	社会・経済学	教授	北山秋雄
	健康・保健学	講師	秋山 剛
	生物・化学	教授	太田克矢
	英語・英米文化学	教授	西垣内磨留美
		准教授	井村俊義
	基礎医学・疾病学	教授	喬 炎
		助教	三浦大志
	病 態・治療学	助教	島袋 梢
		教授	坂田憲昭
		助教	中畑千夏子
基礎看護学	基礎看護学	教授	小林たつ子
		教授	今井家子
		准教授	宮越幸代
		講師	上田理恵
		助教	近藤恵子
		助教	秋山知也
		助教	那須淳子
		助教	上條こずえ
		助教	田中真木
		助教	田嶋紀子
		助教	伊藤郁恵
発達看護学	母性・助産看護学	准教授	阿部正子
		准教授	藤原聡子
		講師	西村理恵
		助教	宮原美知留
		助教	赤羽洋子
		助教	塩澤綾乃
		助教	佐々木美果

講座	分野	職位	氏名
発達看護学	小児看護学	教授	内田雅代
		准教授	竹内幸江
		助教	白井 史
		助教	高橋百合子
		助教	足立美紀
	成人看護学	助手	斎藤博子
		助教	熊谷理恵
		助教	川喜田恵美
		助手	牛山陽介
		教授	渡辺みどり
広域看護学	老年看護学	准教授	千葉真弓
		助教	細田江美
		助教	松澤有夏
		助教	曽根千賀子
		助教	有賀智也
	精神看護学	教授	岡田 実
		講師	三沢 緑
		助教	有賀美恵子
		助教	長南幸恵
		助手	森野貴輝
	地域・在宅看護学	教授	安田貴恵子
		講師	御子柴裕子
		講師	柄澤邦江
		助教	酒井久美子
		助教	村井ふみ
		助手	下村聡子
		助手	中林明子
		助手	白川あゆみ
		健康センター	講師 東 修
	認定看護師教育課程	主任教員	中畑千夏子
		主任教員	細田江美
		専任教員	久保田智恵
		専任教員	横山由香里
		専任教員	橋本晶子

② 大学院の領域別科目担当専任教員

(平成26年5月1日現在)

領域	分野	氏名等
学 長		清水 嘉子
研究科長		渡辺 みどり
看護基礎科学	病態機能学	教 授 喬 炎※
		教 授 太田 克矢※
	病態治療学	教 授 坂田 憲昭※
基礎看護学	基礎看護学	教 授 小林 たつ子※
		教 授 今井 家子
		准教授 宮越 幸代※
発達看護学	看護管理学	講 師 上田 理恵
		教 授 清水 嘉子※
		准教授 阿部 正子
		准教授 藤原 聡子
		講 師 西村 理恵
		母性・助産看護学

※博士後期課程の科目担当専任教員

領域	分野	氏名等
発達看護学	小児看護学	教 授 内田 雅代※
		准教授 竹内 幸江
広域看護学	老年看護学	教 授 渡辺 みどり※
	精神看護学	准教授 千葉 真弓
広域看護学	地域・在宅看護学	教 授 岡田 実※
		教 授 安田 貴恵子※
	里山・遠隔看護学	講 師 柄澤 邦江
		教 授 北山 秋雄※
		特任教授 多賀谷 昭※
		講 師 秋 山 剛※
専門関連	倫理学	准教授 屋良 朝彦※
	心理学	講 師 松本 淳子※
	英語・英米文化学	教 授 西垣内 磨留美※
		准教授 井村 俊義※

③非常勤講師

看護学部非常勤講師

(平成26年5月1日現在)

担当科目	氏 名	現 職
統計学	中村 寛志	信州大学農学部教授
保健・医療・福祉システム看護論Ⅱ	原 正光	飯田女子短期大学非常勤講師
教育学	加藤 和之	下條村児童館館長
独語	浜 泰子	信大高等教育システムセンター非常勤講師
数学	花木 章秀	信州大学理学部教授
慢性期看護概論 慢性期看護方法	安東由佳子	愛知医科大学看護学部教授
感染学演習	岩月 和彦	長野県看護大学名誉教授
人間工学	加藤 麻樹	早稲田大学人間科学部准教授
経済学	樋口 均	信州大学経済学部教授
法学	増尾 均	松本大学総合経営学部教授
看護栄養学	志塚ふじ子	長野県短期大学教授
医療経済学	福田 敬	国立保健医療科学院上席主任研究官
英会話演習	北原アツレ	信州大学非常勤講師
医事法学	浅村 英樹	信州大学医学部教授
芸術と人間	鷺沢寿美子	ピアノ教室「花の会」主宰
	長江 朱夏	八事病院 音楽療法士
人間関係論	原田 慶子	東京純心大学看護学部准教授
運動実践・理論ⅠⅡ、 運動理論 運動理論Ⅱ	杉本 光公	信州大学学術研究院教授

大学院非常勤講師

(平成26年5月1日現在)

担当科目	氏 名	現 職
看護倫理	小西恵美子	長野県看護大学名誉教授
	大石ふみ子	愛知医科大学看護学部教授
精神看護学特論	樋掛 忠彦	長野県立こころの医療センター院長
フィジカルアセスメント	山内 豊明	名古屋大学大学院教授
量的研究方法論	萩原 素之	信州大学農学部教授
コミュニティ・ケア・ヘルパ メント論特講	色平 哲郎	佐久総合病院地域医療部地域ケア科医長
	長 純一	石巻市立病院内科部長
語法特殊講義	滝沢 秀男	高崎経済大学非常勤講師
家族看護論	柳原 清子	東海大学健康科学部看護学科教授
看護理論	阿保 順子	長野県看護大学名誉教授
看護管理学	白鳥さつき	愛知医科大学看護学部教授
看護教育・援助論		
コンサルテーション論	大石ふみ子	愛知医科大学看護学部教授

④事務局

本学の事務組織は、事務局及び附属図書館で構成されている。事務局は、総務課、教務・学生課の2課体制で、事務局長以下職員9名及び嘱託職員3名が配置されている。平成22年までは、事務局外に学生支援として学生部があり、学生支援課と就職支援課の2課体制であったが、組織の見直しを行い、事務局内の教務・学生課として総合的な支援を行っている。

附属図書館には、図書委員会委員長の教員が兼務する図書館長と、司書2名（1名育休中）が配置されている。

事務局職員

(平成26年5月1日現在)

	事務局長	吉川篤明
総務課	次長	上田徳積
	課長補佐	白上正彦
	主幹	嘉仁康範
	主幹	知久達彦
教務・学生課	課長	大日方隆
	課長補佐	斎藤秀樹
	主事	加藤恭央
	保健師	坂元亜紀
図書館	主査学校司書	原 猛
	学校司書	乾 由佳
行政嘱託員	学生支援員	篠原睦美
	学生支援員	鈴木裕実
	就職支援員	唐澤 淳

2) 教員の募集・採用状況

教員の募集・採用は、「長野県看護大学教員選考基準に関する規程」（以下「規程」という）並びに「長野県看護大学教員選考基準細則」（以下「細則」という）に沿って行っている。

教員の募集については、教員の欠員並びに教員の採用計画に従い、教員選考委員会が学長指名により組織のうえ選考を行い、教授会へ図っている。

平成26年度教職員採用状況

(人)

教授	准教授	講師	助教	助手	認定看護師 教育部門	計	学内昇任
(1) —	—	4	3	(1) 2	—	(1) 9	—

(注) 上段の（ ）は任期付職員で外書数である（臨任、育休任期付を除く）

(3) 全学委員会

1) 委員会の構成

教授会の下部組織として、委員会組織（常設の委員会 14、臨時の委員会 1）を設置しており、大学運営上の様々な課題については、委員会で検討のうえ、教授会に諮ることとしている。委員会組織は、助教・助手を含む全教員で構成している。

また、研究科委員会においても、下部組織として教務部会と入試部会の二つの部会組織を設けている。両部会は、講師以上の職位にあるものによって構成している。

委員会及び部会等の構成員は、次表のとおりである。

1 教授会委員会				(H26. 5. 1 現在)			
委員会等		委員長等	委 員 等				事務局
学部長		安田教授					
教授会	運営委員会	清水学長	安田学部長 坂田教授	渡辺研究科長 内田教授	北山教授 岡田教授	西垣内教授 吉川事務局長	上田次長 大日方教学課長
	広報・交流委員会	西垣内教授	○千葉准教授 島袋助教 村井助手	松本講師 田中助教	西村講師 秋山助教	御子柴講師 足立助手	斎藤課長補佐
	教務委員会	安田学部長	屋良准教授 西村講師	○千葉准教授 柄澤講師	松本講師 田嶋助教	上田講師 酒井助教	加藤主事
	実習委員会	内田教授	宮越准教授 三沢講師 牛山助手	藤原准教授 御子柴講師 曾根助手	○竹内准教授 近藤助教 長南助教	千葉准教授 佐々木助教 下村助手	加藤主事
	入試検討委員会	北山教授	○坂田教授	井村准教授	阿部准教授	柄澤講師	斎藤課長補佐
	図書委員会 紀要委員会	坂田教授	○屋良准教授 伊藤助教	西村講師 塩沢助教	柄澤講師 有賀(智)助教	東講師 白川助手	原司書
	学生委員会	岡田教授	○北山教授 赤羽助教 上條助教	藤原准教授 高橋助教	上田講師 有賀(美)助教 (就職支援員、学生支援員出席)	御子柴講師 中林助手	加藤主事 坂元保健師
	ネットワーク 推進委員会	太田教授	秋山講師	○東講師	三浦助教	森野助教	白上課長補佐
	FD委員会	喬教授	西垣内教授 宮原助教	今井教授 斎藤助手	西村講師	東講師	斎藤課長補佐
	評価委員会	清水学長	安田学部長 西垣内教授 今井教授	渡辺研究科長 喬教授 内田教授	北山教授 坂田教授 岡田教授	太田教授 小林教授 吉川事務局長	大日方教学課長
	倫理委員会	小林教授	岡田教授	藤原准教授 滝沢委員（外部委員）	竹内准教授	秋山講師	知久主幹
	ハラスメント 防止委員会	太田教授	○今井教授 松澤助教	阿部准教授 吉川事務局長	上田講師 大日方教学課長	那須助教	
	動物実験委員会	太田教授	○喬教授	秋山講師	三沢講師		知久主幹
	感染症対策委員会	安田学部長	坂田教授 吉川事務局長	内田教授 大日方教学課長	岡田教授 坂元保健師	中畑助教	
	コンソーシアム 信州運営委員会	喬教授	宮越准教授	○松本講師			大日方教学課長 白上課長補佐
人事特別委員会		清水学長	安田学部長	渡辺研究科長	岡田教授	吉川事務局長	
防災委員会		今井教授	安田学部長 嘉仁主幹	岡田教授	吉川事務局長	白上課長補佐	
図書館長		坂田教授					
学年顧問	1 学年	秋山講師	三沢講師	2 学年	竹内准教授	上田講師	
	3 学年	屋良准教授	御子柴講師	4 学年	井村准教授	宮越准教授	

2 研究科委員会

部 会	部会長	部 会 員				事務局
教務部会	渡辺研究科長	北山教授	西垣内教授	坂田教授	○屋良准教授	大日方教学課長
入試部会	内田教授	○太田教授	井村准教授	藤原准教授	阿部准教授	斎藤課長補佐

(※) 「委員等」欄の氏名に○印がある委員が副委員長

(4) 教員評価

1) 概 要

本学における業績評価は、長野県看護大学教員として、自らの仕事を点検し、よりよい仕事を実践していくために行われている。そのため、自らの仕事の範疇を評価するよう4領域（教育・研究・地域貢献・大学運営）に分けて記載する構造になっている。また、大学教員という主体的な仕事を基本とする職域においては自己評価が大切になるため、評価の最後の部分に記述式の自己評価の記載欄が設けられている。そして、自己評価の妥当性を高めるために、分野責任者、講座主任による他者評価がなされる。さらに平成24年度からは、分野や講座を横断する形で大学全体の仕事内容の評価という観点で、新たに学長による加点がなされる仕組みを導入した。

従前の評価では、教育・研究における評価項目が高い場合は、得点が高くなるという傾向であった。しかしながら、カリキュラムによって、受け持つ授業科目や時間数は決定されることや、研究の仕方も理系・文系にかかわらず、チームで取り組む場合と個人で取り組む場合があり、それによって研究論文の数が左右されるため、一概に数のみで判断するというわけにはいかない。なるべく差がでないような配慮をしているが、すべてが平等にポイント化されるわけではない。また、会議・相談・調整等のいわゆるシャドーワークをいかに認めていくかという問題もあるが、その価値を数値で表すことは極めて困難である。そこで自己評価という形が生きてくる。学長による加点は、そういったことを十分に考えて行われ、各教員に、いっそう充実したよりよい仕事に精励することを期待している。

平成26年度の業績評価は、①講師以上、臨床実習のない助手・助教の授業担当時間の上限として3段階を新設、②博士論文審査委員長の評価項目の新設、③評価・加点以外の事項として、研究者として自らの能力を高める必要があることから、自身の今後の研究活動計画の記入を求めたことの3点を改善した。

また、評価対象者を、採用形態に関わらず、研究費が配分された在籍教員とした。

＜集計結果の概要＞

区 分	評 価 領 域・職 種 別 平 均					学長 加算後 平均(A)	最高値 (B)	指数 (B)/(A)	参考:授業時間	
	教育	研究	地域	運営	小計				平均	最高
教授(10名)	46.2	39.5	8.3	16.3	110.3	126.3	188.0	149	290.9	540
准教授(7名)	37.7	45.9	3.5	15.6	102.8	116.4	161.1	138	313.9	539
講師(4名)	30.4	19.7	3.7	14.7	68.4	77.2	109.3	142	178.2	421
助教(19名)	33.5	28.6	1.6	9.8	73.5	85.9	130.0	151	683.8	890
助手(3名)	28.5	8.4	0.8	7.4	45.1	56.7	69.4	122	640.7	856

2) 平成27年度研究費への反映

○各職位で、平均100に対する指数値が120以上となった者を研究費の増額対象とした。

(43名中12名が対象：27.9%)

教授：4名、准教授：1名、講師：1名、助教：5名、助手：1名

(5) 人事特別委員会の活動

長野県看護大学人事特別委員会設置要綱に基づき、委員会では、教員の処分に關し必要な事項や、教員の職務遂行に關する事項を審査する。よって、案件がない場合は活動しないが、平成26年度は2件の案件について審査を行い、結果を教授会へ報告した。

委員会の構成員は、要綱の規定により学長（委員長）、学部長、教務委員長、学生委員長、事務局長であり、この5名で調査、審査（会議開催4回）に当たった。

審査の対象となった案件のうちの1件目は、非違行為に対する処分が行われた教員に関するもので、26年度に分担させる職務内容、職務実施状況の確認及び評価について検討を行った。

2件目は、休職から復帰した教員に関するもので、復帰後の職務遂行状況と評価及び今後の対応方法について検討を行った。

第3節 学生の状況

(1) 学部

1) 入学試験の状況

1. 状況

1995 年の開学以来、学部入学定員は 80 名で、3 年次に 10 名の編入生を受け入れている。選抜試験では、入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）に基づく小論文や面接を課して、一般選抜試験、特別選抜試験、編入学試験を行っている。

入学試験の過去 5 年間の状況は、以下のとおりである。

項 目		2010 年度	2011 年度	2012 年度	2013 年度	2014 年度
一般入試	志願者	250	209	170	261	161
	合格者	53	53	56	56	53
	入学者(A)	48	50	53	53	50
	入学定員(B)	50	50	50	50	50
	A/B	0.96	1.00	1.06	1.06	1.00
推薦入試	志願者	61	63	56	55	55
	合格者	29	31	30	29	28
	入学者(A)	29	31	30	29	28
	入学定員(B)	30	30	30	30	30
	A/B	0.97	1.03	1.00	0.97	0.93
社会人入試	志願者	7	9	5	8	7
	合格者	4	3	3	2	3
	入学者(A)	3	2	2	1	3
	入学定員(B)	若干名	若干名	若干名	若干名	若干名
	A/B	—	—	—	—	—
編入学試験	志願者	21	15	24	17	17
	合格者	11	10	10	4	5
	入学者(A)	10	5	2	2	4
	入学定員(B)	10	10	10	10	10
	A/B	1.00	0.50	0.20	0.20	0.40
合 計	志願者	339	296	255	341	240
	合格者	97	97	96	91	89
	入学者(A)	90	88	87	85	85
	入学定員(B)	90	90	90	90	90
	A/B	1.00	0.98	0.97	0.94	0.94

(1) 特別選抜試験

県内の高等学校からの推薦を受けた者及び一定の社会人経験を有する者を対象とする選抜である。定員はあわせて 30 名で、同一の小論文試験と面接を課し、結果を総合的に評価して選抜を行っている。

- ① 推薦：県内の高等学校の卒業予定者で「全体の評定平均値」が 4.0 以上。推薦枠は各校 2 名（分校は 1 名）以内。
- ② 社会人(平成 15 年度から受け入れ)：大学入学資格と一定の基準による社会人としての経験を 3 年以上有する者。

(2) 一般選抜試験

分離分割方式で前期と後期に分けて実施し、定員は前期日程 42 名、後期日程 8 名である。大学入試センター試験と小論文試験及び個別面接を課し、結果を総合的に評価して選抜を行っている。

(3) 編入学試験

専門科目（基礎看護学、在宅看護論、成人看護学、老年看護学、小児看護学、母性看護学、精神看護学）と英語の筆記試験、個別面接を行い、結果を総合的に評価して選抜を行っている。

2. 課題及び方策

編入生の減、それに伴う総定員割れの状況が続いているため、その対応策として、編入生募集を平成 28 年度から停止することとした。

引き続き、編入制度廃止と、それに伴う学部定員の増（どの試験区分を増とするかを含む。）を検討していく。

2) 学年別学生数

1. 状況

在校生数は、定数の 340 名に対し、ほぼ同数となっているが、近年の傾向として卒業延期生が増加している。

また、男子学生が全体の 10%程となり、増加傾向にある。

県内出身者は全体の 74.2%で、年により増減しているが、従前に比べその率は、高まってきている。

平成26年 5 月 1 日 現在

平成28年6月1日現在

学 部	総	数		県内 出身者	県外 出身者
		男	女		
1 年 生	83	7	76	54	29
2 年 生	85	7	78	66	19
3 年 生	82	9	73	64	18
4 年 生	80	10	70	61	19
編入1年生	2	0	2	0	2
編入2年生	2	0	2	2	0
卒業延期生	10	1	9	6	4
計	344	34	310	253	91

(2) 研究科

1) 入学試験の状況

項 目		2010 年度	2011 年度	2012 年度	2013 年度	2014 年度
(博士前期)	志願者	9	11	9	4	5
	合格者	8	8	8	4	2
	入学者(A)	7	8	8	4	2
	入学定員(B)	16	16	16	16	16
	充足率(A/B)	44%	50%	50%	25%	13%
(博士後期)	志願者	5	7	4	3	2
	合格者	1	5	3	2	2
	入学者(A)	1	5	3	2	2
	入学定員(B)	4	4	4	4	4
	充足率(A/B)	25%	125%	75%	50%	50%
合 計	志願者	14	18	13	7	7
	合格者	9	13	11	6	4
	入学者(A)	8	13	11	6	4
	入学定員(B)	20	20	20	20	20
	充足率 A/B	0.40	0.65	0.55	0.30	0.20

課題及び方策

大学院ホームページの充実や近隣病院等への広報、卒業生対策等を検討する。

2) 学年別院生数

在校生数は、博士前期課程が定数の32名に対し、定員割れの状況となっている。近年の傾向として、入学生が少なく、休学等による卒業延期生が増加している。

また、博士後期課程は、定数12名に対し定員を上回っているが、休学等により標準修業年限を超える学生が多い傾向となっている。

平成26年5月1日 現在

大学院	総	数		県内 出身者	県外 出身者
		男	女		
修士課程	20	2	18	16	4
博士課程	12	1	11	4	8
計	32	3	29	20	12

(3) 学部及び研究科の休学、退学の状況

学部、研究科とも、最終学年での休学が多く、そのうちの一部が退学へとつながっている事例がある。

また、修士課程では、体調不良によるほか、仕事の都合による休学が見られる

1 学部・研究科の退学者数

		平成24年度					平成25年度					平成26年度				
		1年	2年	3年	4年	合計	1年	2年	3年	4年	合計	1年	2年	3年	4年	合計
学部						0		1		2	3			1		1
研究科	修士課程		4			4		2			2		1			1
	博士課程					0					0			1		1
	小計	0	4	0		4	0	2	0		2	0	1	1		2
合計		0	4	0	0	4	0	3	0	2	5	0	1	2	0	3

※ 研究科のうち博士後期課程における単位取得退学者は、退学者数に計上していない。

2 学部・研究科の休学者数

		平成24年度					平成25年度					平成26年度				
		1年	2年	3年	4年	合計	1年	2年	3年	4年	合計	1年	2年	3年	4年	合計
学部			1	3	2	6	1	2		3	6	1	4	2		7
研究科	修士課程	1	9			10		4			4		5			5
	博士課程	1		2		3		2	2		4		1	3		4
	小計	2	9	2		13	0	6	2		8	0	6	3		9
合計		2	10	5	2	19	1	8	2	3	14	1	10	5	0	16

※ 休学者数のうち、年度を越える休学は各年度毎で計上しているが、年度内の同一人物による複数の休学は実人数で計上している。

第2章 年間の活動状況

第1節 学部及び研究科の行事及び教授会活動

(1) 1年間の行事

月 日	内 容	月 日	内 容
4月3日 (木)	入学式	10月28日 (火)	看護大学運営協議会
4月4日 (金)	教務ガイダンス	11月15日 (土)	特別選抜入学試験
7日 (月)	健康診断	11月20日 (木)	※認定看護師教育課程選抜試験
4月8日 (火)	オリエンテーション合宿(1年)	11月22日 (土)	看護大学20周年記念式典
9日 (水)		12月20日 (土)	冬季休業
4月4日 (金)	履修登録期間	～1月4日 (日)	
～11日 (金)		1月5日 (月)	後期授業再開
4月10日 (木)	前期授業開始	1月17日 (土)	大学入試センター試験
5月1日 (水)	創立記念日	18日 (日)	
6月2日 (月)	※認定看護師教育課程開講式	1月24日 (土)	博士前期・後期課程二次募集入学試験
6月14日 (月)	創立20周年国際シンポジウム	1月29日 (木)	※認定看護師教育課程修了式
8月2日 (土)	オープンキャンパス	2月14日 (土)	春季休業
8月9日 (土)	夏季休業	～3月31日 (火)	
～9月30日 (火)		2月20日 (金)	※認定看護師教育課程二次募集選抜試験
9月6日 (土)	編入学試験	2月25日 (水)	一般選抜入学試験 (前期)
9月20日 (土)	鈴風祭	3月12日 (木)	一般選抜入学試験 (後期)
21日 (日)	公開講座	3月14日 (土)	卒業式・修了式
9月30日 (火)	前期卒業式	3月18日 (水)	看護大学研究集会
10月1日 (水)	後期授業開始		
10月18日 (土)	博士後期課程入学試験 博士前期課程入学試験		

※は看護実践国際研究センター認定看護師教育部門の行事

(2) 教授会の活動

回	開催月日	協 議 事 項
1	4月1日	1 休学願について 2 基礎看護学の教員の採用について (審査結果報告) 3 地域・在宅看護学の教員の採用について (審査結果報告)
2	4月7日	1 基礎看護学の教員 (助教) の採用について (投票) 2 地域・在宅看護学の教員 (助教) の採用について (投票)
3	4月15日	1 退学願について 2 平成26年度学生校費予算 (案) について 3 平成26年度一般研究費配分 (案) について 4 平成26年度特別研究費配分 (案) について (教授のみ) 特別な配慮を必要とする教員について
4	5月13日	1 平成26年度長野県看護大学臨床教授について 2 名誉教授の授与について 3 平成28年度からの編入学募集停止について 4 平成26年度編入学試験学生募集要項 (案) について

5	5月20日	1 入学前の既修得単位の認定について 2 平成27年度入学者選抜に関する要項（案）について 3 平成26年度県内看護職者との共同研究について 4 学内演習針刺し事故の発生に対する対処方法規定の改正について 5 臨地実習針刺し事故の発生に対する対処方法規定の改正について （教授のみ）人事特別委員会で協議している事項について
6	6月10日	1 成人看護学の教員（教授、准教授又は講師）の採用について（審査結果報告） 2 成人看護学の教員（助教又は助手）の採用について（審査結果報告） 3 教員の平成26年度業績評価について 4 平成27年度大学入試センター試験における「理科」の得点採用について
7	6月17日	1 成人看護学の教員（教授、准教授又は講師）の採用について（投票） 2 成人看護学の教員（助教又は助手）の採用について（投票） （教授のみ）試験における学生の不正が疑われる行為について
8	7月1日	1 平成26年度学生募集要項《一般選抜入学試験》（案）について 2 平成26年度学生募集要項《推薦入学試験》（案）について 3 平成26年度学生募集要項《社会人特別選抜試験》（案）について 4 平成26年度県内看護職者との共同研究について 5 老年看護学の教員（助教又は助手）の公募について
9	7月15日	1 休学願について 2 長野県看護大学感謝状贈呈規程（案）について 3 臨時的任用教員の選考等に関する申し合わせについて
10	9月2日	1 平成26年度学位記授与式について 2 安全衛生委員会規程（案）について 3 ハラスメントの防止等に関する規定の一部改正（案）について 4 ハラスメントの防止等に関する規定運用細則の一部改正（案）について 5 助教から講師への承認について 6 教員選考基準に関する規定及び基準細則の一部改正について 7 教授会委員会等の構成員について 8 老年看護学の教員（助教又は助手）の採用について（審査結果報告）
11	9月9日	1 平成27年度編入学試験結果について 2 老年看護学の教員（助教又は助手）の採用について（投票）
12	9月16日	1 教員の退職について 2 休学願について 3 年度途中で卒業する学生の卒業認定について 4 平成27年度当初予算要求について 5 助教から講師への昇任について 6 教員選考基準細則の一部改正案について 7 学部定員増に係る課題の検討結果について
13	10月7日	1 教員の退職について 2 消防計画の見直しについて 3 県内看護職者との共同研究の募集について 4 感謝状被贈呈者の候補者について 5 看護連携型ユニフィケーションについて 6 教員の昇任に関する日程について
14	10月21日	1 老年看護学の任期付教員の公募について 2 助教から講師への昇任について 3 在宅看護実習室及び就職支援室について
15	11月4日	1 履修時期の変更について 2 成人看護学の教員（准教授又は講師）の公募状況について 5 基礎看護学の教員（准教授又は講師）の公募状況について
16	11月18日	1 平成27年度推薦・社会人入学試験結果について 2 休学願について 3 平成27年度学年歴について 4 基礎看護学の教員（助教又は助手）の公募状況について 5 認定看護師教育部門の任期付教員（認知症看護分野・専任教員）の公募について 6 臨時的任用教員の採用について 7 特任教授の任命について 8 平成27年度県内看護職者との共同研究の募集テーマについて （教授のみ）人事特別委員会で協議している事項について
17	12月2日	1 母性・助産看護学分野の教員（助教又は助手）の採用について（審査結果報告）

18	12月9日	1 老年看護学分野の教員（助教又は助手）の採用について（審査結果報告） 2 母性・助産看護学分野の教員（助教又は助手）の採用について（投票）
19	12月16日	1 平成27年度非常勤講師について 2 平成27年度学年歴について 3 平成27年度成人看護学科目運営について 4 新型インフルエンザ等発生時業務継続計画の策定について 5 平成25年度教員の業績評価について 6 教員の職位の昇任申請について 7 臨時的任用教員の採用について（審査結果報告） 8 老年看護学分野の教員（助教又は助手）の採用について（投票）
20	1月6日	1 教員の公募状況について（基礎看護学、成人看護学） 2 認定看護師教育部門の任期付教員（認知症看護分野・専任教員）の採用について（審査結果報告） 3 教授会の日程について
21	1月13日	1 認定看護師教育部門の任期付教員（認知症看護分野・専任教員）の採用について（投票）
22	1月20日	1 平成27年度非常勤講師について 2 平成27年度科目等履修生募集要項（案）について 3 平成27年度県内大学単位互換履修生募集要項（案）について 4 教員の退職について 5 基礎看護学の教員（助教又は助手）の公募状況について 6 教員の職位の昇任について（審査結果報告） 7 編入学の廃止と学部定員の増について 8 平成27年度から取り組む課題について
23	2月3日	1 教員の職位の昇任について（投票）
24	2月17日	1 客員研究員規程について 2 平成26年度卒業認定について 3 平成27年度編入生単位認定について 4 平成28年度学部入学試験関係日程（案）について 5 精神看護学の教員の公募について 6 成人看護学の臨時的任用教員の採用について
25	3月3日	1 教員の退職について 2 成人看護学の臨時的任用教員の採用について（審査結果報告） 3 成人看護学の臨時的任用教員の採用について 4 基礎看護学の臨時的任用教員の採用について 5 平成27年度県内看護職者との共同研究について 6 平成27年度教授会委員会等の選任等について 7 平成27年度一般入学試験（前期日程）の試験結果について
26	3月10日	1 基礎看護学の臨時的任用教員の採用について（審査結果報告） 2 成人看護学の臨時的任用教員の採用について（審査結果報告）
27	3月17日	1 休学願について 2 研究活動における不正行為への対応に関する規程について 3 教員選考基準細則の一部改正について 4 教員の採用又は昇任の際の投票に関する内規について 5 履修規程の一部改正について 6 平成26年度単位取得状況について 7 平成27年度学部時間割について 8 客員研究員の承認について 9 平成27年度教授会委員会等の委員の選任について 10 平成27・28年度講座主任について 11 平成27年度一般選抜入学試験（後期日程）の試験結果について

(3) 研究科委員会の活動

回	開催月日	協 議 事 項
1	4 月 15 日	1 退学願について 2 休学願について 3 博士・博士論文指導教員について
2	5 月 13 日	1 休学願について 2 学大学院研究科の教員の学内審査に関する内規の一部改正について
3	5 月 20 日	1 平成 27 年度大学院博士前期（修士）課程学生募集要項（案）について 2 平成 27 年度大学院博士後期（博士）課程学生募集要項（案）について 3 平成 26 年度修士論文研究テーマ・論文指導及び審査委員（案）について 4 大学院研究科の教員の学内審査に関する内規の一部改正について
4	6 月 10 日	1 研究科教員の学内審査について
5	7 月 15 日	1 平成 26 年度研究科教員について 2 学外者による論文指導について
6	9 月 16 日	1 休学願について 2 長野県看護大学学位規程の一部改正について 3 長野県看護大学学位規程に関する内規の別表について 4 学位論文の審査基準等について 5 学外者による論文の指導教員及び審査委員に関する内規の整備について 6 大学院修士課程の科目の新設について
7	10 月 7 日	1 博士研究計画の副指導教員・審査委員及び発表会について
8	10 月 21 日	1 平成 27 年度博士前期課程入学試験結果について 2 平成 27 年度博士後期課程入学試験結果について 3 平成 27 年度博士前期課程入学試験（二次募集）について 4 平成 27 年度博士後期課程入学試験（二次募集）について 5 大学院シラバス等の作成について
9	11 月 11 日	1 平成 26 年度博士論文研究計画書審査について
10	11 月 18 日	1 休学願について
11	12 月 16 日	1 休学願について 2 アドミッション・ポリシーについて 3 ディプロマ・ポリシーについて 4 カリキュラム・ポリシーについて 5 平成 26 年度大学院非常勤講師（案）について
12	1 月 20 日	1 退学願について 2 休学願について 3 平成 26 年度修士論文発表会について 4 平成 27 年度大学院学年歴について 5 平成 27 年度大学院科目等履修生募集要項について 6 平成 27 年度大学院研究生募集要項について 7 平成 27 年度県内大学単位互換履修生募集要項について
13	1 月 27 日	1 平成 27 年度博士前期（修士）課程二次試験結果について 2 平成 27 年度博士後期課程二次試験結果について
14	2 月 17 日	1 長期履修在学期間の短縮について 2 平成 28 年度大学院入学試験関係日程について 3 平成 26 年度博士前期（修士）課程修得単位の認定について 7 平成 26 年度修士論文審査結果及び最終試験結果報告について 8 平成 26 年度博士前期（修士）課程の学位授与について（投票）
15	3 月 17 日	1 研究科教員の学内審査について

第2節 学部の教育活動

(1) カリキュラム

< 必修科目 >

平成 26 年度入学生

	科 目	期	単位数	時間数	科 目	期	単位数	時間数
1 学 年	生物学	前学期	1	30	医療英文読解演習Ⅰ	後学期	1	30
	化学	前学期	1	30	医療英会話の基礎Ⅰ	後学期	1	30
	運動実技・理論Ⅰ	前学期	1	30	生化学	後学期	1	30
	統計学	前学期	1	15	人体の構造と機能演習	後学期	1	30
	英文読解の基礎	前学期	1	15	病理学	後学期	1	15
	英会話の基礎	前学期	1	30	薬理学	後学期	2	30
	人体の構造と機能Ⅰ	前学期	2	30	病理学演習	後学期	1	30
	人体の構造と機能Ⅱ	前学期	1	30	基礎看護方法Ⅰ	後学期	1	30
	看護学概論	前学期	2	30	人間発達論	後学期	1	15
	基礎看護実習Ⅰ	前学期	1	45	人間関係論	後学期	1	30
	保健・医療・福祉システム看護論Ⅰ	前学期	1	15	公衆衛生学	後学期	1	30
	情報処理学	前学期	1	30	保健・医療・福祉システム看護論Ⅱ	後学期	1	15
	倫理学	後学期	1	15				
	家族社会学	後学期	1	15	小 計 (26 科目)		29	675
2 学 年	臨床心理学	前学期	1	30	疫学	前学期	1	30
	医療英文読解演習Ⅱ	前学期	1	30	運動実技・理論Ⅱ	後学期	1	30
	医療英会話の基礎Ⅱ	前学期	1	30	感染学演習	後学期	1	30
	フィジカルアセスメント	前学期	1	30	慢性期看護方法	後学期	2	60
	疾病学Ⅰ	前学期	1	30	急性期看護概論	後学期	1	15
	疾病学Ⅱ	前学期	1	30	老年看護方法Ⅰ	後学期	1	30
	感染学	前学期	1	30	精神看護概論Ⅱ	後学期	1	15
	基礎看護方法Ⅱ	前学期	2	60	母性看護方法Ⅰ	後学期	1	30
	看護過程の理論と展開	前学期	1	15	小児看護概論Ⅱ	後学期	1	15
	慢性期看護概論	前学期	1	15	小児看護方法Ⅰ	後学期	1	30
	老年看護概論	前学期	2	30	地域看護方法Ⅰ	後学期	1	30
	精神看護概論Ⅰ	前学期	1	15	家族援助論	後学期	1	15
	母性看護概論	前学期	1	15	在宅ケア方法Ⅰ	後学期	1	30
	小児看護概論Ⅰ	前学期	1	15	多文化共生看護学	後学期	2	30
	地域看護概論	前学期	1	15	基礎看護実習Ⅱ	後学期	2	90
	在宅ケア論	前学期	1	15	小 計 (31 科目)		36	885
3 学 年	医療経済学	前学期	1	15	災害看護論	前学期	1	30
	看護栄養学	前学期	1	15	在宅ケア方法Ⅱ	前学期	1	30
	症状マネジメント論	前学期	1	15	保健統計学	前学期	1	15
	急性期看護方法	前学期	2	60	保健・医療・福祉システム看護論	前学期	1	15
	老年看護方法Ⅱ	前学期	1	30	遺伝と人間	後学期	1	15
	精神看護方法	前学期	2	60	看護倫理	後学期	1	15
	母性看護方法Ⅱ	前学期	1	30	看護研究方法	後学期	1	30
	小児看護方法Ⅱ	前学期	1	30				
	地域看護方法Ⅱ	前学期	1	30	小 計 (16 科目)		18	435
4 学 年	看護管理論	前学期	1	15	卒業研究	全期	4	180
	看護統合実習	前学期	2	90	小 計 (3 科目)		7	285
3・4 学 年	成人看護実習		4	180	小児看護実習		3	135
	老年看護実習		4	180	地域看護実習		4	180
	精神看護実習		3	135	在宅看護実習		2	90
	母性看護実習		2	90	小 計 (7 科目)		22	990

必修科目合計

科 目	単位数	時間
86 科 目	112	3,270

＜選択必修科目＞

科 目	期	単位数	時間数	科 目	期	単位数	時間数
教育学	1 年前学期	2	30	英会話演習	3 年前学期	1	30
教育心理学	1 年後学期	2	30	英語文化研究	3 年前学期	1	30

＜選択科目＞

科 目	期	単位数	時間数	科 目	期	単位数	時間数
コミュニケーション論	1 年前学期	1	15	論理学	3 年前学期	1	15
心理学	1 年前学期	2	30	運動理論	3 年前学期	1	15
社会学	1 年前学期	2	30	医事法学	3 年前学期	1	15
信州学	1 年前学期	1	15	国際看護学Ⅰ	3 年前学期	2	30
数学	1 年前学期	1	15	国際看護学Ⅱ	3 年前学期	1	15
独語	1 年前学期	1	15	国際看護実習	3 年前学期	2	90
生命科学演習	1 年後学期	1	30	芸術と人間	3 年後学期	2	30
哲学	2 年前学期	2	30	助産概論	3 年後学期	1	15
文化人類学	2 年前学期	2	30	地域母子保健	4 年前学期	1	15
経済学	2 年前学期	2	30	仏語	4 年後学期	1	15
人間工学	2 年前学期	2	30	看護論	4 年後学期	1	15
生命倫理	2 年後学期	1	15	看護教育論	4 年後学期	2	30
法学	2 年後学期	2	30	エンカウンター	4 年後学期	1	30

(2) 臨地実習

学年	科 目 名	期 間	単位
1	基礎看護実習Ⅰ	6 月 16 日 ～ 6 月 20 日	1
2	基礎看護実習Ⅱ	1 月 19 日 ～ 1 月 30 日 2 月 2 日 ～ 2 月 16 日	2
3	成人看護実習	9 月 22 日 ～ 12 月 12 日	4
	老年看護実習		4
	精神看護実習		3
	母性看護実習		2
	小児看護実習		3
	地域看護実習		4
	在宅看護実習		2
	国際看護実習（選択）	8 月 4 日 ～ 8 月 15 日	2
	助産実習実習（選択）	2 月 6 日 ～ 3 月 28 日	10
4	成人看護実習	5 月 12 日 ～ 7 月 11 日	3
	老年看護実習		3
	精神看護実習		3
	母性看護実習		3
	小児看護実習		3
	地域看護実習		3
	在宅看護実習	7 月 14 日 ～ 7 月 18 日 7 月 22 日 ～ 7 月 28 日 8 月 18 日 ～ 8 月 22 日 8 月 25 日 ～ 8 月 29 日	1
	看護管理実習	7 月 22 日 ～ 8 月 4 日 8 月 25 日 ～ 9 月 5 日 9 月 4 日 ～ 9 月 19 日	2
	助産実習実習（選択）	9 月 1 日 ～ 11 月 19 日	9
編入 2	地域看護実習	9 月 22 日 ～ 10 月 17 日	3

(3) 臨地実習施設

① 病院

施設名	所在地	科目	施設名	所在地	科目
昭和伊南総合病院	駒ヶ根市	基礎看護Ⅰ、基礎看護Ⅱ、成人看護、在宅看護、看護管理、看護教育、看護倫理、小児看護、看護実践、助産	こども病院	安曇野市	小児看護、助産
伊那中央病院	伊那市	基礎看護Ⅰ、基礎看護Ⅱ、在宅看護、小児看護、看護実践、助産	下伊那赤十字病院	松川町	在宅看護
こころの医療センター駒ヶ根	駒ヶ根市	精神看護、在宅看護	飯田市立病院	飯田市	看護管理
飯田病院	飯田市	精神看護	諏訪赤十字病院	諏訪市	助産
伊那神経科病院	伊那市	精神看護	諏訪中央病院	茅野市	助産
南信病院	南箕輪村	精神看護	諏訪マタニティクリニック	下諏訪町	助産
信州大学医学部附属病院	松本市	精神看護			

② 保健・福祉施設

施設名	所在地	科目	施設名	所在地	科目
エーデル駒ヶ根	駒ヶ根市	基礎看護Ⅰ	親愛の星シンフォニー	富田村	精神看護
大原こども園	駒ヶ根市	基礎看護Ⅰ	すずたけ	伊那市	老年看護
観成園	駒ヶ根市	基礎看護Ⅰ	はびろの星	伊那市	老年看護
プラムの星	富田村	基礎看護Ⅰ	センチテアアン	高森町	老年看護
コスモスの家	伊那市	精神看護	信濃医療福祉センター	下諏訪町	在宅看護
たんぽぽの家	駒ヶ根市	精神看護			

③ 助産所

施設名	所在地	科目	施設名	所在地	科目
おひさま助産院	駒ヶ根市	母性看護・助産	明生所産院	伊那市	母性看護・助産
野ノ花所産院	駒ヶ根市	母性看護・助産	さくらこ所産院	伊那市	母性看護・助産
幸所産院	駒ヶ根市	助産	助産所ドクターえむあい	伊那市	助産

④ 保健福祉事務所

施設名	所在地	科目	施設名	所在地	科目
諏訪保健福祉事務所	諏訪市	地域看護	飯田保健福祉事務所	飯田市	地域看護
伊那保健福祉事務所	伊那市	地域看護	木曾保健福祉事務所	木曾町	地域看護

⑤ 市町村

施設名	所在地	科目	施設名	所在地	科目
伊那市役所	伊那市	地域看護	飯島町役場	飯島町	地域看護
駒ヶ根市役所	駒ヶ根市	地域看護	中川村役場	中川村	地域看護
長野町役場	長野町	地域看護	富田村役場	富田村	地域看護
箕輪町役場	箕輪町	地域看護	木曾町役場	木曾町	地域看護

⑥ 訪問看護ステーション

施設名	所在地	科目	施設名	所在地	科目
伊南訪問看護ステーション	駒ヶ根市	在宅看護	訪問看護ステーションふれあい	箕輪町	在宅看護
訪問看護ステーションすずたけ	伊那市	在宅看護	下伊那赤十字訪問看護ステーション	松川町	在宅看護
訪問看護ステーションみどり	箕輪町	在宅看護	円会訪問看護ステーション	高森町	在宅看護

⑦ 学校

施設名	所在地	科目	施設名	所在地	科目
伊那北小学校	伊那市	地域看護	川島小学校	長野町	地域看護
新山小学校	伊那市	地域看護	岡小野小学校	長野町	地域看護
富果小学校	伊那市	地域看護	箕輪中野小学校	箕輪町	地域看護
西春近南小学校	伊那市	地域看護	箕輪北小学校	箕輪町	地域看護
西箕輪小学校	伊那市	地域看護	箕輪中学校	箕輪町	地域看護
伊那東部中学校	伊那市	地域看護	南箕輪小学校	南箕輪村	地域看護
春富中学校	伊那市	地域看護	富田小学校	富田村	地域看護
西箕輪中学校	伊那市	地域看護	富田中学校	富田村	地域看護
赤穂東小学校	駒ヶ根市	地域看護	花田兼護学校	下諏訪町	地域看護
長野南小学校	長野町	地域看護			

⑧ 保育園

施設名	所在地	科目	施設名	所在地	科目
赤穂保育園	駒ヶ根市	小児看護	すずらん保育園	駒ヶ根市	小児看護
飯坂保育園	駒ヶ根市	小児看護	松ヶ丘保育園	駒ヶ根市	小児看護
北新保育園	駒ヶ根市	小児看護	福岡保育園	駒ヶ根市	小児看護
堀城保育園	駒ヶ根市	小児看護			

第3節 研究科の教育活動

(1) カリキュラム

1) 授業科目

博士前期(修士)課程授業科目 (平成26年度入学生)

授業科目				科目 番号	単位数	学年別時間数				計	
						1年		2年			
						前学期	後学期	前学期	後学期		
必修科目				看護倫理	3201	2	30				30
				看護理論	3101	2	30				30
				看護研究法	3102	2	30				30
＊領域 分野 専門 科目	看護 基礎 領域	病態機能学分野	病態機能学特論Ⅰ	3401	2	30				30	
			病態機能学特論Ⅱ	3402	2	30				30	
			病態機能学演習	3403	6		90			90	
		病態治療学分野	病態治療学特論Ⅰ	3404	2	30				30	
			病態治療学特論Ⅱ	3405	2	30				30	
			病態治療学演習	3406	6		90			90	
	基礎看護学	基礎看護学特論Ⅰ	3411	2	30				30		
		基礎看護学特論Ⅱ	3412	2		30			30		
		基礎看護学演習Ⅰ	3413	6		90			90		
	看護管理学分野	看護管理学・看護教育学特論Ⅰ	3414	2	30				30		
		看護管理学・看護教育学特論Ⅱ	3415	2		30			30		
		看護管理学・看護教育学演習Ⅰ	3416	6	90	90			180		
	発達看護学領域	母性・助産看護学分野	母性看護学特論Ⅰ	3242	2	30				30	
			母性看護学特論Ⅱ	3243	2		30			30	
			母性看護学演習Ⅰ	3251	6		90			90	
		小児看護学分野	小児看護学特論Ⅰ	3252	2	30				30	
			小児看護学特論Ⅱ	3253	2		30			30	
			小児看護学演習Ⅰ・A	3247	2	30				30	
			小児看護学演習Ⅰ・B	3248	2	30				30	
			小児看護学演習Ⅰ・C	3249	2		30			30	
			小児看護学実習	3250	6			270		270	
		成人看護学分野	成人看護学特論Ⅰ	3222	2	30				30	
			成人看護学特論Ⅱ	3223	2		30			30	
			成人看護学演習Ⅰ	3235	6	90				90	
		広域看護学領域	老年看護学分野	老年看護学特論Ⅰ	3225	2	30				30
				老年看護学特論Ⅱ	3226	2		30			30
老年看護学特論Ⅲ	3234			2	30				30		
老年看護学演習Ⅰ・A	3227			2		60			60		
老年看護学演習Ⅰ・B	3231			2		60			60		
老年看護学演習Ⅰ・C	3232			2		60			60		
老年看護学実習	3233			6		270			270		
精神看護学分野	精神看護学特論Ⅰ			3228	2	30				30	
	精神看護学特論Ⅱ		3229	2	30				30		
	精神看護学特論Ⅲ		3421	2		30			30		
	精神看護学演習Ⅰ・A		3422	2		60			60		
	精神看護学演習Ⅰ・B		3423	2			60		60		
	精神看護学演習Ⅰ・C		3424	2				60	60		
精神看護学実習	3425		10			450		450			
地域・在宅看護学分野	地域・在宅看護学特論Ⅰ		3431	2	30				30		
	地域・在宅看護学特論Ⅱ		3432	2	30				30		
	地域・在宅看護学演習Ⅰ		3433	3	90				90		
	地域・在宅看護学演習Ⅱ		3434	3		90			90		
里山・遠隔看護学分野	里山・遠隔看護学特論Ⅰ	3441	2	30				30			
	里山・遠隔看護学特論Ⅱ	3442	2	30				30			
	里山・遠隔看護学特論Ⅲ	3443	2		30			30			
	里山・遠隔看護学演習Ⅰ	3444	6		180			180			
	選択必修科目				看護学課題研究	3103	6		90	90	180
					看護実践課題研究	3104	2		30	30	60
共通選択科目				看護学原論	3501	1	15			15	
				フィジカルアセスメント	3502	2	30(集中講義)			30	
				家族看護論	3503	1	15(一部集中講義)			30	
				健康心理学特論Ⅰ	3504	2		30		30	
				質的研究方法論	3505	1	15			15	
				環境疫学特講	3304	1		15		15	
				言語文化特講Ⅰ	3506	2		30		30	
				保健・医療・福祉システム看護学特講Ⅰ	3307	2	30			30	
				量的研究方法論	3507	1		15		15	
				コミュニティ・デベロップメント論特講	3311	2	30(集中講義)			30	
				語法特殊講義	3314	2	30			30	
				看護海外研修	3315	1		15		15	
				看護臨床薬理学	3508	2	30			30	
				臨床病態学	3509	2	30			30	
				コンサルテーション論	3273	2	30(一部集中講義)			30	
				看護管理学	3262	2	30(一部集中講義)			30	
				看護教育・援助論	3261	2	30(一部集中講義)			30	
				女性と子どもの健康問題と看護	3241	2		30		30	
				遠隔看護論	3281	2		30		30	
				国際看護論	3202	1		15		15	

博士後期課程授業科目（平成 26 年度入学生）

授業科目				科目 番号	単位数	時 間 数			
						1年		計	
						前学期	後学期		
領域別分野専門科目 （6単位）	基礎看護学領域	基礎看護学分野	基礎看護学特論Ⅲ	AI01	2	30		30	
			基礎看護学演習Ⅱ	AI02	4		60	60	
		看護管理学分野	看護管理学・看護教育学特論Ⅲ	AJ01	2	30		30	
			看護管理学・看護教育学演習Ⅱ	AJ02	4		60	60	
	発達看護学領域	母性・助産看護学分野	母性看護学特論Ⅲ	AC01	2	30		30	
			母性看護学演習Ⅱ	AC02	4		60	60	
		小児看護学分野	小児看護学特論Ⅲ	AF01	2	30		30	
			小児看護学演習Ⅱ	AF02	4		60	60	
		成人看護学分野	成人看護学特論Ⅲ	AB01	2	30		30	
			成人看護学演習Ⅱ	AB02	4		120	120	
	広域看護学領域	老年看護学分野	老年看護学特論Ⅳ	AB03	2	30		30	
			老年看護学演習Ⅱ	AB04	4		60	60	
		精神看護学分野	精神看護学特論Ⅳ	AB05	2	30		30	
			精神看護学演習Ⅱ	AB06	4		60	60	
		地域・在宅看護学分野	地域・在宅看護学特論Ⅲ	AG01	2	30		30	
			地域・在宅看護学演習Ⅲ	AG02	4		120	120	
		里山・遠隔看護学分野	★ 里山・遠隔看護学特論Ⅳ	AH01	2	30		30	
			里山・遠隔看護学演習Ⅱ	AH02	4	60		60	
	共通選択科目 (4単位以上)			★ ケアの哲学	BA01	2	30		30
				健康心理学特講Ⅱ	BA11	2		30	30
				人類学的研究方法論	BA12	2	30		30
				感染生物学特論	BA13	2		30	30
				★ 言語文化特講Ⅱ	BA05	2	30		30
				健康科学特講	BA06	2		30	30
				★ 保健・医療・福祉システム看護学特講Ⅱ	BA14	2	30		30
				国際看護援助論	BA10	2		30	30
				生命科学特論	BA08	2	30		30
				病理病態学特論	BA15	2	30		30
				★ 現象学的研究方法論	BA16	2	30		30

第4節 看護実践国際研究センターの活動

概要

本学は、1995年（平成7年）長野県初の県立4年制大学として開学して以来、グローバル化する世界でのローカルとして地域を捉え、その地域への貢献を主眼にして、教育、研究を進めてきた。

「看護実践国際研究センター」は、看護学を発展させ、人々の健康に寄与できる研究についてのテーマと人と資金を集約し、本学の研究活動の拠点として位置づけ、社会における看護の先端領域課題の研究や実践に取り組んでいる。

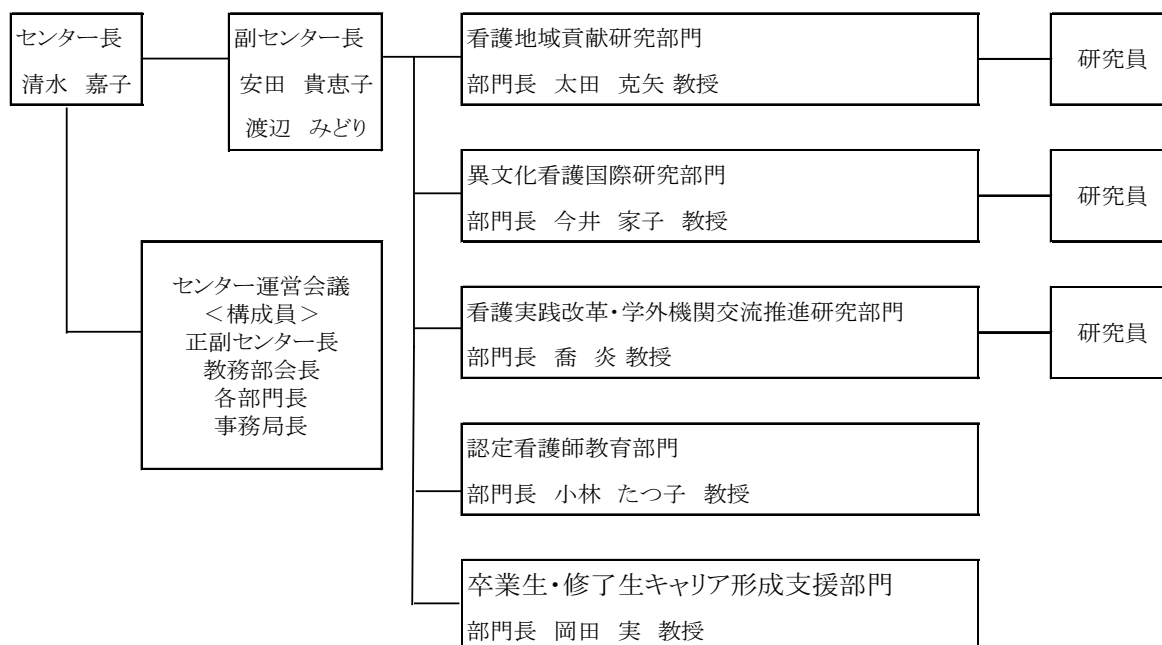
平成14年度に設立した当該センターは、看護の抱える諸課題に対応して、「看護地域貢献研究部門」、「異文化看護国際研究部門」、「看護実践改革・学外交流部門」の3つの研究部門を設置し、講座や分野などの専門的な枠を超え、また学外機関との交流などにより諸課題に対応してきたところであり、平成23年度には、新たに「認定看護師教育部門」及び「卒業生・修了生キャリア形成支援部門」の2つの部門を開設した。

認定看護師教育課程については、センターに当該部門を設置することにより、今まで積み重ねてきた大学の看護教育の実績を生かし、地域への質の高い看護の提供に資するものである。また、卒業生・修了生へのキャリア形成支援については、教育・研究機能を併せ持つことで、本学が卒業生・修了生の基地となり生涯にわたる人材育成と、それによる地域貢献に資するものである。

各部門とも、本学教員のほかに駒ヶ根市などの地方自治体やその関連団体などと連携し、取り組んでいる。

<長野県看護大学 看護実践国際研究センター 組織図>

（平成26年5月1日現在）



（1）看護地域貢献部門

1 所掌事項

- ・長野県を中心とした地域住民への、ケアの質ならびにウェルネス（最適な生活状態）の向上につながる、実践的な活動および研究を実施し、県民の疾病予防や健康増進等に寄与する。

2 活動と成果

1) 活動

- ・部門全体としての会議をプロジェクト長間で協議するほか、下記の4つのプロジェクトごとに活動を実施した。
- ・遠隔看護開発基盤研究プロジェクト
- ・高齢者水中運動講座プロジェクト
- ・終末期看護研究プロジェクト
- ・在宅療養者と家族のための移行期看護プロジェクト

2) 成果

- ・運動講座等のクラスの開催（81回、延べ参加人数総数約2000名）
- ・地域住民への体力測定会の実施（1回、総数139名）
- ・地域に対する研修会の実施（部門合計2日）
- ・学術論文の発表（部門合計4編）
- ・学会等への発表（部門合計1回）

3 今後の課題

1) 喫緊の課題（懸案事項）

- ・各プロジェクトの活動の質や量は、一定の高い水準を維持している。ただし、教員の異動などにより「看護職者の教育・支援プロジェクト」の活動をおこなうことができなかった。今後、部門全体として、「人員の確保」や「より合理的な運営」の再検討ならびにこれに必要な予算の再精査も必要である。

2) 将来的な課題

- ・地域に根付いた活動として、どのようなプロジェクトを推進または立案していくべきなのかを大学全体として再考・再構築していく必要がある。

（2）異文化看護国際研究部門

1 所掌事項

- 1) 実践活動: JICA 駒ヶ根青年海外協力隊訓練所等その他の学外機関と連携して、異文化に着眼した看護活動を発展させる。
- 2) 研究活動: 看護における異文化間の多様性を明らかにするとともに、看護の本質としての文化を超えた普遍性を共有するための研究を行って、世界に発信し、看護の学問体系の発展に寄与する。
- 3) 関係維持: 交流を通じて海外の教育・研究機関や研究者との協力関係を築き、深める。
- 4) 人材育成: 交流を通じて、教員・学生が研究者・実践者としての素養を身につけ、向上するための機会やつながりを提供する。

2 活動と成果

（1）本大学創立20周年記念国際シンポジウムの実働部隊としての活動

6月14日（土）に行われた本学の行事に実働部隊として活動した。前年度から進んでいた企画に沿い、前日の歓迎会、当日の会場設営、運営等を学内の協力を得ながら IRC メンバー総出で実施した。また、シンポジストの迎えから宿泊中のケア、見送りまで生活面のサポートをした。

300名近い参加者のアンケート結果で87%の方が満足したとの答えだった。

(2) サモア国立大学 (NUS) との交流

学部教育の一環としての「国際看護実習」が行われている。今年度はサモア訪問の年に当たり、8月3日から8月18日の2週間サモアでの実習をした。参加者は4年生4名、3年生2名、教員2名の計6名だった。今年度は首都アピアのあるウポル島と、今回初めて訪問したサバイイ島の二つの島の病院・地域で実習した。行く先々で過去に来日した多くの NUS の卒業生が実習に関わり有意義な実習・交流ができた。10年間の実績の積み重ねの重要性を確認した。NUS のエセタ学部長からこれまでの実習の成果を冊子にまとめようとの提案があり、今後取り組んでいく予定である。

(3) 多文化共生看護学の演習

2年生の必修科目になっている多文化共生看護学の演習として以下の実習があった。

1) 長野中央病院での在日外国人健診事業 平成26年12月17日

(主催：北信外国人医療ネットワーク)

本学から学生ボランティア3名と教員2名が協力した。来診者はアジア圏および中南米等から21名が参加、今回はベトナムの来診者が増えていた。健診の結果、要検査者が11名、栄養指導実施者が2名だった。

2) 長野日伯学園及び上伊那生協病院、看護大学合同収穫祭 平成26年10月25日

互いの文化を理解し合うゲーム、および日伯学園で収穫した「じゃがいも」を使って、メタボ予防の日・伯の料理を披露しあった。数種類の「いもち」を準備した本学の学生は明確な賛否両論を得て、対象の嗜好を理解する必要性と同時に「わかりやすい反応」による手ごたえを実感していた。実施後の学生へのアンケートでは、「『外国人』というくくりではなく一人一人を見ることが大事」、「勝手な先入観や偏見はよくない」、「外国人の暮らしにくさがわかった」、「自分たちと同じように医療を必要とし、それを受ける権利があることがわかった」等の記述が認められた。

(4) 日伯学園の親子に対する救急蘇生法の演習 (平成26年11月23日 (日))

本学から教員2名が参加し、AEDと救急蘇生用人形を用いて演習した。AEDは日本語でのアナウンスしかないが、日本語ができないからといって操作ができないのではまずい、とみんな熱心に学んだ。保護者への講習の後、親から子どもへ指導していただき和やかに講習を終えた。実践的かつ実用的な演習は大変好評だった。

(5) カリフォルニア大学サンフランシスコ校 (UCSF) 及びサンフランシスコ大学 (USF) との交流 (平成27年2月28日～3月7日)

UCSF 及び USF における研修は、大学院「看護海外研修」科目としての位置づけもある。この科目を履修した学生3名(博士 前期課程学生2名、後期課程学生1名)に加え、教員3名が同行した。USF においては、大学院生の研究プレゼンテーションとディスカッションが行われ好評であった。その他フィジカルアセスメント、コミュニティ・メンタルヘルスなどの授業、シミュレーション教育に参加した。

UCSF においては、アメリカに置ける CNS、NP 教育の現状の講義の他、大学院授業である小児看護系の授業 (Child Health faculty) と成人・老年看護系の授業 (Adult & Geriatric faculty) を聴講した。両大学ともに約180～200名の修士課程学生教育を行っており、シミュレーション教育とディスカッション形式の授業を積極的に展開していた。

(6) 長野県看護大学・異文化看護ニューズレター8号の発行

今年度は本学創立20周年記念行事に参画したことを中心に報告したいと考え、
ニューズレター8号を発刊する。3月中に印刷、4月発送の予定。

3 今後の課題

(1) 喫緊の課題（懸案事項）

- 1) 国際看護実習では27年度はサモアから学生受け入れ年になる。25年度同様大学全体での受け入れに取り組めるよう準備していきたい。
- 2) 肥満予防に関するNUSとの共同研究を再開する必要がある。

(2) 将来的な課題

- 1) NUSとの10年間の交流の歴史は貴重なものである。双方の元実習生同士が交流できる同窓会のようなものが作れないかとの提案もあり今後の検討課題としたい。
- 2) 定住外国人の増加に対応した支援の実践と研究をより充実させるための具体的な方法を考える必要がある。

(3) 看護実践改革・学外機関交流推進研究部門

1 所掌事項

本部門は、本学の「知の活用」を図って、以下の①②の目的に基づく学外機関との交流を推進するための窓口として活動している。

- ① 病院、診療所や自治体等の看護現場との共同研究を実施することにより看護実践改革を推進すること。
- ② 企業、自治体、研究機関等との共同研究・受託研究等を実施することにより地域社会に貢献すること。

2 活動と成果

(1) 共同研究・受託研究の窓口としての活動とその後の研究の発展

- 1) 健康保健学分野の北山秋雄教授らの「遠隔看護システム機器の開発」事業は継続で行われている。
- 2) 基礎医学・疾病学分野が開発した「顕微鏡ーデジタルカメラ三位一体観察システム」は県総合教育センターと株式会社大島山機器と正式の契約を結び、共同研究を進んでいる。
- 3) 基礎医学・疾病学分野の行われた温泉研究（みのわ温泉との共同研究）は論文として英文ネット誌 PLoS One にて発表した。

また、「おむつセンサーの開発」事業も引き続き行われている。

(2) 「スマート看護・福祉研究会」での講演会と情報交換

今年度も引き続き「スマート看護・福祉研究会」の活動に参加している。5回の定例会において、福祉機器やリハビリテーション装置の開発に関して大学教員・医師から、また開発された機器に関して参加企業の責任者から講演会が開催され、意見交換を行った。

うち第1回の定例会は9月25日（木）に本学において開催され、学内外から49名が参加された。本学の清水学長から「本学における産学連携の模索」講演が行われ、部門長の喬から「看護教育研究現場のアイデアから応用までの実体験——産業界への期待」を講演した。また、新しい試みとしてアイデア交換や企業の展示コーナー

を設け、教員と企業との活発な情報交換が行われた。

(3) 長野県における産学官連携団体への参加と産学官連携に関連する情報の提供

本年度も引き続き、「信州産学官連携機構」ならびに「信州メディカル産業振興会」に参加している。これらの団体などからの 講座・セミナー・フォーラム開催案内などの情報提供を教職員に行った。

3 今後の課題

現在、本部門では主に産学連携事業が中心となっている。他大学では自治体と協定を結んで大規模な学官連携の事業も行われており、本部門の役割も新たな段階に入ろうとしている。看護学の先進的研究・教育機関である唯一の県立大学として、地域とともに更なる発展を目指して活動全体を見直していく必要がある。

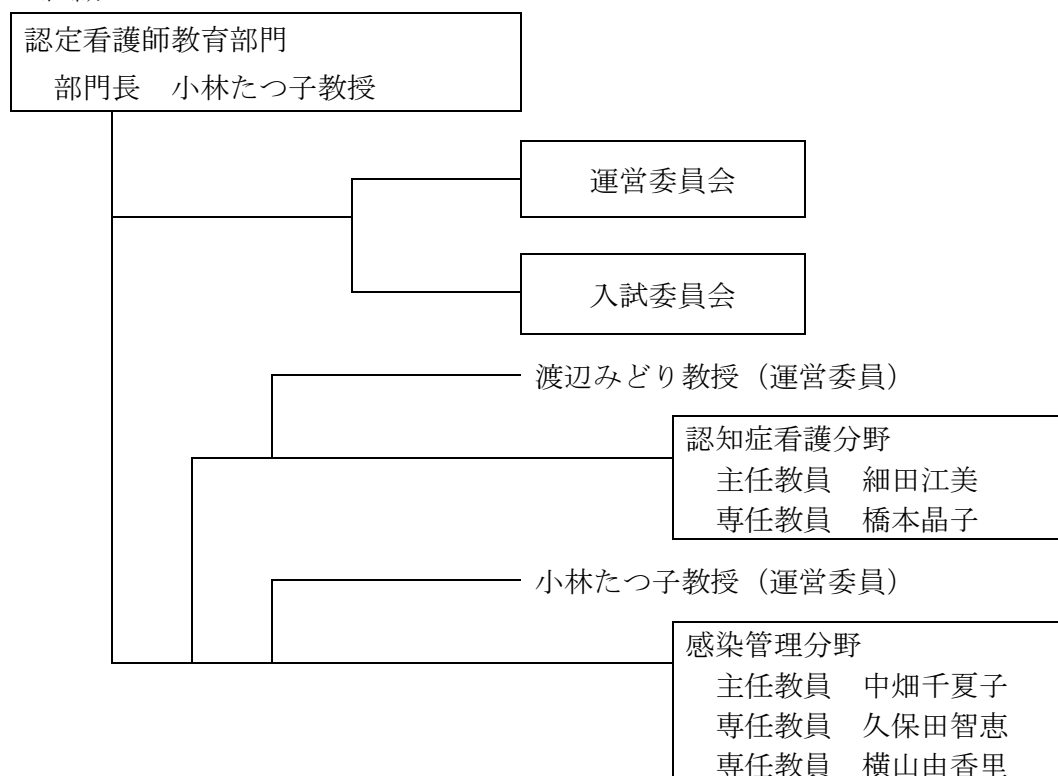
(4) 認定看護師教育部門

I. 所掌事項

- 1) 認定看護師教育課程における運営に関する検討と決定(運営委員会)
- 2) 募集, 入試に関する検討と決定(入試委員会)
- 3) カリキュラムおよび実習の内容に関する検討と決定(教員会議及び運営委員会)
- 4) 非常勤講師の選定と決定(教員会議及び運営委員会)
- 5) 実習病院の選定と決定(教員会議及び運営委員会)
- 6) 受講生の生活に関すること(教員会議)
- 7) 閉校, 開講に関する検討と決定(教員会議及び運営委員会)
- 8) 運営会議下部組織 教員会議の運営

II. 活動と成果

1. 組織



2. 運営委員会名簿と会議の概要

1) 運営委員会名簿

氏名	所属等	
清水嘉子	学長（看護実践国際研究センター長）	委員長
安田貴恵子	学部長（看護実践国際研究副センター長）	委員
渡辺みどり	研究科長（看護実践国際研究副センター長）	
小林たつ子	基礎看護学講座 教授（看護実践国際研究センター認定看護師教育部門長）	
細田江美	認定看護師教育部門 主任教員（認知症看護分野）	
橋本品子	認定看護師教育部門 専任教員（認知症看護分野）	
中畑千夏子	認定看護師教育部門 主任教員（感染管理分野）	
久保田智恵	認定看護師教育部門 専任教員（感染管理分野）（厚生連篠ノ井総合病院）	
横山由香里	認定看護師教育部門 専任教員（感染管理分野）（県立こども病院）	
小山久子	長野県看護協会 常務理事（本学の教員以外で学長が委嘱する委員）	
加藤祐美子	丸の内病院 看護部長（本学の教員以外で学長が委嘱する委員）	
岡田幸子	長野赤十字病院 認知症看護認定看護師（本学の教員以外で学長が委嘱する委員）26年9月まで	
櫻井直美	昭和伊南総合病院 認知症看護認定看護師（本学の教員以外で学長が委嘱する委員）26年10月より	
吉川篤明	看護大学 事務局長	事務局
上田穂積	看護大学事務局 次長兼総務課長	
大日方隆	看護大学事務局 教務・学生課長	
斉藤秀樹	看護大学事務局 教務・学生課 課長補佐	
長野恵理子	看護大学事務局 認定看護師教育課程担当	

2) 会議開催日と協議事項の概要

回	月日	時間	協議事項概要
1	4月22日 (火)	13:00 ～ 14:00	(1) 認定看護師教育部門の組織図 (2) 非常勤講師について (3) 受講生について（感染管理16名、認知症看護15名） (4) 25年度受講生の復学について (5) 開講式について (6) 受講要領の一部改正について (7) 教育課程の準備の進捗状況について
2	5月27日 (火)	13:00 ～ 14:10	協議・報告事項 (1) 時間割について (2) 平成26年度開講式実施計画について (3) 平成25年度決算状況等について 平成26年度の決算見込みについては約400万円の赤字になりそう (4) 送迎バスについて 26年度も2,050円の個人負担で送迎バスを運行する (5) 看護師の派遣に関する協定について (6) 認定看護師教育機関認定確認について 今年度は、認知症看護分野で認定確認が実施される。6月30日までに申請を行うこと。
3	7月22日 (火)	13:30 ～ 15:00	協議・報告事項 (1) 認定審査結果及び認定看護師教育機関合同会議について 感染管理：受験者18 合格者16（ともに過年度生1を含む） 認知症看護：受験者18 合格者18（健康上の理由から不受験） (2) 平成27年度受講生募集説明会について (3) 平成26年度受講生の状況について (4) 実習について 説明会は9月9日、報告会は感染管理分野12月15日、認知症看護分野12月16日に開催。

			(5) 認定看護師教育課程の現状について 県内の認定看護師（感染管理、認知症看護）は増加してきているが、どの程度の人数を確保すればよいのかは不明確。一方で、受講生が減少傾向、今年度の運営は赤字が予想されている。加えて、教員の確保が非常に難しくなっている。来年度は開講するにしても、28年度どうするかについては、県と意見交換をしながら検討していきたい。 (6) 認定看護師教育課程の外部委員について 現在、外部委員をお願いしている小島委員が体調を崩してしまい、派遣元の看護部長に確認したところ、当面復帰が見込めないため、代替りの委員を探して欲しいとの事であったため、認知症を担当する別の委員を選任する事にした。⇒候補者：昭和伊南総合病院の櫻井直美さん (7) その他 小山委員から、日本看護協会が認定看護師教育課程の分野を細分化する一方で、現場で働く人間にメリットがなくビジョンが見えてこないという状況について説明があった。
4	10月14日 (火)	13:30 ～ 14:30	* 櫻井委員への人事通知書の交付。 協議・報告事項 (1) 平成27年度受講生募集説明会の参加者について 感染管理分野参加者：9名 認知症看護分野参加者：4名 (2) 実習の可否に関わる成績について 退・休学者を除き臨地実習に参加する事が了承された。実習前に各受講生と面接が予定されている。 (3) 受講生の状況について 感染管理分野では、1名が退学し、休学中の1名も退学予定である。 認知症看護分野では、1名が退学した。 (4) その他 細田主任教員から、11月13日（木）に日本看護協会による認定確認があるとの報告があった。
5	11月20日 (木)	15:50 ～ 16:10	協議・報告事項 (1) 平成26年度認定看護師教育課程修了式実施計画（案）について 修了生は、感染管理分野14名、認知症看護分野14名の計28名を予定。 (2) 受講生の現状について 感染管理分野：実習が来週で終了する。実習には特に問題はない。科目試験でふるわない者が1名いる。修了試験が難しい可能性がある。 認知症看護分野：実習が来週で終了する。2名に不安がある。 (3) その他 細田主任教員から、11月13日（木）に日本看護協会による認定確認があったとの報告があった。特に、シラバスで使用している文言が基準カリキュラムに該当しているかのチェックが行われた等の報告があった。
6	12月11日 (木)	13:30 ～ 14:20	協議・報告事項 (1) 実習の可否について 感染管理分野：14名全員が「優」又は「良」で合格とする。なお1名については、指導者の評価が「4」であったが、大学の教員の判断で「良」とした。 認知症看護分野：指導者の評価が「D」又は「保留」となっている者がいるが、今後フォローアップや「実習記録」「ケースレポート」を採点する中で、全員が合格となる見込み。 (2) 実習報告会について 感染管理分野：12月16日（火）10時～15時10分まで、大講義室。 認知症看護分野：12月15日（月）10時～15時50分まで、中講義室2。 (3) 27年度受講生募集の周知状況について 一次募集の受講審査の結果、感染管理分野で5名、認知症看護分野で3名の欠員となっている。二次の募集要項は、県内全病院、全老健のほか、近隣県の200床以上の病院200余へ送付する。 (4) 受講生の状況について 感染管理分野：現在、報告会の準備中であるが、1月8日の修了試験に向けての勉強に入っている。 認知症看護分野：修了試験の日程は、感染管理分野と同じ。現在は、来週期限のレポートを作成中。 (5) その他 修了式の1月29日に、祝賀会が開催されとの報告があった。

7	平成 27 年 1 月 22 日 (木)	13 : 30 ～ 13 : 55	協議・報告事項 (1) 修了試験結果について 感染管理分野：本試験で 3 名，再試験で 11 名が合格点に達し，協議の結果，受講生 14 名を修了とした． 認知症看護分野：再試験で 8 名，再々試験で 6 名が合格点に達し，協議の結果，受講生 14 名を修了とした． (2) 修了式について 1 月 29 日に開催 (3) 26 年度修了生のフォローアップ研修について
8	平成 27 年 2 月 20 日 (金)	14 : 40 ～ 15 : 00	協議・報告事項 (1) 二次募集試験結果について 感染管理分野：受験生 6 名のうち 5 名が合格となった．一次試験の合格者 14 名と合わせて合格者は計 19 名，そのうち県内者は 5 名である． 認知症看護分野：受験生 6 名のうち 5 名が合格となった．一次試験の合格者 17 名と合わせて合格者は計 22 名，そのうち県内者は 7 名である． (2) 受講、修了状況について (3) 26 年度部門運営委員会及び入試委員会について 事務局のメンバーは 3 月末にならないと確定しないとの事．また，清水学長から，今期で終了する加藤委員の替わりの委員を 4 月までに探すとの報告があった． (4) 27 年度受講生への案内送付について (5) その他 学長から，27 年度を目途に修了生の活動実態調査を実施したいとの提案があった（特に 5 年目を迎える感染管理分野） 細田主任教員から，昨年 11 月に実施された認定確認の結果について日本看護協会から連絡があり，適正に運営されているがシラバスに記載する科目等については注意するようにとの事であった．

3. 入試委員会会議の概要

1) 入試委員会名簿

氏名	所属等	
安田貴恵子	学部長(看護実践国際研究副センター長)	委員長
渡辺みどり	研究科長(看護実践国際研究副センター長)	委員
小林たつ子	基礎看護学講座 教授 (看護実践国際研究センター認定看護師教育部門長)	
細田江美	認定看護師教育部門 主任教員(認知症看護分野)	
橋本品子	認定看護師教育部門 専任教員(認知症看護分野)	
中畑千夏子	認定看護師教育部門 主任教員(感染管理分野)	
久保田智恵	認定看護師教育部門 専任教員(感染管理分野)	
横山由香里	認定看護師教育部門 専任教員(感染管理分野)	
小山久子	長野県看護協会 常務理事 (本学の教員以外で学長が委嘱する委員)	
加藤祐美子	丸の内病院 看護部長(本学の教員以外で学長が委嘱する委員)	
岡田幸子	長野赤十字病院 認知症看護認定看護師 (本学の教員以外で学長が委嘱する委員) 26 年 9 月まで	
櫻井直美	昭和伊南総合病院 認知症看護認定看護師 (本学の教員以外で学長が委嘱する委員) 26 年 10 月より	事務局
吉川篤明	看護大学 事務局長	
上田穂積	看護大学事務局 次長兼総務課長	
大日方隆	看護大学事務局 教務・学生課長	
斉藤秀樹	看護大学事務局 教務・学生課 課長補佐	
長野恵理子	看護大学事務局 認定看護師教育課程担当	

2) 入試委員会開催日と協議事項概要

回	月日	時間	協議事項概要
1	7月22日 (火)	15:00 ～ 15:10	協議・報告事項 (1) 27年度認定看護師教育課程受講生募集要項(案)について 認知症看護分野の「出題形式・内容」に若年性認知症に関する記述を加える事で、募集要項(案)が了承された。
2	10月14日 (火)	14:30 ～40	協議・報告事項 (1) 27年度受講試験の日程及び実施組織について
3	11月20日 (木)	15:20 ～ 15:50	協議・報告事項 (1) 27年度受講審査(選抜試験)の結果について 11月20日に実施した。 感染管理分野: 受験生18名(申込は19名) 平均点は53.9点, 面接試験は全員がA、Aの判定。 認知症看護分野: 受験生19名(申込は19名) 平均点59.2点, 面接試験は1名B判定がいる。 協議の結果, 感染管理分野は筆記試験17位、18位(最下位)を不合格とし, それ以外は合格。うち県内者は3名。認知症看護分野は全員を合格。うち県内者は5名。 (2) 27年度受講生の二次募集について 募集要項(案)が了承される。 募集人員: 両分野とも5人程度(今回の試験結果を受け, 昨年の「10人程度」から変更) 出願期間: 平成27年1月30日～2月10日まで 試験日: 平成27年2月20日
4	平成27年 1月22日 (木)	14:55 ～ 15:20	協議・報告事項 (1) 平成27年度受講2次試験の日程及び実施組織について 2月20日に実施する2次試験の組織体制等について説明があり了承された。尚, 2次募集の要項は11者から請求があり, うち県内者は1者であった。 (2) その他 渡辺研究科長から, 都道府県別の対人口比の認定看護師数について説明があった。 長野県の状況 認定看護師全体: 全国第4位、感染管理分野: 全国第3位, 認知症看護分野: 全国第2位
5	平成27年 2月20日 (金)	14:00 ～ 14:30	協議・報告事項 (1) 2次募集受講審査の結果について 感染管理分野: 受験生6名のうち5名が合格となった。一次試験の合格者と合わせ合格者は計19名。 認知症看護分野: 受験生6名のうち5名が合格となった。一次試験の合格者と合わせ22名。 (2) その他 3次募集はしない

4. 実習病院一覧と実習指導者

1) 認知症看護分野の実習病院は以下のとおりである。

病院名	住所
JA 長野厚生連北信総合病院	長野県中野市西1-5-6 3
薫風会山田病院	東京都西東京市南町3丁目4番10号
東京都健康長寿医療センター	東京都板橋区栄町35番2号
京都南病院	京都市下京区西七条南中野町8番地
社会福祉法人青祥会	滋賀県長浜市加田町3360
上飯田第一病院	名古屋市北区上飯田北町2丁目70番地
岐阜市民病院	岐阜県鹿島町7丁目1番地

2) 感染管理分野の実習病院は以下のとおりである。

病院名	住所
信州大学医学部附属病院	松本市旭 3-3-1
長野県立須坂病院	須坂市大字須坂 1 3 3 2
安曇野赤十字病院	長野県安曇野市豊科 5 6 8 5
飯田市立病院	飯田市八幡町 4 3 8
社会医療法人栗山会 飯田病院	飯田市大通 1 丁目 1 5 番地
伊那中央病院	伊那市小四郎久保 1 3 1 3-1
昭和伊南総合病院	駒ヶ根市赤穂 3 2 3 0

Ⅲ. 受講生の状況

1. 25 年度生認定資格審査合格者

25 年度生は感染管理分野 17 名、認知症看護分野 19 名が全課程を修了した。平成 26 年 5 月に実施された第 22 回認定看護師認定審査で感染管理分野 15 名、認知症看護分野 18 名（1 名、体調不良により未受験）、計 33 名が合格した。これは、受講生の努力と教員による修了後のフォローアップ研修の効果によるものと考えられる。

2. フォローアップ研修

修了生は 2 月からは勤務先で通常業務につき、仕事の傍ら試験勉強に励むことになるが、単独の勉強では限界があるため、修了生向けに定期的にフォローアップ研修や模擬試験等を実施した。フォローアップ研修は修了後、資格審査を受ける 5 月まで 2~3 回程度行う。

これ以外にも、検討会や活動報告会などを開催し、修了生の活動を支援している。

3. 受講生の状況

感染管理分野で 2 名、認知症看護分野で 1 名、退学者があった。3 名とも健康上の理由によるものである。

4. その他

昨年度と同様、多忙を極める非常勤講師の講義は松本市にある長野県看護協会会館などで行われた。駒ヶ根から松本までの移動には貸切バスを用意したが、その費用の一部を受講生が負担せざるを得ず、経済的に厳しい状況を訴える受講生も少なくなかった。この点については今後の課題となった。

認知症看護分野は、適切な実習施設が県内には少なく、東京、東海地方に集中した為、教員や受講生の負担が大きかったと考える。

5. 今後の課題

- ・受講生に合わせた実習病院の選定
- ・松本会場の利用に関する検討（バスの移動に疲れる、時間がかかるなど、使用料の問題）
- ・成績の下位の受講生へのフォローアップ
- ・修了式後から資格審査試験までのフォローアップ体制
- ・長野県内の受講生が減少傾向にあることから、継続的なニーズ調査によって、長野県に貢献できる分野を検討する必要がある。
- ・全国の認定看護師養成課程の開校分野と応募者数推移の関連についての分析が必要。

(5) 卒業生・修了生キャリア形成支援部門

1 所掌事項

- ①教育・研修機会の提供及び研究活動に係る支援
- ②進学、転職等に係る相談及び情報の提供
- ③大学ホームページ等を活用した情報交換の場の提供
- ④その他、卒業生・修了生のキャリア形成支援に関する調査・研究

2 活動と成果

(1) 活動

【活動目標】

看護実践の基盤となる看護学は、看護実践体験を通して研鑽を重ね、生涯にわたって専門性を探求する学問である。本学で看護学を修めた卒業生・修了生が、その後も実践を通して大学との交流を継続できるよう、「魅力的な基地」づくりを目指す。

さらに、卒業生・修了生の信任期における職場定着や看護職としてのキャリア形成支援に取り組み、大学としての地域貢献の役割を果たしていく。

【部門会議】

平成 24 年度から安田教授を部門長に活動が開始され、平成 26 年度には岡田教授が部門長を担当し活動が引き継がれた。この年度の部門員は、部門長を含めて太田教授、藤原准教授、赤羽助教、唐澤就職支援員、篠原学生相談員の 6 名で、主に『平成 25 年度卒業生あつまれ！』の企画を中心に活動が行われた。このために開催された部門会議は以下の通りである。

第 1 回 平成 26 年 6 月 16 日	・「平成 24 年度卒業生あつまれ！」に参加した卒業生のアンケート結果の検討 ・「平成 25 年度卒業生あつまれ！」の企画内容の検討 ・今年度は新人研修体制の満足度を調査する内容をアンケートに加えることの検討
第 2 回 平成 26 年 7 月 29 日	・「平成 25 年度卒業生あつまれ！」企画の最終的な役割分担の確認 ・新人研修体制の満足度を調査する内容を加味したアンケートの作成

上記 2 回の部門会議の他、随時、メールによる情報交換と会議を行った。

(2) 成果

① 卒業生支援

学部卒業生 1 年目に対する支援として「平成 25 年度卒業生あつまれ！」を企画し、平成 26 年 9 月 20 日（土、鈴風祭初日 15:00～16:30）に実施した。当日は部門員の他、学長・学部長をはじめ学内教職員の協力参加も得られた。今年度は卒業生 54 名（卒業生 52 名と在校生 2 名、昨年度は 48 名）が参加し、アンケートには 47 名が回答（回収率 87%）した。この時期の開催について、「職場にも慣れ少し落ち着いてきて、皆とも会いたい時期」で「鈴風祭に参加でき後輩とも会える」と参加者全員に好評であった。今年度は卒業生の参加のしやすさを考慮して、就職した職場長宛てに文書で「平成 26 年度卒業生あつまれ！」の企画案内と卒業生参加の協力依頼を行った。その結果、「病院に通知が来て休日取得の協力をしてくれた」など、職場からの配慮が得られ参加しやすかったとの反響が多かった。企画内容は 40 名が「期待通り」と答え、「近況報告を通じて皆と同じ気持ちであることが分かって安心した」「職場では独り立ちに向けて不安もある時期なので、この時期に集まり共有できることはいいこと」と回答した。今後については、「このような同窓会企画があればうれしい」

「OB と在校生が集まり楽しめる企画」「食事会を開いて欲しい」など、内容を工夫してこうした企画を継続して欲しいとの意見が寄せられた。

② 調査研究

目的：「卒業生あつまれ！」のアンケート内容に、職場で実施されている「新人研修の体制」に関する内容を加味し、本学卒業生が職場で受けている新人研修の実際を知り、学部生及び卒業生に対する今後のキャリア形成支援を検討する資料とする。

調査内容：①施設病床数、②職場の新人看護職員を支える組織体制、③支援に対する満足度、④研修プログラムの満足度、⑤夜勤シフト従事の有無、⑥職場の対人関係や雰囲気、⑦職場決定に際し学部生に伝えたいことなど 9 項目。

結果：回収率及び卒業生内訳：87%，看護師 38 名（80.9%），助産師 7 名（14.9%），保健師 1 名，**新人看護職員を支える組織体制**：プリセプターシップ 29 名（46.0%），チーム支援型 17 名（27.0%），チューターシップ 9 名（14.3%），メンターシップ 6 名（9.5%），**満足度**：先輩看護師に恵まれた 35 名（77.8%），必ずしも恵まれたといえない 9 名（20.0%），**新人研修プログラムの入職前後の比較**：説明を受けていた通り 14 名（30.4%），概ね説明通り 28 名（60.9%），かなり違っていた 4 名（8.7%）〔ラダー制で手厚いと聞いていたが結構手薄/新人離職率 0%と言っていたのに 15～20%だった/予定していたがなぜか行われなかった研修もあった〕，**新人研修プログラムの満足度**：大変満足 3 名（6.5%），概ね満足 36 名（78.3%），不満 7 名（15.2%）〔病棟スタッフが新人研修プログラムを周知していないのでフォローが手薄/研修内容が配属病棟にあっていない/先輩は忙しそうで相談しにくい〕，**夜勤シフトの開始状況**（9 月時点）：夜勤に入っている 33 名（73.3%），入っていない 11 名（24.4%），**職場の雰囲気と満足度**：対人関係よく仕事が楽しい 10 名（22.2%），対人関係はいいが仕事が楽しいとは言えない 23 名（51.1%），対人関係よいとは言えないが仕事して割り切っている 11 名（24.4%），うち「不満が多く他の職場に移りたい」が 5 名．**職場決定に際して学部生に伝えたいこと**：職場の決め手として，雰囲気（4），新人教育体制（3），見学や説明会（3），給与・休暇などの福利厚生やインターンシップ（5）

考察：卒業生の 8 割弱が先輩看護師に恵まれ，研修プログラムも 9 割程度が当初の通りに実施され 8 割程度の満足が得られている．概ね手厚い支援体制に支えられているように伺われる．7 割以上が 9 月時点で夜勤のシフトに入っており，夜勤帯での患者の急変や数名の患者を受持つことに多くの卒業生が不安を抱えていた．このような気持ちを本企画で同期生と共有できたことは有意義であった．本調査結果を今後のキャリア形成支援に役立てていきたい．

上記の調査研究は，「平成 25 年度長野県看護大学研究集会」にて部門活動として発表（発表者：赤羽助教）された．

3 今後の活動

（1）喫緊の課題（懸案事項）

- ・今後も「卒業生あつまれ」の企画を継続し，卒後 1 年目の新社会人の交流を高い参加率を維持しながら促進する．
- ・卒業生の参加費は無料で学内のカンパで運営されている（総額 7,000～8,000 円）が，今後は若干の参加費の徴収を検討する．

（2）将来的な課題

- ・卒業生に対する長期的な支援策を視野に入れ，その具体策を検討する．

第5節 健康センターの活動

1 概要

近年、精神的な問題や不調を抱える人々は増加傾向にあり、職場におけるメンタルヘルスの維持・増進は喫緊の課題となっている。

本学においても治療や長期休養の学生・教員等が増えている現状を踏まえ、比較的早期の段階から専門的に関与していく機関として、2010年11月に「健康センター」を設置した。学生や教員を対象とした相談業務の本格的な運用は、2011年4月から実施している。

健康センターでは、精神的な問題や不調を抱えている人に対して、治療の必要性の有無を判断し医療につなげること、また現在、治療を受けている学生や教員の場合は、症状の重症化、長期化を防ぎ、早期回復に向けた支援を行うことを目的に、次に掲げる業務を実施している。

- (1) 学生・教職員からの相談・指導
- (2) 学年顧問など他の相談窓口からの相談への対応
- (3) 休学・休職中の人への復学・復職に向けた支援
- (4) 学内外における心の健康づくりに関すること

2 実績

- ・学生および教員からの相談に対しては「積極的傾聴」をこころがけ対応している。
- ・相談内容によっては、定期的な面接を行い、年単位でフォローアップしている。
- ・特に困難事例においては、複数で構成された健康センター運営会議で協議し、対応方針を決定している。
- ・相談内容によっては、医療機関への橋渡しの役割を担う。精神疾患を持つ学生等に対しては、定期的に受診状況を把握し、必要があれば主治医と連絡調整を行っている。
- ・相談内容によっては、学年顧問（学年担任）や授業担当教員、教務・学生課（保健室含む）と情報交換をし、精神症状を考慮した履修相談にも関わっている。
- ・相談時には必ず同意書に記入してもらい、プライバシーの保護に留意している。
- ・年に一度、学内の心の健康づくりに関連する研修会を企画・運営している。
- ・心身の不調を呈する教職員に対しても、定期的な面談を通して支援を行っている。

○健康センター利用状況（2013年4月～2014年3月）

年 月	2013									相談内容は複数		
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
区分												
<相談総数(延べ)>	10	7	13	19	10	18	23	13	21	5	11	4
内 学生	3	6	5	8	2	9	18	7	15	3	8	4
内 教員	7	1	7	10	7	7	5	5	6	2	3	0
内 学外			1	1	1	2		1				
<相談内容>												
病状確認および療養指導	1	1	5	4	4	4	11	5	10	0	2	0
対人関係の悩み	5	3	3	6	6	2	8	6	3	0	1	0
家庭環境の悩み	1	1	1	1	0	0	0	0	2	0	1	0
履修についての悩み	2	4	2	4	1	4	5	6	3	1	1	0
復職支援	1	1	4	3	2	7	0	0	0	0	0	0
その他	1	1	3	5	2	4	7	4	7	4	6	4

3 課題及び方策

学生対応において、家族を含めた対応を要する事例には学生の自律性を損なわないように配慮しているが、家族との関係性に問題がある場合など、その関わりのバランスが難しい。基本的に生命の危機が予見される場合等は同意書に記載されている連絡先に報告しているものの、そのサポート体制が脆弱なこともあり、今後課題を残す。

第3章 教員の研修・研究、社会活動

第1節 研修

(1) 国内研修

平成26年度に本学教員が国内で受けた研修は、延べ52件であった（表1-1）。

（表1-1） 本学教員が受けた国内研修（五十音順）

氏名	開催年月	研修会名	開催場所
足立美紀	平成26年7月	長野県小児保健協会市民公開シンポジウム「食物アレルギー」	安曇野市
	平成26年7月	小児看護学会第24回学術集会共催セミナー「目で見るとんかん」	東京都
東 修	平成26年4月	アサーティブ・トレーニング基礎講座	東京都
	平成26年8月	CBTセミナー「認知行動療法入門」	名古屋市
	平成27年1月	CNSキャリアアップセミナー「CNSの役割開発・役割獲得」	東京都
	平成27年2月	CBTセミナー「弁証法的認知行動療法と行動連鎖分析」	名古屋市
有賀美恵子	平成26年6月	第1回児童・思春期こころの学習会	駒ヶ根市
	平成26年9月	思春期保健学習会	伊那市
	平成26年10月	第2回児童・思春期こころの学習会	駒ヶ根市
伊藤佑季	平成26年10月	臨床指導者研修会	松本市
	平成27年1月	第25回昭和伊南 ICLS コース	駒ヶ根市
井村俊義	平成26年7月	ケア集団ハートビート「イタリアにおけるターミナルケア」	松本市
上條こずえ	平成26年12月	ケアの現象学的研究—方法と実践	東京都
柄澤邦江	平成26年4月	退院支援・外来在宅支援研修会	東京都
	平成26年5月	管内保健師研修会（地域包括ケアシステム）	伊那市
	平成26年5月	日本保育学会（子どもの虐待、保育所看護）	大阪市
	平成26年6月	認知症初期集中支援チームと地域ケアづくり	名古屋
	平成26.10月	仙台市近郊被災地訪問	仙台市
	平成26年10月	地域・在宅ケア懇談会	東京
	平成26年11月	県看護研究学会（在宅看護）	松本市
	平成26年11月	介護技術研修会	伊那市
近藤恵子	平成26年12月	現象学的看護研究方法	東京都
酒井久美子	平成26年5月	管内保健師研究会 地域包括ケアシステムについて	伊那市
塩澤綾乃	平成26年9月	母乳育児支援を学ぶ甲信越教室 in 長野	長野市
	平成26年11月	母乳育児支援セミナー	東京都
	平成26年12月	母乳育児支援セミナー	東京都
	平成27年2月	母乳育児支援セミナー	東京都

曾根千賀子	平成 27 年 1 月	人材育成講座 臨床研究セミナー 「第 18 回 医薬品医療機器総合機構 (PMDA) における審査業務」	名古屋市
	平成 27 年 1 月	人材育成講座 臨床研究セミナー 「第 19 回 薬事戦略相談の事業概要とその活用」	名古屋市
田中真木	平成 26 年 11 月	JJNS セミナー“Improving Your Success at Publishing in English 2014”	東京都
中林明子	平成 26 年 5 月	管内保健師研修会(地域包括ケアシステム)	伊那市
	平成 26 年 11 月	日本在宅看護学会シンポジウム「在宅看護実習はどうあるべきか」	東京都
	平成 26 年 11 月	介護技術研修会	伊那市
西垣内磨留美	平成 27 年 3 月	学生獲得セミナー 「グローバル時代/18 歳人口激減時代の広報」	東京都
西村理恵	平成 26 年 12 月	長野県看護協会助産師職能研修「産科救急の対応」	松本市
	平成 27 年 2 月	静岡大学人文学部 リプロダクション研究会 アジアのジェンダーとリプロダクション	東京都
	平成 27 年 3 月	厚生労働省科学研究成育疾患克服次世代育成基盤研究事業発表会「子どもが健やかに育つみらいのために」	東京都
藤原聡子	平成 27 年 1 月	順天堂大学大学院学位審査のための論文プレゼンテーション	東京都
松本淳子	平成 26 年 6 月	日本音楽知覚認知学会平成 26 年度春季研究発表会チュートリアル「精神物理学的測定法における音刺激の制御と測定」	長久手市
	平成 26 年 9 月	日本心理学会第 78 回大会チュートリアルワークショップ「タダでできる、マルチレベル構造方程式モデリング入門」	京都市
	平成 26 年 9 月	日本心理学会第 78 回大会チュートリアルワークショップ「音声研究入門」	京都市
	平成 26 年 9 月	日本心理学会第 78 回大会チュートリアルワークショップ「心拍変動バイオフィードバック法」	京都市
	平成 26 年 10 月	日本認知症ケア学会第 45 回教育講演	長野市
	平成 26 年 10 月	日本心理研修センター秋季研修会 諸領域における心理支援の知識と課題「司法・矯正領域における心理職の役割と課題」	摂津市
	平成 26 年 11 月	日本教育心理学会第 56 回総会研究委員会企画チュートリアルセミナー1「教育・臨床実践のための介入効果の解析と評価」	神戸市
	平成 26 年 11 月	日本教育心理学会第 56 回総会研究委員会企画チュートリアルセミナー2「発達障害のある大学生への『合理的配慮』とは何かーエビデンスに基づいた配慮を実現するためにー」	神戸市
	平成 27 年 2 月	発達障害ネットワーク (JDD net) 発達障害支援人材育成研修会 2014 (後期)「第 2 回 明日から役立つ就学前の発達障害支援」	神戸市
宮越幸代	平成 26 年 6 月	JICA 国際協力機構; 国際緊急援助隊医療チーム「中級研修」全 2 回 (ロジスティックス・マネジメント、課題検討会)	神戸市 東京都
	平成 26 年 10 月	長野県看護協会災害看護支援ナース・フォローアップ研修	松本市
屋良朝彦	平成 26 年 11 月	第 7 回山の遊び舎はらぺこ 子育てを考える集い 森田伸子「子どもと未来と哲学と」(子供の哲学の方法)	伊那市
	平成 27 年 3 月	イタリア精神医療改革のノンフィクション映画「むかし Matto の町があった」自主上映会参加 (精神医療に関する研究)	名古屋市

(2) 国外研修

平成 26 年度に本学教員が国外で受けた研修は、0 件であった。

第2節 研究活動

(1) 助成金による研究活動

① 文部科学省（日本学術振興会科学研究費補助金）による研究

平成26年度に科学研究費助成事業の助成を受けて行った研究は24件であった。

継続研究は17件（転出2件除く）、新規の研究は7件（転出1件除く）であった。（表2・3）

（表2）平成26年度科学研究費助成事業の採択等の状況

	新 規・継 続			新 規			補助金額 (千円)
	応募件数	採択件数	採択率	応募件数	採択件数	採択率	
本学応募採択分①	37	25	67.6%	20	8	40.0%	25,600
転出分②		3			1		3,800
転入分③		2			0		1,800
本学執行分①－②＋③		24			7		23,600

（表3）平成26年度に科学研究費助成事業の助成を受けて行った本学の研究

研究種目	研究代表者	研究期間	研究課題名
基盤研究(A)	北山秋雄	平成24～27年度	里山における災害被災者支援のための遠隔ケアシステム構築に関する研究
基盤研究(B)	渡辺みどり	平成24～27年度	長寿社会における地域参画型認知症トータルケアプログラムの開発と評価
	内田雅代	平成26～29年度	小児がん看護の標準化を目指した「ガイドライン」の臨床活用の検討とケアモデルの開発
基盤研究(C)	清水嘉子	平成23～27年度	母親の健康チェックシートの開発と評価－育児相談への活用と縦断調査の試み－
	那須 裕	平成24～26年度	中山間地域高齢者へのヘルスプロモーション活動としての水中運動の有効性に関する研究
	秋山 剛	平成24～27年度	途上国における学校でのメンタルヘルス・プロモーションについて
	竹内幸江	平成25～27年度	きょうだいを亡くした子どもへのグリーフケアの早期介入プログラムに関する研究
	有賀美恵子	平成25～27年度	精神疾患が疑われる高校生に対処する養護教諭への支援－早期介入と医療との連携－
	柄澤邦江	平成25～27年度	シームレスな緩和ケアを提供するための地域緩和ケア体制の構築に関する研究
	松本淳子	平成26～28年度	病棟の快適な音環境づくりに関する研究
	太田克矢	平成26～28年度	看護学科新入生への理科的基礎知識の教授方法の開発
	塩澤綾乃	平成26～28年度	入院中の乳児に付き添う母親の母乳育児支援プログラムの実施と評価

研究種目	研究代表者	研究期間	研究課題名
基盤研究(C)	阿部正子	平成 26～28 年度	生殖医療に携わる看護師の実践能力開発とキャリア形成支援に関する研究
	千葉真弓	平成 26～29 年度	認知症看護の質評価尺度の開発と臨床適用の検討
挑戦的萌芽研究	多賀谷昭	平成 24～26 年度	健康資源としてのSatoyamaの測定尺度の開発
	長南幸恵	平成 25～27 年度	自閉症スペクトラム児の「感覚の過敏症」に起因した問題行動の改善に向けた基礎的研究
	小林たつ子	平成 25～27 年度	足浴は高齢者における夜間多尿と睡眠の質を改善する
若手研究(B)	田中真木	平成 23～27 年度	倫理問題への対処行動からみた看護学生のケアリング倫理観に関する研究
	伊藤郁恵	平成 23～27 年度	集中ケアに携わる看護師の看護実践における臨床判断の基盤となる倫理観の形成プロセス
	曾根千賀子	平成 23～27 年度	認知症高齢者をケアする看護師の倫理的ジレンマと倫理的価値観に基づく教育プログラム
	松澤有夏	平成 23～27 年度	介護保険施設におけるせん妄発症予防に関するケアプログラムの実証的検討
	赤羽洋子	平成 24～28 年度	妊婦を対象としたフットケアの研究
	中畑千夏子	平成 25～27 年度	新生児に対する常在細菌の移行・定着を目的とした介護介入の確立
	熊谷理恵	平成 26～29 年度	がん臨床試験に参加する再発・進行がん患者の意思決定を支援する看護プログラムの開発

② 長野県看護大学特別研究費による研究

平成 26 年度に長野県看護大学特別研究費で行った研究は、10 件であった。(表 4)
継続研究は 6 件、新規の研究は 4 件であった。

(表 4) 平成 26 年度に長野県看護大学特別研究費で行った研究

研究代表者	研究期間	研究課題名
竹内幸江	平成 25～27 年度	「南信子どもの虐待防止研究会 (NOPCAN)」の取り組みに関する検討
北山秋雄	平成 25～27 年度	遠隔ケアシステム開発に関する研究
千葉真弓	平成 24～27 年度	介護保険施設における認知症高齢者の終末期ケアの質向上を目指した実践的看護モデルの開発
坂田憲昭	平成 25～27 年度	黄色ブドウ球菌 IsaA タンパク質を標的とする機能的抗体の血中レベルと感染防御に関する役割の解析
近藤恵子	平成 25～26 年度	長野県における皮膚・排泄ケア認定看護師の活動実態と上司から受けるサポートおよび活動継続意思との関連
阿部正子	平成 25～26 年度	助産師の卒後 1 年間における職場適応と職業的アイデンティティの形成過程

研究代表者	研究期間	研究課題名
松本淳子	平成 26～27 年度	心身の健康におけるカラオケの効果
喬炎	平成 26 年度	蓼科源泉による下肢浴（拡大足浴）の局所循環に及ぼす影響
佐々木美果	平成 26～27 年度	ひとり親による子育ての実態 ―子育ての困難と子どもへの想い―
内田雅代	平成 26～28 年度	食物アレルギーの子どもをもつ家族のケアニーズと家族会の活動 ―日常および災害時のケアニーズに焦点を当てた家族と医療者との協働―

③ 県内看護職者との共同研究

平成 26 年度に県内看護職者との共同研究費で行った研究は 7 件であった。（表 5）
継続研究は 3 件、新規の研究は 4 件であった。

（表 5）平成 26 年度に県内看護職者との共同研究費補助金を受けて行った研究

研究代表者	研究期間	研究課題名	担当教員 (代表)
林部麻美（長野県立こども病院）	平成 25～26 年度	こども病院外来における成人移行期支援プログラムの作成	竹内幸江
上村美智子（市立大町総合病院）	平成 25～26 年度	勤務助産師が中学生と保護者に行う健康教育プログラムの作成と評価 ―子宮がん予防に関する質問紙調査を踏まえて―	阿部正子
伊藤礼子（伊那中央病院）	平成 25～26 年度	県内看護師のスピリチュアルケアスキルアップのための看護教育プログラムの作成	安田貴恵子
黒川めぐみ（こころの医療センター駒ヶ根）	平成 26～27 年度	看護師が向精神薬の副作用を説明するうえで感じる困難とそれに対する支援	東修
穂高幸枝（伊那中央病院）	平成 26～27 年度	他（多）職種との連携。協働において看護師が困難だと感じていること	内田雅代
森上幸恵（下伊那赤十字病院）	平成 26～27 年度	在宅における褥創予防と管理の質向上に関する研究 ―ケアマネージャーに対する調査の分析―	柄澤邦江
木村純子（社会医療法人財団滋千慈泉会相澤病院）	平成 26～27 年度	がん患者と子どものコミュニケーションを促進するためのツールの検討	内田雅代

④ その他助成金による研究

平成 26 年度にその他の助成金を受けて行った研究は 1 件であった。（表 6）

（表 6）平成 26 年度にその他の助成金を受けて行った研究

助成金名称	研究代表者	研究期間	研究課題名
公益信託 宇流麻学術 研究助成金	島袋 梢	平成 26 年度	バンブーハウス環境におけるデング熱媒介蚊コントロールを目指した、ココナッツ繊維による蚊防除効果の検討

(2) 競争的資金への申請

1) 地（知）の拠点整備事業

文部科学省は、平成 25 年度から、大学が自治体と連携し、全学的に地域を指向した教育・研究・地域貢献を進める大学を支援することで、課題解決に資する様々な人材や情報・技術が集まる、地域コミュニティの中核的存在としての大学の機能強化を図ることを目的とした「地（知）の拠点整備事業」（Center of Community＝COC 事業）を実施している。

2) 事業の検討・申請

本学では、平成 26 年度の事業採択に向けて、平成 25 年 11 月に学内プロジェクトを立ち上げ、全教職員を対象とした「COC 学習会」を実施するなど、COC 事業に対する全学的な理解を深めるとともに、申請内容の検討を進めた。

検討の結果、アウトリーチと大学開放を基本に、里山看護を担う人材の育成と、自治体、NPO と連携協働して認知症予防コミュニティを創成することを目指した、「健康長寿の暮らしを支える里山看護と認知症予防コミュニティの創成」事業を計画し、教育カリキュラムや教育組織の改革につなげていくことを目指し、平成 26 年 4 月に申請した。

3) 事業の内容

事業の内容は、本学と連携協力する自治体（長野県及び駒ヶ根市、阿南町、栄村）が車の両輪となり、連繫（地域住民とつながること）、地育（地域で教育すること）、共育（大学・地域ともに成長・発展すること）をエンジンとして、里山看護を担う人材の育成を目指すものである。学生は地域住民とともに題解決の方策を考え、実践する過程で「聴く力」「考える力」を学生に備えた育むことによって、看護の基本である健康課題を「発見」し様々な人々と「協働する力」を獲得する。すなわち、本事業により、大学が地域の「Magnet College（魅力ある大学）」となり、里山看護の人材育成と認知症予防に重点を置いた健康自己管理システム、相談活動、災害看護、遠隔看護などの体験を通して次世代の認知症予防コミュニティの創成を目指す内容とした。

4) 申請結果及び今後の取り組み

申請の結果は、残念ながら不採択となったものの、COC 事業で目指した姿を構築するため、学内資源の活用と関係自治体との連携をさらに密にすることにより、里山看護の人材育成と認知症予防コミュニティの創成にむけて、引き続き検討を行うこととした。

(3) 分野の研究活動

分野	研究題名	研究内容
小児看護学分野	食物アレルギーを持つ子どもの親のケアニーズ- 普段の生活と災害時における心配- (特別研究費活用)	食物アレルギーを持つ子どもの親のケアニーズを明らかにし家族の支援を検討することを目的に、食物アレルギーで除去食対応をしている幼児の家族を対象に、質問紙調査を実施した。その結果、アレルギーが重症な者ほど、外食時の心配や災害時の心配をしており、災害時の心配が多いほど、対策もとられていた。親は、周囲の理解を求めており、親への指導だけでなく周囲の人々への食物アレルギーの正確な情報提供や災害時の啓発活動が重要であることが示唆された。
老年看護学分野	認知症高齢者に関する研究 (科学研究費活用)	グループホームにおける認知症高齢者の「なじみの場づくり」のためのケア実践や終末期ケアに必要な医療連携のための看護について示唆が得られた。
	高齢者への水中運動効果に関する研究 (科学研究費活用)	地域在住高齢者における、水中運動による身体機能と転倒予防自己効力感などについての関係性を明らかにした。
	終末期の生活と介護についての高齢者の意向に関する研究 (科学研究費活用)	終末期の生活と介護に関する高齢者の意向の特徴が明らかとなり、それを支える看護の役割をうかがい知ることができた。

(4) その他研究活動

助成金を受けて行った研究活動以外の本学の研究活動については、以下のとおり。

① 著書・翻訳（五十音順）

氏 名	内 容
井村俊義	井村俊義 (2014): 「多民族」という方法—チカーノの視点から。多民族研究学会, エスニック研究のフロンティア, 349-356, 金星堂, 東京.
	井村俊義 (2014): 国境地帯から考えるアメリカ合衆国, ボーダーランズにおける新しい共同性と表現方法について. 杉田米行, アメリカ観の変遷(人文系), 1-13, 大学教育出版, 岡山.
	井村俊義 (2015): ポストレイス時代におけるロードとコミュニティ, サルバドル・プラセンシアの『紙の民』を中心に. 松本昇・中垣恒太郎・馬場聡, アメリカン・ロードの物語学, 297-313, 金星堂, 東京.
内田雅代	市江和子, 大見サキエ, 高橋由美子, 細谷京子, 杉原喜代美, 山口求, 内田雅代他 (2014): 6章 i 学童の看護. 市江和子, 小児看護学, 110-119, オーム社, 東京都.
近藤恵子	近藤恵子 (2014): 第 5 章 i 老年看護の実践 i 褥瘡. 奥野茂代, 大西和子, 老年看護学 第 5 版, 271-280, ヌーヴェルヒロカワ, 東京.
	近藤恵子 (2014): II 脳卒中の診断と治療; その他/褥瘡. 福井罔彦, 藤田勉, 宮坂元磨, 脳卒中最前線第 4 版, 436-442, 医歯薬出版, 東京.
	近藤恵子 (2015): ストーマのセルフケア. 松原康美, ナーシング・プロフェッショナルシリーズストーマケアの実践, 12-26, 医歯薬出版, 東京.
千葉真弓	千葉真弓 (2014): 第 3 章 i 高齢者をとりまく社会 i 高齢者の性と結婚. 奥野茂代, 大西和子, 老年看護学 第 5 版, 92-94, ヌーヴェルヒロカワ, 東京.
	千葉真弓 (2014): 第 5 章 i 老年看護の実践 i 老年症候群・寝たきり. 奥野茂代, 大西和子, 老年看護学 第 5 版, 281-284, ヌーヴェルヒロカワ, 東京.
西垣内磨留美	(共編)松本昇, 西垣内磨留美, 吉田美津, 横田由理, 君塚淳一 (2014): エスニック研究のフロンティア. 金星堂, 東京.
	西垣内磨留美 (2014): 日々の画彩—ゾラ・ニール・ハーストン短編作品試論. 松本昇, 西垣内磨留美, 吉田美津, 横田由理, 君塚淳一編, エスニック研究のフロンティア, 金星堂, 東京.
	西垣内磨留美 (2015): 旅するオペラー—座—映し出される時代と「アメリカ」という国. 松本昇, 中垣恒太郎, 馬場聡編, アメリカン・ロードの物語学, 105-117, 金星堂, 東京.
藤原聡子	藤原聡子, 中島小乃美, 城ヶ端初子, 小野千秋, 増田安代, 古澤圭壱, 土岐真理子, 宇田雅, 陳野優子, 竹内康子, 水主千鶴子, 松山明子, 後藤理恵子 (2015): 2. 第 3 章看護覚え書を読む; 2. 住居の衛生, 余計な励ましと忠告. 城ヶ端初子, ナイチンゲール賛歌, 67-71, 102-105, サイオ出版, 東京都.
	藤原聡子, 城ヶ端初子, 笠井恭子, 増田安代, 松岡義明, 松山明子, 三田村裕子, 茂木康子, 二宮球実, 奥野修一, 小野千秋, 水主千鶴子, 澤美一枝, 田尻后子, 辻由紀, 上仲久, 脇本澄子, 脇田真理子 (2015): 第 3 章看護活動と倫理; 母性看護と倫理. 城ヶ端初子, 実践に生かす看護倫理, 84-90, 久美出版, 京都.

② 論文（五十音順）

氏 名	内 容
秋山剛	Saito J, Keosada N, Tomokawa S, Akiyama T, Kaewviset S, Nonaka D, Waikugul J, Kobayashi J, Souvanvixay M, Jimba M (2014): Factors influencing the National School Health Policy implementation in Lao PDR: a multi-level case study. Health Promot Int, doi: 10.1093/heapro/dau016
阿部正子	塩澤綾乃, 清水嘉子, 佐々木美果, 赤羽洋子, 宮原美智留, 阿部正子, 藤原聡子 (2014): 入院中の乳児に付き添う母親の母乳分泌に影響を与える要因の検討 健康状態, 睡眠時間, ストレスの状況から. 長野県母子衛生学会誌, 16:13-21.
	清水 嘉子, 佐々木 美果, 小川 紀子, 塩澤 綾乃, 宮原 美知留, 赤羽 洋子, 阿部 正子, 藤原 聡子 (2015): 「母親の心の健康チェックシート」を用いた訪問による育児相談における母親の語り. 母性衛生学会誌, 56 巻 1 号:146-153.

氏 名	内 容
有賀智也	有賀智也, 渡辺みどり, 千葉真弓 (2014): 重度なBPSDにより精神科病院に入院した認知症高齢者への看護師の対応方法. 日本看護福祉学会誌, 101-114.
	有賀智也, 渡辺みどり, 千葉真弓, 松澤有夏, 曾根千賀子, 細田江美 (2015): K 市地域包括支援センターにおける「もの忘れ相談」の内容と出現割合の分析. 日本看護福祉学会誌, 20(2):283-295.
	渡辺みどり, 細田江美, 曾根千賀子, 千葉真弓, 松澤有夏, 有賀智也, 川喜田恵美 (2015): グループホームにおける認知症高齢者の「なじみの場づくり」のためのケア実践－看護職ケアマネージャー配置施設と介護福祉士ケアマネージャー配置施設の比較－. 日本看護福祉学会誌, 20(2):227-241.
	千葉真弓, 渡辺みどり, 松澤有夏, 曾根千賀子, 細田江美, 有賀智也, 橋本晶子, 川喜田恵美 (2015): グループホームにおける終末期ケアに必要な医療連携のための看護. 日本看護福祉学会誌, 20(2):141-155.
	細田江美, 渡辺みどり, 千葉真弓, 曾根千賀子, 松澤有夏, 有賀智也, 北山秋雄 (2015): 認知症グループホームにおける”なじみの場づくり”に関する認識と実践－長野県のグループホームのケア責任者への調査から－. 長野県看護大学紀要, 17:85-99.
井村俊義	井村俊義 (2014): フランク・マコート『アンジェラの祈り』で描かれる移民:人種とアイデンティティに関する言説について. 『東北アメリカ文学研究』(第 37 号), 89-100.
	井村俊義 (2014): 前近代から近代への移行期における精神の病とナラティブ:文学と民俗学の視点から. 長野県看護大学紀要, 35-43.
	井村俊義 (2014): 集団と境界線の政治学:境界線の意味を問い直すチカーノ. 多民族研究, 37-49.
	井村俊義 (2015): 忌避される死と近代的思考:生と死を相対化するためのいくつかの視点. 長野県看護大学紀要, 101-109.
坂田憲昭	坂田憲昭, 中畑千夏子 (2014): 黄色ブドウ球菌の検出・同定における菌体外タンパク質 IsaA の有用性. 基礎科学をもとにした Co-Medial 研究会雑誌, 2:18-24.
	中畑千夏子, 奥山茜, 原田知恵, 下沢英里子, 村瀬麻亜沙, 鍵谷ゆうこ, 羽毛田真衣, 丸山理沙, 坂田憲昭 (2015): 大学生におけるメチシリン耐性ブドウ球菌の分布とその特徴. 長野県看護大学紀要, 17:51-61.
佐々木美果	塩澤綾乃, 清水嘉子, 佐々木美果他 4 名 (2014): 入院中の乳児に付き添う母親の母乳分泌に影響を与える要因の検討-健康状態、睡眠時間、ストレスの状況から-. 長野県母子衛生学会誌, 13-21. .
	清水嘉子・佐々木美果・小川紀子・塩澤綾乃他 4 名 (2015): 母親の心の健康チェックシート」を用いた育児相談における母親の語り. 母性衛生, 56:146-153.
塩澤綾乃	塩澤綾乃, 清水嘉子, 佐々木美果, 赤羽洋子, 宮原美知留, 阿部正子, 藤原聡子 (2014): 入院中の乳児に付き添う母親の母乳分泌に影響を与える要因の検討-健康状態、睡眠時間、ストレスの状況から-. 長野県母子衛生学会誌, 13-21. .
	清水嘉子・佐々木美果・小川紀子・塩澤綾乃他 4 名 : (2015): 母親の心の健康チェックシート」を用いた育児相談における母親の語り. 母性衛生, 56, 146-153.
清水嘉子	塩澤綾乃, 清水嘉子, 佐々木美果他 4 名 (2014): 塩澤綾乃, 清水嘉子, 佐々木美果他 4 名:入院中の乳児に付き添う母親の母乳分泌に影響を与える要因の検討-健康状態、睡眠時間、ストレスの状況から-. 長野県母子衛生学会誌, 13-21.
	本田智子, 秋山知也, 中畑千賀子, 清水嘉子 (2014): 健康女性における気象のタイミングと起床後の身体的反応-REM 期と NREM 期に起床を促した場合の比較-. 日本看護科学学会誌, 34, :56-65.
	清水嘉子 (2015): 「母親の心の健康チェックシート」を用いた育児相談による育児幸福感を高める働きかけの評価. 小児保健研究, VOL74 NO1 136-143.
	清水嘉子・佐々木美果・小川紀子・塩澤綾乃他 4 名 (2015): 母親の心の健康チェックシート」を用いた育児相談における母親の語り. 母性衛生, 56:146-153.
	清水嘉子 (2015): 「母親の心の健康チェックシート」を用いた育児相談による育児幸福感を高める働きかけの評価.. 小児保健研究, 74:136-143.
	清水嘉子 (2015): 生後 1 歳 6 か月の子どもをもつ母親の育児への自信. 小児保健研究 VOL74 NO3, 453-459.

氏 名	内 容
曾根千賀子	渡辺みどり, 細田江美, 曾根千賀子, 千葉真弓, 松澤有夏, 有賀智也, 川喜田恵美 (2015): グループホームにおける認知症高齢者の「なじみの場づくり」のためのケア実践－看護職ケアマネージャー配置施設と介護福祉士ケアマネージャー配置施設の比較－. 日本看護福祉学会誌, 20(2), 141-155.
	千葉真弓, 渡辺みどり, 松澤有夏, 曾根千賀子, 細田江美, 有賀智也, 橋本品子, 川喜田恵美 (2015): グループホームにおける終末期ケアに必要な医療連携のための看護. 日本看護福祉学会誌, 20(2), 141-155.
	曾根千賀子, 渡辺みどり, 松澤有夏, 細田江美, 千葉真弓, 森野貴輝 (2015): 終末期の生活と介護に関する高齢者の意向. 長野県看護大学紀要, 17:75-84.
	細田江美, 渡辺みどり, 千葉真弓, 曾根千賀子, 松澤有夏, 有賀智也, 北山秋雄 (2015): 認知粗油グループホームにおける”なじみの場づくり”に関する認識と実践－長野県のグループホームのケア責任者への調査から－. 長野県看護大学紀要, 17:85-99.
	有賀智也, 渡辺みどり, 千葉真弓, 松澤有夏, 曾根千賀子, 細田江美 (2015): K 市地域包括支援センターにおける「もの忘れ相談」の内容と出現割合の分析. 日本看護福祉学会誌, 20(2):283-295.
喬 炎	Liang J, Kang D, Wang Y1, Yu Y, Fan J, Takashi E (2015): Carbonate ion-enriched hot spring water promotes skin wound healing in nude rats. PLoS One. , Feb 11;10(2):e0117106. doi: 10.1371/journal.pone.0117106. eCollection 2015.
高橋百合子	高橋 百合子, 竹内 幸江, 吉川 久美子, 野中 淳子, 丸 光恵, 前田 留美, 富岡 晶子, 小川 純子, 櫻井 育穂, 勝本 祥子, 内田 雅代 (2014): 小児がんの子どもの死を経験した看護師の思いとグリーフケアにおいて望むことに関する調査. 小児がん看護, 9(1), 63-72.
竹内幸江	高橋百合子, 竹内幸江, 吉川久美子, 野中淳子, 丸光恵, 前田留美, 富岡晶子, 小川純子, 櫻井育穂, 勝本祥子, 内田雅代 (2014): 小児がんの子ども死を経験した看護師の思いとグリーフケアにおいて望むことに関する研究. 小児がん看護, 9(1):63-72.
千葉真弓	有賀智也, 渡辺みどり, 千葉真弓 (2014): 重度なBPSDにより精神科病院に入院した認知症高齢者への看護師の対応方法. 日本看護福祉学会誌, 101-114.
	有賀智也, 渡辺みどり, 千葉真弓, 松澤有夏, 曾根千賀子, 細田江美 (2015): K 市地域包括支援センターにおける「もの忘れ相談」の内容と出現割合の分析.. 日本看護福祉学会誌, 20(2), 283-295..
	渡辺みどり, 細田江美, 曾根千賀子, 千葉真弓, 松澤有夏, 有賀智也, 川喜田恵美 (2015): グループホームにおける認知症高齢者の「なじみの場づくり」のためのケア実践－看護職ケアマネージャー配置施設と介護福祉士ケアマネージャー配置施設の比較－. 日本看護福祉学会誌, 20(2), 227-241.
	千葉真弓, 渡辺みどり, 松澤有夏, 曾根千賀子, 細田江美, 有賀智也, 橋本品子, 川喜田恵美 (2015): グループホームにおける終末期ケアに必要な医療連携のための看護. 日本看護福祉学会誌, 20(2), 141-155.
	細田江美, 渡辺みどり, 千葉真弓, 曾根千賀子, 松澤有夏, 有賀智也, 北山秋雄 (2015): 認知症グループホームにおける”なじみの場づくり”に関する認識と実践－長野県のグループホームのケア責任者への調査から－.. 長野県看護大学紀要, 17, 85-99..
長南幸恵	長南幸恵 (2014) : ASD児者の感覚の特性(過敏と鈍麻)に関する国内研究の動向. 自閉症スペクトラム研究, 12(1), 29-39.
藤原聡子	藤原聡子, 月澤美代子 (2014): 精神予防性無痛分娩法の導入と施設分娩における妊婦管理への影響. 日本医史学雑誌 60(1).2014, 49－64.
	藤原聡子(研究代表者), 月澤美代子 (2015): 精神予防性無痛分娩法をめぐる産婦人科医たちの論争. 日本医史学雑誌, 61 巻第 2 号(2015):131-144.
細田江美	渡辺みどり, 細田江美, 曾根千賀子, 千葉真弓, 松澤有夏, 有賀智也, 川喜田恵美 (2015): グループホームにおける認知症高齢者の「なじみの場づくり」のためのケア実践－看護職ケアマネージャー配置施設と介護福祉士ケアマネージャー配置施設の比較－. 日本看護福祉学会誌, , 20(2), 141-155.
	千葉真弓, 渡辺みどり, 松澤有夏, 曾根千賀子, 細田江美, 有賀智也, 橋本品子, 川喜田恵美 (2015): グループホームにおける終末期ケアに必要な医療連携のための看護. 日本看護福祉学会誌, 20(2), 141-155.
	曾根千賀子, 渡辺みどり, 松澤有夏, 細田江美, 千葉真弓, 森野貴輝 (2015): 終末期の生活と介護に関する高齢者の意向. 長野県看護大学紀要, 17:75-84.

氏 名	内 容
細田江美	細田江美, 渡辺みどり, 千葉真弓, 曾根千賀子, 松澤有夏, 有賀智也, 北山秋雄 (2015): 認知症グループホームにおける”なじみの場づくり”に関する認識と実践—長野県のグループホームのケア責任者への調査から—. 長野県看護大学紀要, 17:85-99.
	有賀智也, 渡辺みどり, 千葉真弓, 松澤有夏, 曾根千賀子, 細田江美 (2015): K 市地域包括支援センターにおける「もの忘れ相談」の内容と出現割合の分析. 日本看護福祉学会誌, 20(2):283-295.
三浦大志	Toru Miyoshi, Kazufumi Nakamura, Masashi Yoshida, Daiji Miura, Hiroki Oe, Satoshi Akagi, Hiroki Sugiyama, Kaoru Akazawa, Tomoko Yonezawa, Jun Wada, Hiroshi Ito (2014): Effect of Vildagliptin, a Dipeptidyl Peptidase 4 Inhibitor, on Cardiac Hypertrophy Induced by Chronic Beta-adrenergic Stimulation in Rats.. Cardiovascular Diabetology, 2014 Feb 13; 13: 43.
	Koji Tokioka, Kengo Fukushima Kusano, Hiroshi Morita, Daiji Miura, Nobuhiro Nishii, Satoshi Nagase, Kazufumi Nakamura, Kuniyoshi Kohno, Hiroshi Ito, Tooru Ohe (2014): Electrocardiographic Parameters and Fatal Arrhythmic Events in Patients With Brugada Syndrome:Combination of Depolarization and Repolarization Abnormalities. Journal of American College of Cardiology, 63: 20: 2131-2138.
	Satoshi Akagi, Kazufumi Nakamura, Daiji Miura, Yukihiro Saito, Hiromi Matsubara, Aiko Ogawa, Tetsuya Matoba, Kensuke Egashira, Hiroshi Ito (2015): Delivery of Imatinib-Incorporated Nanoparticles into Lungs Suppresses the Development of Monocrotaline-Induced Pulmonary Arterial Hypertension. International Heart Journal, Vol.56 (2015) No.3, P.354-359.
宮越幸代	辻村弘美, 森淑江, 宮越幸代, Jay R.Rajasekera, A.M.S.Deepanie Pathiranage, U.W.S.Rathnayake (2014): 途上国における看護職者養成支援のための遠隔教育—スリランカにおける Skype を用いた体位変換技術の評価—. The Kitakanto Medical Journal,64(1): 57-66.
宮原美知留	塩澤綾乃, 清水嘉子, 佐々木美果, 赤羽洋子, 宮原美知留, 阿部正子, 藤原聡子 (2014): 入院中の乳児に付き添う母親の母乳分泌に影響を与える要因の検討—健康状態,睡眠時間,ストレスの状況から—. 長野県母子衛生学会誌, 16:13-21.
森野貴輝	森野貴輝 (2014): 看護学生が実習中に患者から受けた暴力被害の実際とその影響. 日本精神保健看護学会誌, 23(2):41-50.
安田貴恵子	坪内美奈, 安田貴恵子, 山崎洋子, 井出知恵子 (2014): 実践上の課題解決を目指した保健師の研究への看護系大学教員による支援方法の特徴. 千葉看護学会誌, 19(2):47-55.
屋良朝彦	Tomohiko, YARA (2014): Decision Making Models for Multidisciplinary Health Care Teams: From Informed Consent to Conflict Resolution. Bulletin Nagano College of Nursing, 25-34.
渡辺みどり	有賀智也, 渡辺みどり, 千葉真弓 (2014): 重度なBPSDにより精神科病院に入院した認知症高齢者への看護師の対応方法. 日本看護福祉学会誌, 19(2):101-114..
	Yumiko Momose, Ayumi Fujino, Nobuko Amaki, Midori Watanabe, Shigeyo Okuno, Kiyomi Ashara (2014): Relationship between Job Satisfaction and Characteristics of Storessors Experienced by Nursing Staff Working in Nursing Care Facilities for the Elderly. 愛知県立大学看護学部紀要, 19:11-19..
	有賀智也, 渡辺みどり, 千葉真弓, 松澤有夏, 曾根千賀子, 細田江美 (2015): K 市地域包括支援センターにおける「もの忘れ相談」の内容と出現割合の分析. 日本看護福祉学会誌, 20(2):283-295.
	渡辺みどり, 細田江美, 曾根千賀子, 千葉真弓, 松澤有夏, 有賀智也, 川喜田恵美 (2015): グループホームにおける認知症高齢者の「なじみの場づくり」のためのケア実践—看護職ケアマネージャー配置施設と介護福祉士ケアマネージャー配置施設の比較—. 日本看護福祉学会誌, 20(2):227-241.
	千葉真弓, 渡辺みどり, 松澤有夏, 曾根千賀子, 細田江美, 有賀智也, 橋本晶子, 川喜田恵美 (2015): グループホームにおける終末期ケアに必要な医療連携のための看護. 日本看護福祉学会誌, 20(2):141-155.
	細田江美, 渡辺みどり, 千葉真弓, 曾根千賀子, 松澤有夏, 有賀智也, 北山秋雄 (2015): 認知症グループホームにおける”なじみの場づくり”に関する認識と実践—長野県のグループホームのケア責任者への調査から—. 長野県看護大学紀要, 17:85-99.
	曾根千賀子, 渡辺みどり, 松澤有夏, 細田江美, 千葉真弓, 森野貴輝 (2015): 終末期の生活と介護に関する高齢者の意向. 長野県看護大学紀要, 17:75-84.

③ 学会発表（五十音順）

氏 名	内 容
東 修	東修(2014): (交流集会)精神看護専門看護師の活動報告. 第 45 回日本看護学会,精神看護学術集会, 2014.10.16, 松本市.
	黒川めぐみ, 田中順子, 清水恵介, 東修: 看護師が向精神薬の副作用を説明するうえで感じる困難. 第 45 回日本看護学会,精神看護学術集会, 2014.10.16, 松本市.
阿部正子	Masako Abe, Hisae Miyata: Perspectives and experiences of Japanese fertility nurses regarding emotional boundary work in fertility care. ICM30th Triennial Congress, 2014.6.1-5, Prague, Czech Republic.
	阿部正子: 治療終結に迷う患者の看護カウンセリング前後の認識の変化～1 事例の分析から～. 日本生殖看護学会学術集会, 2014.9, 大阪市.
	宮田久枝, 阿部正子, 檜木野裕美, 八木佳奈子: IVF 妊婦に対する参加への移行冊子「Hug・kumi」の作成. 日本生殖看護学会, 2014.9, 大阪市.
	塩澤 綾乃, 清水 嘉子, 佐々木 美果, 赤羽 洋子, 宮原 美知留, 阿部 正子, 藤原 聡子: 入院中の乳児に付き添う母親の母乳育児に対する考えと心理状態. 母性衛生学会, 2014.10.
	八木 佳奈子, 阿部 正子, 檜木野 裕美, 宮田 久枝: 「体外受精で妊娠したあなたへ」小冊子 Hug・kumi(はぐくみ)作成のきっかけとなった患者の現状. 母性衛生学会, 2014.10.
	Masako Abe: Qualitative study: Understanding women's experience in infertile women to reach fertile limitation. 18th East Asian Forum of Nursing Scholars, 2015.2, 台北.
	阿部 正子, 佐々木 美果, 宮原 美智留, 塩澤 綾乃, 赤羽 洋子, 藤原 聡子, 西村 理恵, 清水 嘉子: 助産師の卒後 1 年間における職場適応と職業的アイデンティティの形成過程. 日本助産学会, 2015.3, 東京都.
有賀智也	有賀智也, 渡辺みどり, 千葉真弓, 曾根千賀子, 松澤有夏: K 市もの忘れ生活相談における家族介護者の困りごとと介護負担. 日本看護福祉学会, 2014.7.6, 長崎県佐世保市.
有賀美恵子	有賀美恵子: 高校生の登校回避感情の特徴-2 年間の縦断調査から-. 第 34 回日本看護科学学会学術集会, 2014.11.29, 名古屋.
江頭有夏	松澤有夏, 渡辺みどり: 認知症高齢者に対するせん妄重症化予防ケアプログラムの有効性の検討-介入事例における行動・認知感情の機能・睡眠の変化から-, 日本老年看護学会第 19 回学術集会, 2014.6.28-29, 名古屋市.
内田雅代	御子柴裕子, 多賀谷昭, 中畑千夏子, 宮越幸代, 内田雅代: 小学 5・6 年生の肥満に影響する日常生活の特徴から考える学校教育のあり方. 第 34 回日本看護科学学会学術集会, 2014.11.30, 名古屋市.
太田克矢	千葉真弓, 渡辺みどり, 太田克矢, 細田江美, 曾根千賀子, 松澤有夏, 有賀智也, 那須裕, 征矢野あや子: 高齢者の運動機能と心理的傾向-転倒の有無と水中運動の参加継続年数による比較-. 日本看護福祉学会, 2014.7.5, 佐世保市.
上條こずえ	上條こずえ, 白鳥さつき, 田嶋紀子, 那須淳子, 近藤恵子, 山崎章恵: 全国の看護管理者を対象としたハラスメント対策の現状. 日本看護科学学会, 2014.11.30, 名古屋.
	近藤恵子, 白鳥さつき, 田嶋紀子, 那須淳子, 上條こずえ: 長野県における皮膚・排泄ケア認定看護師の活動実態と上司から受けるさばーとおよび活動継続意思との関連. 日本看護科学学会, 2014.11.30, 名古屋.
	白鳥さつき, 田嶋紀子, 近藤恵子, 那須淳子, 上條こずえ, 鈴木真由美, 原厚子: 看護師養成所および短期大学の教員の働く環境とキャリア開発への取り組みおよびその支援に関する調査. 日本看護科学学会, 2014.11.29, 名古屋.
	田嶋紀子, 白鳥さつき, 近藤恵子, 那須淳子, 上條こずえ, 鈴木真由美, 原厚子: 看護師養成所および短期大学教員のキャリア開発支援に関する研究. 日本看護科学学会, 2014.11.29, 名古屋.
柄澤邦江	柄澤邦江, 中林明子, 大石ふみ子, 安田貴恵子, 清水美穂子, 伊藤みほ子: 緩和ケアを必要とする患者の在宅への移行時のケアについての病棟および外来看護師の認識. 日本地域看護学会第 17 回学術集会, 2014.8.3, 岡山市.
	中林明子, 柄澤邦江, 安田貴恵子, 大石ふみ子, 伊藤みほ子, 清水美穂子: 緩和ケアを必要とする患者の在宅への移行時の病院との連携に関する訪問看護師の認識. 日本地域看護学会第 17 回学術集会, 2014.8.3, 岡山市.

氏 名	内 容
近藤恵子	上條こずえ、白鳥さつき、田嶋紀子、那須淳子、近藤恵子、山崎章恵:全国の看護管理者を対象としたハラスメント対策の現状. 日本看護科学学会, 2014.11.30, 名古屋.
	近藤恵子、白鳥さつき、田嶋紀子、那須淳子、上條こずえ:長野県における皮膚・排泄ケア認定看護師の活動実態と上司から受けるさばーとおよび活動継続意思との関連. 日本看護科学学会, 2014.11.30, 名古屋.
	白鳥さつき、田嶋紀子、近藤恵子、那須淳子、上條こずえ、鈴木真由美、原厚子:看護師養成所および短期大学の教員の働く環境とキャリア開発への取り組みおよびその支援に関する調査. 日本看護科学学会, 2014.11.29, 名古屋.
	田嶋紀子、白鳥さつき、近藤恵子、那須淳子、上條こずえ、鈴木真由美、原厚子:看護師養成所および短期大学教員のキャリア開発支援に関する研究. 日本看護科学学会, 2014.11.29, 名古屋.
酒井久美子	酒井久美子、安田貴恵子:多職種で運営する生活習慣病予防教室における協働の様相と援助の特徴. 日本地域看護学会第 17 回学術集会, 2014.8.2-3, 岡山市.
坂田憲昭	坂田憲昭, 松澤有夏, 曾根千賀子, 渡辺みどり, 千葉真弓, 細田江美, 中畑千夏子:高齢者介護施設におけるメチシリン耐性ブドウ球菌の分布状況とその性状. 第 4 回基礎医学をもとにした C0-Medical 研究会, 2014.11.8, 山形市.
佐々木美果	塩澤綾乃, 清水嘉子, 佐々木美果, 赤羽洋子, 宮原美知留, 阿部正子, 藤原聡子:入院中の乳児に付き添う母親の母乳育児に対する考えと心理状態. 第 55 回母性衛生学会, 2014.10, 千葉.
塩澤綾乃	Ayano Shiozawa, Yoshiko Shimizu, Milka Sasaki, et al: Living environment and nursing among mothers who accompany thier hospitalized infants. ICM 国際大会, 2014.6.1-2014.6.5, チェコ共和国.プラハ.
	塩澤綾乃 清水嘉子 佐々木美嘉 赤羽洋子 宮原美知留 阿部正子 藤原聡子:入院中の乳児に付き添う母親の母乳育児に対する考えと心理状態.. 第 55 回母性衛生学会, 2014.10, 千葉.
島袋梢	喬炎, 三浦大志, 島袋梢: 蓼科三室源泉による下腿浴の局所循環に及ぼす影響. 平成 26 年度長野県看護大学研究集会, 2015.3.18, 長野県.
清水嘉子	上森有紀子 清水嘉子: 生後 3.4 カ月児の子どもをもつ父親の育児への自信-入浴時における育児から-. 母性衛生学会, 2014.10, 千葉.
	Nakazima Tomiko , Yoshiko Shimizu: Characteristics of the sleep pattern of preterm infants. National Neonatal Nurses Conference, 2014.10, New Orleans USA.
	塩澤綾乃 清水嘉子 佐々木美嘉 赤羽洋子 宮原美知留 阿部正子 藤原聡子:入院中の乳児に付き添う母親の母乳育児に対する考えと心理状態. 第 55 回母性衛生学会, 2014.10, 千葉.
	宮沢満智留 清水嘉子: 出産準備教育の個別指導の過程と助産師の考え. 日本看護科学学会, 2014.11, 名古屋.
	小林康江 渡邊竹美 遠藤俊子 常田裕子: 分娩進行の臨床判断力の獲得状況一助産師免許取得後分娩介助 40 例までの推移一. 日本看護科学学会, 2014.11, 名古屋.
	中島登美子 清水嘉子: 早期産児の入眠と起床における睡眠覚醒リズムの特性. 日本看護科学学会, 2014.11, 名古屋.
	上森友紀子、清水嘉子: 生後 3～4 カ月の子どものもつ父親の入浴の育児への自信. 長野県母子衛生学会, 2014.11, 松本.
	Ayano Shiozawa, Yoshiko Shimizu, Milka Sasaki, et al: Living environment and nursing among mothers who accompany thier hospitalized infants. ICM 国際大会, 2014.6.1-2014.6.5, チェコ共和国.プラハ.
	阿部 正子, 佐々木 美果, 宮原 美智留, 塩澤 綾乃, 赤羽 洋子, 藤原 聡子, 西村 理恵, 清水 嘉子: 助産師の卒後 1 年間における職場適応と職業的アイデンティティの形成過程. 日本助産学会, 2015.3, 東京都.
曾根千賀子	曾根千賀子, 太田勝正: 高齢者の終末期に対する意向. 日本看護倫理学会第 7 回年次大会, 2014.5.24-25, 名古屋市.
	曾根千賀子, 渡辺みどり, 松澤有夏, 細田江美, 千葉真弓, 森野貴輝: 高齢者の要介護時期の生活と介護に関する意向. 日本老年看護学会第 19 回学術集会, 2014.6.28-29, 名古屋市.
	Yukari Niimi, Chikako Sone, Katsumasa Ota: Balancing the need to know and patient privacy:Opinions of nurses, physicians, and allied health professionals. Nursing Informatics 2014, 2014.6.21-25, Taipei.
	坂田憲昭, 松澤有夏, 曾根千賀子, 渡辺みどり, 千葉真弓, 細田江美, 中畑千夏子: 高齢者介護施設におけるメチシリン耐性ブドウ球菌の分布状況とその性状. 第 4 回基礎医学をもとにした C0-Medical 研究会, 2014.11.8, 山形市.

氏 名	内 容
喬 炎	喬 炎、三浦大志、高瀬楓、小川有紀子、宮澤江莉：蓼科三室源泉のドライスキンに対する保湿効果。第79回日本温泉気候物理医学会総会・学術集会，2014.5.11，京都市。
	喬 炎：光学顕微鏡とデジタルカメラの接続アダプタの開発及びリアルな観察システム確立への応用。日本生物教育学会第98回全国大会，2015.1.10，松山市。
	喬 炎，三浦大志，島袋梢：蓼科三室源泉による下腿浴の局所循環に及ぼす影響。平成26年度 長野県看護大学研究集会，2015.3.18，駒ヶ根市。
多賀谷昭	御子柴裕子，多賀谷昭，中畑千夏子，宮越幸代，内田雅代：小学5・6年生の肥満に影響する日常生活の特徴から考える学校教育のあり方。第34回日本看護科学学会学術集会，2014.11.30，名古屋市。
竹内幸江	林部麻美，倉科美穂子，小笠原真織，竹内幸江：A病院外来における成人移行期支援プログラムの作成。第14回中部小児がんトータルケア研究会，2014.9.27，金沢市。
千葉真弓	曾根千賀子，渡辺みどり，松澤有夏，細田江美，千葉真弓，森野貴輝：高齢者の要介護時期の生活と介護に関する意向。日本老年看護学会第19回学術集会，2014.6.28-29，名古屋市。
	有賀智也，渡辺みどり，千葉真弓，曾根千賀子，松澤有夏：K市もの忘れ生活相談における家族介護者の困りごとと介護負担。日本看護福祉学会，2014.7.6，長崎県佐世保市。
中畑千夏子	御子柴裕子，多賀谷昭，中畑千夏子，宮越幸代，内田雅代：小学5・6年生の肥満に影響する日常生活の特徴から考える学校教育のあり方。第34回日本看護科学学会学術集会，2014.11.30，名古屋市。
中林明子	中林明子，柄澤邦江，安田貴恵子，大石ふみ子，伊藤みほ子，清水美穂子：緩和ケアを必要とする患者の在宅への移行時の病院との連携に関する訪問看護師の認識。日本地域看護学会第17回学術集会，2014.8.2-3，岡山市。
	柄澤邦江，中林明子，大石ふみ子，安田貴恵子，清水美穂子，伊藤みほ子：緩和ケアを必要とする患者の在宅への移行時のケアについての病棟および外来看護師の認識。日本地域看護学会第17回学術集会，2014.8.2-3，岡山市。
那須淳子	白鳥さつき，田嶋紀子，近藤恵子，那須淳子，上條こずえ，鈴木まゆみ，原厚子：看護師養成所および短期大学の教員の働くキャリア開発への取り組みおよびその支援に関する調査，日本看護科学学会第34回学術集会，2014.11.29.，名古屋市。
	田嶋紀子，白鳥さつき，近藤恵子，那須淳子，上條こずえ，鈴木真由美，原厚子：看護師養成所および短期大学教員のキャリア開発支援に関する研究，日本看護科学学会第34回学術集会，2014.11.29.，名古屋市。
	近藤恵子，白鳥さつき，田嶋紀子，那須淳子，上條こずえ：長野県における皮膚・排泄ケア認定看護師の活動実態と上司から受けるサポートおよび活動継続意思との関連，日本看護科学学会第34回学術集会，2014.11.30.，名古屋市。
	上條こずえ，白鳥さつき，田嶋紀子，那須淳子，近藤恵子，山崎章恵：全国の看護管理者を対象としたハラスメント対策の現状，日本看護科学学会第34回学術集会，2014.11.30.，名古屋市。
西垣内磨留美	Marumi Nishigauchi: The Effectiveness and Problems of Teaching English to Nurse Students under CALL System. The International Journal of Arts & Sciences, 2014.5.29, Boston, U.S.A.
	西垣内磨留美: Zora Neale Hurston とかぶりもの。日本アメリカ文学会第53回全国大会，2014.10.5，札幌市。
	Marumi Nishigauchi: Comparing Different-type Classes in CALL System Education. 13th Hawaii International Conference on Education, 2015.1.8, Honolulu, U.S.A.
藤原聡子	藤原聡子：精神予防性無痛分娩法による自学自習妊婦教育用教材『痛くないお産』。第115回日本医史学会総会・学術大会，2014.6.1，福岡県太宰府市。
	藤原聡子：出生の場所研究について。医史学例会シンポジウム，2015.3.24，東京都文京区。
細田江美	曾根千賀子，渡辺みどり，松澤有夏，細田江美，千葉真弓，森野貴輝：高齢者の要介護時期の生活と介護に関する意向。日本老年看護学会第19回学術集会，2014.6.28-29，名古屋市。
	坂田憲昭，松澤有夏，曾根千賀子，渡辺みどり，千葉真弓，細田江美，中畑千夏子：高齢者介護施設におけるメチシリン耐性ブドウ球菌の分布状況とその性状。第4回基礎医学をもとにしたC0-Medical研究会，2014.11.8，山形市。

氏 名	内 容
松本淳子	Matsumoto, J.: Psychological effects of 'Hitokara' singing on mood. The 13th International Conference on Music Perception and Cognition, 2014.8.4, Seoul.
	松本じゅん子, 多賀谷 昭: 病棟の騒音に対する自然環境音の影響. 第9回信州公衆衛生学会総会, 2014.8.23, 松本市.
	松本じゅん子: 大学生の日常的な動画視聴行動における音楽と感情の関係. 日本音響学会 2014 年秋季研究発表会, 2014.9.4, 札幌市.
	松本じゅん子: 産婦人科における分娩時のBGMの効果とリラクセーション要因. 日本心理学会第78回大会, 2014.9.10, 京都市.
	Matsumoto, J. & Tagaya, A.: Effectiveness of background music for noises in hospital wards. inter-noise 2014, 2014.11.17-18, Melbourne.
	松本じゅん子: 看護学生のコミュニケーション能力における自己評価と他者評価. 日本教育心理学会第56回総会, 2014.11.10, 神戸市.
	松本じゅん子: スマートフォンを使用した音楽聴取による気分への影響. 日本音響学会 2015 年春季研究発表会, 2015.3.17, 東京都.
	松本じゅん子, 多賀谷 昭, 北山秋雄: カラオケとヒトカラによる気分への効果. 平成26年度長野県看護大学研究集会, 2015.3.18, 駒ヶ根市.
三浦大志	喬炎, 三浦大志, 高瀬楓, 小川有紀子, 宮澤江莉: 蓼科三室源泉のドライスキンに対する保湿効果. 第79回 日本温泉気候物理医学会総会・学術集会, 2014.5.11-14, 京都府.
	Kazufumi Nakamura, Daiji Miura, Kei Yunoki, Yasushi Koyama, Yukihiro Saito, Minoru Satoh, Kazuhiro Osawa, Toru Miyoshi, Kunihisa Kohno, Hiroshi Ito: Inhibitory effects of eicosapentaenoic acid on arterial calcification in klotho mutant mice, an animal model of typical aging. European Society of Cardiology Congress 2014, 2014.8.30-9.3, Barcelona, Spain.
	喬炎, 三浦大志, 島袋梢: 蓼科三室源泉による下腿浴の局所循環に及ぼす影響. 平成26年度長野県看護大学研究集会, 2015.3.18, 長野県.
御子柴裕子	御子柴裕子, 多賀谷昭, 中畑千夏子, 宮越幸代, 内田雅代: 小学5・6年生の肥満に影響する日常生活の特徴から考える学校教育のあり方. 第34回日本看護科学学会学術集会, 2014.11.30, 名古屋市.
宮越幸代	宮越幸代, 森淑江, 辻村弘美, Jay Rajasekera, Zeneida Quiroz Flores, Sandra Reyes, Marlene Gaitan, 中澤理恵, 坂本雅昭: Skypeで試行したニカラグア国への看護技術演習の総合評価. 第55回日本熱帯医学会大会・第29回日本国際保健医療学会学術大会合同大会, 2014.11.1-3, 東京.
	御子柴裕子, 多賀谷昭, 中畑千夏子, 宮越幸代, 内田雅代: 小学5・6年生の肥満に影響する日常生活の特徴から考える学校教育のあり方. 第34回日本看護科学学会学術集会, 2014.11.30, 名古屋市.
村井ふみ	村井ふみ, 安田貴恵子: 長野県における感染症集団発生と保健所保健師の介入の現状～高齢者福祉施設への支援に着目して～. 信州公衆衛生学会, 2014.8.23, 松本市.
	村井ふみ, 安田貴恵子: 高齢者福祉施設における感染症集団発生への保健所保健師の支援とその思考. 第73回日本公衆衛生学会総会, 2014.11.6-7, 宇都宮市.
森野貴輝	曾根千賀子, 渡辺みどり, 松澤有夏, 細田江美, 千葉真弓, 森野貴輝: 高齢者の要介護時期の生活と介護に関する意向. 日本老年看護学会第19回学術集会, 2014.6.28-29, 名古屋市.
安田貴恵子	酒井久美子, 安田貴恵子: 多職種で運営する生活習慣病予防教室における協働の様相と援助の特徴. 日本地域看護学会第17回学術集会, 2014.8.2-3., 岡山市.
	中林明子, 柄澤邦江, 安田貴恵子, 大石ふみ子, 伊藤みほ子, 清水美穂子: 緩和ケアを必要とする患者の在宅への移行時の病院との連携に関する訪問看護師の認識. 日本地域看護学会第17回学術集会, 2014.8.2-3., 岡山市.
	柄澤邦江, 中林明子, 大石ふみ子, 安田貴恵子, 清水美穂子, 伊藤みほ子: 緩和ケアを必要とする患者の在宅への移行時のケアについての病棟および外来看護師の認識. 日本地域看護学会第17回学術集会, 2014.8.2-3., 岡山市.
	村井ふみ, 安田貴恵子: 長野県における感染症集団発生と保健所保健師の介入の現状～高齢者福祉施設への支援に着目して～. 信州公衆衛生学会, 2014.8.23., 松本市.
	村井ふみ, 安田貴恵子: 高齢者福祉施設における感染症集団発生への保健所保健師の支援とその思考. 第73回日本公衆衛生学会総会(572), 2014.11.6-7., 宇都宮市.
渡辺みどり	曾根千賀子, 渡辺みどり, 松澤有夏, 細田江美, 千葉真弓, 森野貴輝: 高齢者の要介護時期の生活と介護に関する意向. 日本老年看護学会第19回学術集会, 2014.6.28-29, 名古屋市.

④ 研究報告書（五十音順）

氏 名	内 容
岡田 実	岡田実:精神科における患者-看護師間の対立状況を解決するコミュニケーションスキルの開発(平成25年度科学研究費助成事業学術研究助成基金助成金(基盤研究C))研究成果報告書, 2014
北山秋雄	北山秋雄(研究代表者), 安田貴恵子, 清水嘉子, 那須裕, 太田克矢, 小田和美, 柄澤邦江, 喬炎, 藤原聡子: 里山における災害被災者支援のための遠隔ケアシステム構築に関する研究. 平成25年度日本学術振興会科学研究費補助金(基盤研究A)実績報告書. 2014.
太田克矢	安田貴恵子, 太田克矢, 千葉真弓, 柄澤邦江, 唐沢淳, 篠原睦美他: 長野県内の看護管理者の看護職採用についての考えと学士課程卒業者への期待に関する報告書. 平成25年度長野県看護大学看護実践国際研究センター卒業生・修了生キャリア形成支援部門報告書. 2014.
	北山秋雄(研究代表者), 安田貴恵子, 清水嘉子, 那須裕, 太田克矢, 小田和美, 柄澤邦江, 喬炎, 藤原聡子: 里山における災害被災者支援のための遠隔ケアシステム構築に関する研究. 平成25年度日本学術振興会科学研究費補助金(基盤研究A)実績報告書. 2014.
松本淳子	松本じゅん子, 多賀谷 昭: 痛みに対する音楽の心理的効果. 平成25年度(2013年度)長野県看護大学特別研究費補助金研究成果報告書. 2014.
安田貴恵子	安田貴恵子, 太田克矢, 千葉真弓, 柄澤邦江, 唐沢淳, 篠原睦美他: 長野県内の看護管理者の看護職採用についての考えと学士課程卒業者への期待に関する報告書. 平成25年度長野県看護大学看護実践国際研究センター卒業生・修了生キャリア形成支援部門報告書. 2014.
渡辺みどり	渡辺みどり(研究代表者), 百瀬由美子, 千葉真弓, 多賀谷昭, 細田江美, 曾根千賀子, 松澤有夏: 介護保険施設の認知症高齢者の事前意思を尊重した終末期看護介入方法の開発. 平成21-23年度科学研究費補助金(基盤研究(C))研究成果報告書. 2014.
	千葉真弓(研究代表者), 渡辺みどり, 細田江美, 曾根千賀子, 松澤有夏: グループホームにおける認知症高齢者への終末期ケア方略に関する研究. 平成21～23年度科学研究費補助金(基盤研究(C))報告書. 3-15, 16-26., 2014.
	百瀬由美子(研究代表者), 松岡広子, 藤野あゆみ, 天木伸子, 横矢ゆかり, 赤塚大樹, 渡辺みどり, 奥野茂代, 平木尚美, 田中和菜, 池俣志帆: 介護保険施設看護職への包括的ストレスマネジメント教育プログラムの開発と評価. 平成20～23年度科学研究費補助金(基盤(C))研究成果報告書. 17-28, 29-75., 2014.

⑤ 講演等（五十音順）

氏 名	内 容
東 修	東修: 人間関係論. 岡谷看護専門学校授業(15コマ), 2014.5.8-7.24, 岡谷市.
	東修: 組織を生かすための人間関係について知る. 看護師長対象, TRUE COLORS 入門講座, 2014.6.6, 函館市.
	東修: 精神科救急について. 2014.6.24, 駒ヶ根市(こころの医療センター).
	東修: 新採用看護師対象. ストレスマネジメントを理解する, 2014.7.9, 函館市.
	東修: ストレスマネジメント. 中堅看護師がいきいきと働くために, 2014.7.18, 松本市.
	東修: 新人看護職員実地指導者研修. 新人看護職員とのコミュニケーション, 2014.8.8, 富山市.
	東修: 回復のプロセスに沿った精神科救急・急性期のケア. 2014.10.24, 駒ヶ根市(こころの医療センター).
	東修: 一般病棟で遭遇する精神的な問題を抱えた患者へのケア. リエゾンナースに依頼のあるケース, 2014.11.6, 富山市.
	東修: 組織を生かすための人間関係について知る. 副看護師長対象, TRUE COLORS 入門講座, 2014.12.4, 函館市.
	東修: 組織を生かすための人間関係について知る. 2年目看護師対象, TRUE COLORS 入門講座, 2014.12.5, 函館市.
	東修: 北海道自治体病院協議会主催. アサーティブ・コミュニケーション技法研修, 2015.1.24, 函館市.
	東修: 精神科急性期ケアマネジメント. 2015.1.22, 駒ヶ根市(こころの医療センター).

氏 名	内 容
阿部正子	阿部正子: 産科混合病棟に関する実態調査に基づくユニット・マネジメントの提案. 平成 26 年度全国助産師交流集会, 2014.6.12, 名古屋市.
	阿部正子: ピアレビューから見た申請のコツ. 科研費獲得セミナー, 2014.9.5, 東都医療大学(深谷市).
	阿部正子: 生殖補助医療における看護の役割. 平成 26 年度助産師職能研修会, 2014.12.18, 長野県看護協会(松本市).
井村俊義	井村俊義(研究発表司会): 汎ラティノー・アイデンティティの活性化(発表者:丸山悦子). 多民族研究学会全国大会第 22 回全国大会, 2014.7.26, 東京都.
柄澤邦江	柄澤邦江: 地域診断の重要性と地域診断におけるアセスメント(第 1 回). 平成 26 年度新任保健師研修会, 2014.6.4, 松本市.
	柄澤邦江: 他職種との連携ーケアチームのチームづくりー. 長野県看護教育研究会在宅看護論分科会, 2014.8.4, 松本市.
	柄澤邦江: 地域診断の重要性と地域診断におけるアセスメント(第 2 回). 平成 26 年度新人保健師研修会, 2014.10.10, 松本市.
	柄澤邦江: 地域診断の重要性と地域診断におけるアセスメント(まとめ). 平成 26 年度新任保健師研修会(第 3 回), 2014.12.4, 松本市.
	柄澤邦江、中林明子: 長野県訪問看護ステーション協議会南信ブロック研修会. 感染マニュアルの見直しと今後の課題, 2015.1.31, 駒ヶ根市.
	柄澤邦江: 阿智村の医療と福祉を考える. 阿智村社会教育研究集会医療と福祉分科会, 2015.2.8, 阿智村.
	柄澤邦江、伊藤みほ子、安田貴恵子、中林明子、酒井久美子、下村聡子: 一人暮らし高齢者の看取りに関する事例検討会. 2015.3.28, 駒ヶ根市.
近藤恵子	近藤恵子: 長野赤十字病院ストーマケア研修会. ストーマケアの基本, ストーマ用品と皮膚保護材, スキントラブルとストーマ合併症, 2014.3.25. 2014.4.15. 2014.6.10. 長野市
	近藤恵子: 川西赤十字病院褥瘡研修会. 褥瘡の管理と実際, 2014.5.31. 佐久市.
	近藤恵子: 藤森病院褥瘡研修会. ポジショニングと皮膚ケア, 2014.6.6. 松本市.
	近藤恵子: メディカルケアサポートセミナー in 多摩, 予防/治療概論看護師の立場として, 2014.6.21. 八王子市.
	近藤恵子: メディカルケアサポートセミナー in 長野, 予防/治療概論看護師の立場として, 2014.6.28. 松本市.
	近藤恵子: メディカルケアサポートセミナー in 京都, 褥瘡の基礎と実際, 2014.9.20. 京都市.
	近藤恵子: メディカルケアサポートセミナー in 茨城, 褥瘡の評価とケアの実際, 2014.10.5. つくば市.
	近藤恵子: 人工肛門、人工膀胱患者のための健康と医療講習会. ストーマケアの課題と対策, 2014.10.26. 松本市.
酒井久美子	柄澤邦江、伊藤みほ子、安田貴恵子、中林明子、酒井久美子、下村聡子: 一人暮らし高齢者の看取りに関する事例検討会. 2015.3.28, 駒ヶ根市.
清水嘉子	清水嘉子: 科研費獲得のコツ . 日本保健医療大学セミナー, 2014.8, 埼玉.
	清水嘉子: 長野県看護大学における産学連携の模索. スマート看護・福祉研究会総会, 2014.9, 駒ヶ根市.
	清水嘉子: 高齢化社会と認知症. ロータリークラブ総会, 2015.3, 駒ヶ根市.
下村聡子	柄澤邦江、伊藤みほ子、安田貴恵子、中林明子、酒井久美子、下村聡子: 一人暮らし高齢者の看取りに関する事例検討会. 2015.3.28, 駒ヶ根市.
曾根千賀子	曾根千賀子: 2014 年度 長野県連「看介護研究講座」. 研究概念枠組みと研究デザインについて, 2014.5.30, 松本市.
	曾根千賀子: 研究方法について. 看介護者のための研究講座, 2014.8.25, 伊那市.
中林明子	柄澤邦江、中林明子: 平成 26 年度感染予防マニュアル研修会. 感染マニュアルの見直しと今後の課題, 2015.1.31, 駒ヶ根市.
	柄澤邦江、伊藤みほ子、安田貴恵子、中林明子、酒井久美子、下村聡子: 一人暮らし高齢者の看取りに関する事例検討会. 2015.3.28, 駒ヶ根市.

氏 名	内 容
西垣内磨留美	西垣内磨留美: 多民族研究学会第 22 回全国大会トーク・セッション司会. 今なゼスレイブ・ナラティヴなのか ――ハリエット・ジェイコブスの『ある奴隷少女に起きた出来事』をめぐって, 2014.7.27, 東京.
	西垣内磨留美: 日本アメリカ文学会第 53 回全国大会ワークショップ責任者. 衣装と意匠のフォークロア――20 世紀アフリカ系アメリカ人の諸相, 2014.10.5, 札幌市.
松本淳子	松本じゅん子: 音楽音響(音楽心理・演奏)セッション(座長).. 日本音響学会 2014 年秋季研究発表会, 2014.9.4, 札幌市.
	松本じゅん子: 音楽音響(知覚・認知)セッション座長. 日本音響学会 2015 年春季研究発表会, 2015.3.17, 東京都.
御子柴裕子	御子柴裕子: 子どものライフスタイルと健康～サモアと駒ヶ根の調査から～. 南部養護委員会 長野県看護大学視察研修, 2014.11.25, 駒ヶ根市(看護大学).
安田貴恵子	安田貴恵子: 地域包括ケアシステムと高齢者の生活支援ネットワーク. 日本赤十字社第 3 ブロック 赤十字健康生活支援講習, 2014.10.30, 長野市.
屋良朝彦	屋良朝彦: 哲学カフェで死生学?. 定常型社会におけるケアとそのシステム研究会, 2014.6.8, 兵庫医療大学, 神戸市.
	屋良朝彦: 人を活かす組織のリスク・マネジメント―職場のトラブル解決―(ポスター発表). スマート看護・福祉研究会「～産学連携の模索と期待～」, 2015.9.25, 長野県看護大学, 駒ヶ根市.
	屋良朝彦: その人らしい看取りとは. サンハート美和第 10 回介護セミナー講師, 2015.10.4, 伊那市.
渡辺みどり	渡辺みどり: 伊那中央病院リーダーシップ研修. リーダーシップとメンバーシップ, 2015.3.11, 伊那市.

⑥ 出版物等（五十音順）

氏 名	内 容
秋山剛	秋山 剛 (2014): 世界の現場で見てきたこと フィールドワーカーがみた”学校保健”. 健, 43(9), 6-7.
阿部正子	阿部正子 (2014. 4. 28): “負担少ない治療のきっかけに”. 信濃毎日新聞.
井村俊義	井村俊義(書評) (2014): 伊達雅彦ほか『ゴレムの表象 ユダヤ文学・アニメ・映像』(南雲堂、2013), 東北アメリカ文学研究(第 37 号), 138-140, 東北アメリカ文学会, 秋田.
	ラモン・サルディバル (2015): 戦後日本に出現した「ボーダーランズ」と越境する想像力の起源(承前)(翻訳). 東北アメリカ文学研究(第 38 号), 86-100.
西垣内磨留美	西垣内磨留美 (2014): あとがき. 松本昇, 西垣内磨留美, 吉田美津, 横田由理, 君塚淳一編, エスニック研究のフロンティア, 金星堂, 東京.
	西垣内磨留美 (2015): 今なゼスレイブ・ナラティヴなのか ――ハリエット・ジェイコブスの『ある奴隷少女に起きた出来事』をめぐって. 多民族研究 8, 6-7, 東京.
松本淳子	松本じゅん子 (2014): 研究室訪問インタビュー. 音楽知覚認知研究, 20(1), 35-37.
	Junko Matsumoto (2014): 音楽著作権侵害の予測因子 -HEXACO PI-R を用いたパーソナリティに関する調査-. Musicae Scientiae (Volume 18, Issue 1, Abstract translations), http://msx.sagepub.com/ .
宮越幸代	宮越幸代 (2014): サモアにおける医療情報管理の行方. Nursing Business, 65, メディカ出版, 東京.
	宮越幸代 (2014): サモアの精神保健と家族ケア. Nursing Business, 67, メディカ出版, 東京.
	宮越幸代 (2015): サモアにおける Tender Loving Care. 62, メディカ出版, 東京.

第3節 社会・地域貢献活動

平成26年度に本学教員が行った学外の研修会・講演会（第2節⑤講演等に記載の講演を除く）、学会等に関する活動は、延べ163件であった（表6）。

また、本学教員が行った看護職者等が取り組む研究への支援は、延べ16件であった（表7）。

（表6） 本学教員が行った社会・地域貢献活動（五十音順）

氏名	活 動 内 容
秋山 剛	国際学校保健コンソーシアム 事務局
	NPO 法人 メータオ・クリニック支援の会 事務局
	飯田女子短期大学 非常勤講師
東 修	こころの医療センター駒ケ根 職員メンタルヘルス相談
	こころの医療センター駒ケ根 看護研究研修会 講師
	こころの医療センター駒ケ根 精神科救急・急性期における院内研修会 講師
	日本看護学会精神看護学術集会交流集会「精神看護専門看護師の活動報告」発表
阿部正子	日本母性看護学会 査読委員
	日本生殖看護学会 査読委員
	科学研究費委員会専門委員（基盤C）
	日本看護協会助産師職能ワーキンググループ
	M-GTA 研究会 世話人
	日本看護科学学会 代議員
	長野県看護協会助産師職能委員会研修会 講師
	長野県看護実習指導者講習会 講師
	東都医療大学 科研費取得セミナー 講師
	駒ケ根市少子化対策支援連絡協議会 委員
	藤田保健衛生大学医学部 「総合講座 病と死の人間学」講師
有賀智也	高齢者ケア看護研究会 運営事務局
伊藤郁恵	針灸師会フィジカルアセスメント研修会 講師
今井家子	駒ケ根市みなこいワールドフェスタ実行委員 イベント開催・グループワーク講師
	駒ケ根福岡地区防災 講演会講師
	駒ケ根市赤十字奉仕団 避難所運営 講演・グループワーク講師
	日本災害看護学会 社会貢献・広報委員
	日本災害看護学会 第16回年次大会 学会企画公開講座 実技演習講師
	日本災害看護学会 第16回年次大会 ワークショップ主催（共同）
	日本災害看護学会 発表論文査読
井村俊義	長野県福祉大学校 講師
	多民族研究学会 企画委員
内田雅代	日本看護科学学会 代議員
	日本看護科学学会 査読委員
	日本看護倫理学会 評議員
	日本小児看護学会 査読委員
	日本小児がん看護学会 理事長
	日本小児がん看護学会 査読委員
	日本糖尿病教育・看護学会 査読委員
	日本小児保健協会 代議員

氏名	活 動 内 容
内田雅代	日本小児保健協会 査読委員
	長野県小児保健研究会 役員
	日本看護協会『小児がん看護専門性向上研修』研修会講師
	木曽病院『看護倫理』研修会講師
	昭和伊南総合病院『看護倫理』研修会 講師
	下伊那赤十字病院『看護倫理』研修会 講師
太田克矢	長野県公衆衛生専門学校 講師
	赤穂小学校学校評議員
岡田 実	日本精神保健看護学会 評議員
	日本精神保健看護学会誌 査読委員
	日本赤十字看護学会誌 査読委員
	第 24 回日本精神保健看護学会学術集会 座長（横浜市）
	第 22 回日本精神科救急学会学術総会 シンポジスト（旭川市）
	第 45 回日本看護学会（精神看護）学術集会 基調講演座長（松本市）
	日本精神看護協会山形県支部主催：認知症の基礎知識と BPSD への対処－看護・介護上の困難との向きあい方 講師
	長野県精神病院協会主催，事務局長・看護部長研修会（駒ケ根市）：精神科看護の質を下支えするもの 講師
	長野県立こころの医療センター駒ケ根 倫理審査委員会（外部審査委員）
柄澤邦江	日本ルーラルナース学会 評議員
	日本ルーラルナース学会 一般演題査読員
	長野県看護研究学会 査読員
	長野県飯田高等学校 評議員
	非営利活動法人のぞみの里 運営推進協議会 委員長
	一人暮らしの方の看取りに関する事例検討会 主催
北山秋雄	駒ヶ根市要保護児童等支援ネットワーク 構成員
	駒ヶ根市国民健康保健運営協議会 委員
	伊那市子育てワークショップ研修会 講師
	宮田村両親学級 講師
	(財)長野県テクノ財団 評議員
	長野県子どもを虐待から守る民間ネットワーク 構成員
	南信子どもの虐待防止研究会 世話人代表
	南信里親里子交流支援の会 顧問
	日本ルーラルナース学会 評議員
	日本民族衛生学会 評議員
	日本思春期学会 査読委員
	日本ルーラルナース学会誌 査読委員
	日本在宅ケア学会 査読委員
	飯田女子短期大学 非常勤講師
小林たつ子	公益社団法人山梨県看護協会看護教育研修センター 研修会「初めての看護研究～日頃の疑問から研究テーマを絞り込む～」ファシリテーター
	公益社団法人山梨県看護協会看護教育研修センター 研修会「准看護師のための交流会」講師
	長野県鍼灸師会上伊那地区「フィジカルアセスメントの必要性和その実践」講師分担
	公益社団法人山梨県看護協会 教育委員会委員長
	山梨県学校給食会「食中毒を予防するために」講師

氏名	活 動 内 容
近藤恵子	日本ストーマ・排泄・リハビリテーション学会：評議員・社会保険委員
	甲信ストーマリハビリテーション講習会：実行委員
	長野県ストーマリハビリテーション研究会：世話人
	日本褥瘡学会：評議員 学会誌査読
	長野県褥瘡懇話会：世話人
	長野県看護協会：教育委員 副委員長
酒井久美子	一人暮らし高齢者の看取りに関する事例検討会 グループファシリテーター
坂田憲昭	第4回基礎科学をもとにした Co-Medical 研究会 座長
佐々木美果	駒ヶ根市ベビーマッサージ教室講師
清水嘉子	日本看護科学学会 代議員
	長野県母子衛生学会 理事
	日本看護科学学会学術集会抄録査読
	スマート看護・福祉研究会 理事
	伊那谷アグリノベーション 理事
	伊南行政組合昭和伊南総合病院運営審議会 副委員長
	信濃毎日新聞 信毎賞審査委員
	駒ヶ根市山水会会員
	長野県看護人材の確保・定着に関わる検討会 委員
	信州コンソーシアム 副委員長
	伊那テクノバレー 理事
	日本看護系大学協議会 会員校代表
	公立大学協会 会員校代表
	日本母性看護学会論文 専任査読委員
喬 炎	日本未病システム学会 評議員
	JST（独立行政法人科学技術振興機構）審査委員
	日本未病システム誌査読
	「形態と機能」誌査読
竹内幸江	長野県看護実習指導者講習会 講師
	日本看護倫理学会 評議員
	日本小児看護学会 評議員 査読委員 第25回学術集会査読
	日本小児がん看護学会 査読委員
	日本看護学教育学会 査読委員 第25回学術集会査読
	日本看護科学学会 第34回学術集会査読
	長野県小児保健協会・こども健康週間シンポジウム司会
田中真木	長野県公衆衛生専門学校 非常勤講師
	長野県立こども病院 看護倫理研修Ⅰ グループワーク講師
千葉真弓	日本老年看護学会 査読員
	日本看護福祉学会 理事
	日本看護福祉学会 査読員
	長野県伊那公衆衛生専門学校 非常勤講師
	愛知県立大学大学院 非常勤講師
中林明子	長野県訪問看護ステーション連絡協議会南信ブロック研修会 講師
	一人暮らし高齢者の看取りに関する事例検討会 グループファシリテーター
那須淳子	平成26年度第2回(一社)長野県針灸師会フィジカルアセスメント研修会～フィジカルアセスメントの必要性和その実践～ 講師

氏名	活 動 内 容
西垣内磨留美	多民族研究学会 副会長
	黒人研究の会 企画委員
	アイリッシュ・アメリカン研究会 副代表
	日本アメリカ文学会第 53 回全国大会 ワークショップ責任者
	多民族研究学会第 22 回全国大会 トーク・セッション司会
	長野県赤穂高等学校評議員
	コンソーシアム信州英語教育小部会 部会員
	長野県公衆衛生専門学校非常勤講師
藤原聡子	日本医史学学会 3 月例会シンポジウム シンポジスト
松本淳子	日本音楽知覚認知学会音楽知覚認知研究編集委員
	日本音楽知覚認知学会研究発表会幹事
	日本音響学会 2014 年秋季研究発表会音楽音響（音楽心理・演奏）セッション座長
	日本音響学会 2015 年春季研究発表会音楽音響（知覚・認知）セッション座長
	長野県公衆衛生専門学校 講師（心理学，統計学）
御子柴裕子	駒ヶ根市介護保険事業計画・老人福祉計画市民懇話会 委員
宮越幸代	駒ヶ根市多文化共生のまちづくり委員
	駒ヶ根市日本語学習事業委員
	駒ヶ根市・宮田村・飯島町・松川町主催「みなこいワールドフェスタ」企画・実行委員
	日本災害看護学会 ネットワーク活動・調査調整部 委員
安田貴恵子	日本地域看護学会 評議員
	日本地域看護学会学会誌 査読委員
	日本ルーラルナーシング学会 理事
	日本ルーラルナーシング学会誌 査読委員
	信州公衆衛生学会誌 編集委員
	赤十字医療施設キャリア開発ラダー研修 飯山赤十字病院「家族支援基礎研修」講師
	医療マネジメント学会長野支部看護師分科会北信地区看護連携協議会 退院支援・退院調整基礎研修講師
	長野県看護協会認定看護管理者研修セカンドレベル 講師・レポート審査
	松本保健所管内保健師研修会「コミュニケーションワークショップ」講師
	長野県実習指導者養成講習会「保健師教育課程」講師
	長野県中堅期保健師研修グループファシリテーション（全 6 回）
	飯島町健康づくり総合推進懇話会委員
	文部科学省大学設置審議会 保健衛生学専門委員
屋良朝彦	日本学術振興会特別研究員審査員
	伊那谷 生と死を考える会 会員
渡辺みどり	日本老年看護学会 評議員・査読委員
	日本老年看護学会災害看護検討委員会委員
	日本老年看護学会第 19 回学術集会 実行委員
	日本看護福祉学会 理事・査読委員
	日本看護科学学会 代議員
	千葉看護学会 査読委員

(表 7) 本学教員が行った看護職者等が取り組む研究への支援（五十音順）

氏 名	病院等施設名	支 援 内 容
東 修	こころの医療センター駒ヶ根	院内研究指導、発表会での助言 4 題
有賀智也	伊那中央病院	看護研究指導 1 題
	長野県民主医療機関連合会	看介護研究講座講義及び発表会での講評
伊藤郁恵	伊那中央病院	院内研究指導 1 題
岡田 実	こころの医療センター駒ヶ根	研究課題の指導、発表会での助言 計 6 回
上條こずえ	昭和伊南総合病院	院内研究指導 2 題
柄澤邦江	伊那中央病院	院内研究指導 1 題、発表会での助言
小林たつ子	山梨県看護協会峡南地区看護研究会	研究発表会での講評
近藤恵子	伊那中央病院	院内研究指導 1 題
酒井久美子	伊那中央病院	院内研究指導 1 題、発表会の助言
竹内幸江	岡谷市民病院	院内研究指導および発表会助言 12 題
	県立木曽病院	看護研究講義および院内研究指導 7 題
田中真木	伊那中央病院	院内研究指導 1 題
那須淳子	伊那中央病院	院内研究指導 1 題
御子柴裕子	伊那中央病院	院内研究指導 1 題
村井ふみ	伊那中央病院	院内研究指導 1 題

第4章 社会貢献

第1節 公開講座

平成26年度に開催した公開講座の状況は、以下のとおりである。

	開催日・時間	テーマ	講師	参加人数
1	9月20日（土） 14：00～15：30	日本における循環器医療の現状と将来	榊原記念病院 高橋幸宏 副院長	36名
2	2月7日（土） 14：00～15：30	アフリカにおける看護師の国際協力	上智大学 徳永 瑞子 教授	50名
合計				86名

第2節 分野の活動

分 野	活 動 内 容
基礎看護学分野	オープンキャンパス フィジコ、AED その他シミュレーションの展示と体験の説明（血圧測定、マットレス耐圧体験など看護模擬演習コーナーを開設）
小児看護学分野	駒ヶ根市近郊に住むアレルギー疾患をもつ子どもと親の会「たんぽぽの会」の活動を支援し、学内での月1回の定例会を継続している。毎月の定例会では、アレルギーに関するミニ講話や専門学会における新たな知見や疾患管理に関する情報を提供するとともに、安心して親同士の経験を語り合える場になるよう支援している。
	「子どもの健康週間」行事として、「子どもの健康を支えるために、家庭、保育園・学校・地域でできること」をテーマに、子育て中の親の「子どもの健康管理において気がかりなこと」に焦点をあて、親、福祉・学校・医療専門職によるシンポジウムを開催した。
老年看護学分野	地域高齢者への水中運動（継続的な運動プログラムの提供と実施）と骨密度、身体機能測定、生活相談（個別対応による身体・精神・認知機能の測定及びデータの還元）の実施。
	高齢者ケア看護研究会においての研修会の企画と運営を行い、長野県内の施設に所属する看護師及び介護士などと共に、新たな知識の共有や具体的実践への取り組みについて検討した。
地域・在宅看護学分野	飯田市健康づくり家庭訪問事業について、保健師が取り組んだ家庭訪問によって把握した情報の分析作業に参加し、市の健康づくり事業としての成果をまとめる支援を行った。

※ 本学教員が行った社会・地域貢献活動については、第3章「教員の研修・研究、社会活動」第3節に掲載しています。

第5章 学内委員会等の活動及び検証

第1節 運営委員会

1 所掌事項

看護大学の管理運営に関する重要事項を調査審議する。

2 活動と成果

(1) 委員会活動

【開催日】

第1回	26年4月10日	第11回	26年10月17日
第2回	26年5月9日	第12回	26年10月31日
第3回	26年5月16日	第13回	26年11月14日
第4回	26年6月10日	第14回	26年12月12日
第5回	26年6月13日	第15回	27年1月16日
第6回	26年6月27日	第16回	27年2月2日
第7回	26年7月11日	第17回	27年2月13日
第8回	26年8月29日	第18回	27年2月27日
第9回	26年9月11日	第19回	27年3月13日
第10回	26年10月3日		

【審議内容】

大学運営に関する学長の構想・意思の具体化への検討や、教授会、人事教授会及び研究科委員会に諮る協議事項・報告事項等に関する審議及び内容の確認を行った。

(2) 成果

事前に議題の内容等を協議・点検・整理し、大学運営の方向性の確認や調整を行い、教授会等における円滑で効率的な審議に資した。

3 今後の課題

(1) 喫緊の課題

ア 編入学廃止に向けた学部定員等のあり方等について、各委員会の議論を踏まえ検討する。

イ 自己点検・評価に掲げられた各委員会等の課題解決に向け、調整・支援を行う。

(2) 将来的な課題

ア 大学院の入学定員割れの現状を踏まえ、大学院の志願者確保対策や教育方法など、大学院の在り方を含めた抜本的な改革について検討する必要がある。

第2節 広報・交流委員会

1 所掌事項

- (1) 大学の広報に関すること
- (2) 公開講座に関すること
- (3) 大学説明会に関すること
- (4) 国際交流に関すること
- (5) 地域交流に関すること

2 活動と成果

(1) 委員会活動

委員会及び開催行事は下記の通り。(行事の事前準備活動の記載は省略)

期日	審議事項／活動内容	
4月14日	1. 任務の確認 2. 委員会成立要件について 3. 副委員長の指名 4. 年間計画について 5. 活動体制について	6. オープンキャンパスについて 7. 公開講座日程及び講師について 8. 学報について 9. 進路説明会等について 10. PATHWAY について
5月22日	1. オープンキャンパスについて 2. 学報について 3. 進路説明会等について 4. 学祭内進学相談会について	5. PATHWAY について 6. 公開講座について 7. 長野県民新聞社からの高校生向け 県民新聞への掲載に関して
6月20日	1. 進路説明会等について 2. オープンキャンパスについて	3. 公開講座について 4. 学祭内進学相談会について
7月14日	1. 公開講座のポスターについて 2. 学報について 3. 進路説明会等について	4. オープンキャンパスについて 5. オープンキャンパスの学生相談 コーナーについて
8月2日	オープンキャンパス	
9月5日	1. 大学掲示板について 2. 進路説明会等について 3. 学祭内進学相談会について	4. オープンキャンパス総括 5. 第1回公開講座について 6. 第2回公開講座日程について
9月20日	第1回公開講座	
9月20日	鈴風祭における個別進路相談	
12月1日	1. 公開講座について 2. 進路説明会等について	3. 学報について 4. 来年度 PATHWAY について
1月26日	1. 次年度オープンキャンパスについて 2. 第2回公開講座について	3. 学報について
2月7日	第2回公開講座	
3月5日	1. 今後の学生募集活動について 2. 次年度オープンキャンパスの日程 について 3. 進路説明会等について 4. 学報のホームページへの掲載について	5. 学外掲示板の更新について 6. 公開講座の振り返り、及び次年度公 開講座について 7. PATHWAY について

(2) 成果

1) 進路説明会、模擬授業等

学外よりの依頼が近年増加し、教員の時間対効果、出張費用対効果等の検討、対応の改善が急務であったため、一定の基準を作成し、精査を行い、対応を行っている。

オープンキャンパス、及び学祭内の進学相談会の担当教員の選出方法に関して、検討を行った。次年度は新規の方法に改善する。

2) 大学案内 PATHWAY 発行

昨年度より、大幅に内容刷新された大学案内を発行しているが、高校生にわかりやすい大

学案内を目指し、検討を続けている。

3) 学報発行

読みやすく充実した紙面の学報を2回発行し、関係各所に配布した。

4) 大学説明会（オープンキャンパス）

午前、午後を通しての開催とし、例年の内容に加え、学生トークライブ、模擬授業を盛り込み、好評を得たこれまでの内容を継続し、スケジュールを一部改正して開催した。参加者は、602名であった。チラシを作成し、高校等に配付した。全体の流れはスムーズで、参加者アンケートからもおおむね好評を得た。

5) 公開講座開催

第1回「日本における循環器医療の現状と将来」

講師：高橋幸宏（榊原記念病院副院長）

参加者：36名

第2回「アフリカにおける看護師の国際協力」

講師：徳永瑞子（上智大学総合人間科学部看護学科教授）

参加者：50名

第1回、第2回ともに、参加者アンケートの結果は良好であった。従来、学外の講師は1回であったが、学長推薦により、26年度は2回とも学外講師をお迎えした。

6) 学外掲示板の更新

公開講座のポスターほか、学内より掲示物を募集して更新している。

7) 県や業者による広報誌、パンフレットの内容の作成、確認

8) 大学院案内パンフレット発行

3 今後の課題

（1）喫緊の課題（懸案事項）

上記恒例事業の企画、実施が最重要課題である。

オープンキャンパスをはじめ、委員会所掌の行事において多数の参加者が得られたが、今後も大学の広報に努め、内容を検討し、滞り無く安全に行事を開催できるよう、企画、準備する。

進路説明会等への教員派遣については、教員の他の業務を勘案し、精査を行い対応することとしているが、依頼件数が年々増加しているため、対応件数が減少しない。高校からの模擬授業や大学訪問の依頼については、できるだけ対応するが、業者による説明会等は、成果を検討しつつ引き続き精査を行い、場合によっては資料参加など、効果的な対応を行う。

（2）将来的な課題

少子化時代の学生募集対策として、従来の事業実施に加え、本学で高校の進路指導担当教員の意見・情報交換会等を企画する、また、本学から積極的に高校訪問を行うなど、大学執行部の意見が出ている。実施事項や方法について運営委員会等で協議を行った上で、委員会として企画実施の準備を進める。

大学ホームページ、特に、Q&Aなど、内容を充実させる。

第3節 教務委員会

1 所掌事項

- 1) カリキュラムの進行にあたり必要な事項の検討
ガイダンスの計画
学生便覧・シラバスに関すること
時間割の作成
非常勤講師の任用
卒業研究の要綱の検討・ガイダンス・担当教員の調整
- 2) 履修に関すること
履修登録の確認（重複登録、未登録等、特に再履修の科目の多い学生
復学している学生について）
必要時、学年顧問と連絡を取り、学生の履修面の相談
編入生の履修相談
卒業判定・単位認定資料の確認作業
平成 27 年度編入学生の単位認定
- 3) カリキュラムの改善に関する検討

2 活動と成果

（1）委員会活動

第1回：平成 26 年 4 月 15 日（火）

- 1) 平成 26 年度教務委員会の運営体制と活動計画等について
平成 26 年度副委員長の決定及び班分け
今年度は、カリキュラム推進班と履修に関するサポート班の 2 班とし、編入生の単位認定は、履修に関するサポート班の担当とする。
- 2) 針刺し事故の発生に対する対処方法規定の改正について
- 3) 退学願いについて

第2回：平成 26 年 5 月 14 日（水）

- 1) 履修登録期間中の学年顧問への履修相談（報告）
- 2) 文部科学大臣への変更承認申請の適正化について
- 3) 入学前の既修得単位の認定について
- 4) カリキュラム評価の進め方について

第3回：平成 26 年 6 月 4 日（水）

- 1) 学部学生の定員増を想定した教育活動の課題に関する意見調査について
- 2) 学位授与方針として到達すべき学修内容や水準の検討について

第4回：平成 26 年 7 月 8 日（火）

- 1) 休学願いについて
- 2) 学部学生の定員増を想定した教育活動の課題に関する意見調査結果について

第5回：平成 26 年 9 月 9 日（火）

- 1) 休学願いについて
- 2) 年度途中で卒業する学生の卒業判定について
- 3) 平成 27 年度以降の科目の開講時期の変更について

第6回：平成 26 年 10 月 8 日（水）

- 1) 平成 27 年度学年歴について
- 2) 平成 27 年度シラバス・学生便覧の作成スケジュール等について

- 3) 授業開講時期の変更について
- 4) 平成 27 年度の非常勤講師について

第 7 回：平成 26 年 11 月 10 日（月）

- 1) 休学願いについて
- 2) 平成 27 年度卒業研究について
- 3) 平成 27 年度教務ガイダンスについて
- 4) ディプロマポリシーについて

第 8 回：平成 26 年 12 月 8 日（月）

- 1) 平成 27 年度非常勤講師に新たに依頼する非常勤講師について
- 2) 平成 27 年度学年歴及び時間割について
- 3) 平成 27 年度成人看護学授業科目運営について
- 4) 平成 27 年度教務ガイダンスについて
- 5) 卒業研究に関する履修学生のアンケートについて

第 9 回：平成 27 年 1 月 13 日（火）

- 1) 平成 27 年度非常勤講師について（エンカウターの検討）
- 2) 平成 27 年度科目等履修生募集要項について
- 3) 平成 27 年度県内大学単位互換履修生募集要項について
- 4) 平成 27 年度以降のフィジカルアセスメントの開講時期について
- 5) 平成 27 年度学生便覧について
- 6) 平成 27 年度助産選択履修生の選考について

第 10 回：平成 27 年 2 月 10 日（火）

- 1) 平成 27 年度以降のフィジカルアセスメントの開講時期について（科目担当者との話し合い）
- 2) 卒業認定について
- 3) 編入生単位認定について
- 4) 卒業研究に関するアンケート結果について
- 5) カリキュラムポリシー等の検討について（趣旨とワーキンググループの編成）
- 6) 初年次教育の検討について（趣旨とワーキンググループの編成）

第 11 回：平成 27 年 3 月 10 日（火）

- 1) 平成 27 年度卒業研究の学生配置について
- 2) 平成 27 年度時間割について（全体の確認）
- 3) 平成 26 年度在学生の単位修得状況について
- 4) 平成 27 年度教務ガイダンスについて
- 6) 履修規定の改正について（文部科学大臣への変更申請）
- 7) 初年次教育に関する教員意見調査の内容と方法について
- 8) カリキュラムポリシー等の検討について（ワーキングからの報告）

（2）成果

- 1) カリキュラム評価の一部として平成 26 年度卒業研究履修学生を対象に、学習目標の到達状況や学んだことに関するアンケート調査を行った。結果、シラバスに記載している学習目標はほぼ到達できていることを確認した。また、ガイダンスの実施時期や方法に関する評価を得た。
- 2) 教務ガイダンスの内容とタイムテーブルの見直しを行い、教務に関する内容、学生生活に関する内容、健康診断の流れが、断片的とならないように再編成を行った。

- 3) 教育課程の編成方針、学位授与方針についてワーキンググループを編成して検討を開始した。教育課程を構成している 4 つの要素と授業科目との関連について明確にするべく検討を行っている。
- 4) 学長提案を受けて初年次教育の充実についてもワーキンググループを編成して検討を開始した。3 月には教員の意見調査を実施した。

3 今後の課題

(1) 喫緊の課題

- 1) 成人看護学の教育体制のサポート
 - ・教員退職に伴い、平成 26 年度は老年看護学分野主任が成人看護学分野の主任を兼務するという方法で分野運営を保持し、老年看護学分野の協力を得て授業をカバーしてきた。平成 27 年度は教務委員会で随時運営状況を把握し必要なサポート行うこととする。
- 2) 平成 24 年度カリキュラム改正に伴う継続課題
 - ・休学から復学する学生、単位不可となった学生等への対応について、カリキュラム変更による学生の不利益をできるだけ少なくする方向で検討していく。
- 3) 教育課程の編成方針、学位授与方針の明確化
 - ・平成 26 年度からの継続課題としてワーキンググループによる原案を教務委員会で検討していく。
- 4) 初年次教育の充実について
 - ・平成 26 年度からの継続課題として、教員の意見調査結果を踏まえたワーキンググループによる原案を教育委員会で検討していく。
- 5) 推薦入試試験で入学する学生に対する事前課題について
 - ・以前からの懸案事項である。平成 28 年度入試の入学生に対して実施できるよう検討する。

(2) 継続的な課題

- 1) 各年次における学生の学修状況の到達度を把握しながら、カリキュラムの改善に取り組む。

第 4 節 実習委員会

1 所掌事項

(1) 実習の目標・計画・実施・評価に関すること

- 1) 実習要項（共通部分）の作成、2) 看護専門領域実習の学生グループ分けおよび実習ローテーション表の作成、3) 実習記録等に関する調整事項、4) 実習の実施に関する調整事項、5) 実習の教育評価に関する事項

(2) 実習施設との連絡調整に関すること

- 1) 実習施設との連絡調整（各分野）のサポート、2) 実習指導者会議に関すること
- 3) その他実習施設との連絡調整に関すること

(3) 実習中における安全と事故防止に関すること

- 1) 「個人情報保護」や「同意書」等への対応、2) 事故発生時の対処方法
- 3) 災害発生時の対処方法

(4) その他

- 1) 実習に関わる交通機関の調整に関すること、2) 実習用学生ユニフォームに関すること、3) 実習期間中に使用するバス、共用の学内の部屋、携帯電話の調整

2 活動と成果

(1) 委員会活動（下記項目の他、毎回実習状況の報告および学生の情報交換を実施）

1) 第1回委員会

- ①実習委員会の任務などの確認および副委員長を選出
- ②平成26年度実習委員会活動計画、役割分担、会議日程等の検討
- ③実習交通費の補助に関する今後の手続き等について
- ④「学生の卒業時における看護技術到達度の把握」（25年度からの検討事項）
に関する今後の取り組みについての検討

2) 第2回委員会

- ①交通費の補助に関する様式の検討
- ②臨地実習における針刺し事故の規程およびフローチャートの再検討

3) 第3回委員会

- ①インシデント報告（3件）
- ②交通費の補助に関する手続きの確認
- ③臨床実習施設とのユニフィケーション構想に関して

4) 第4回委員会

- ①インシデント報告（7件）
- ②学部定員85人体制に関する各分野での検討結果
- ③実習施設への交通手段及び交通費の補助に関して
- ④専門領域オリエンテーションの日程、内容の確認
- ⑤平成26年後期実習ローテーション
- ⑥管理実習に関して
- ⑦平成27年基礎看護実習Ⅱに関して

5) 第5回委員会

- ①3年生・4年生合同の国際看護実習の報告
- ②インシデント報告（2件）
- ③実習バスの運行に関する検討
- ④平成26年度後期実習ローテーションについて検討

6) 第6回委員会

- ①看護管理実習での学生の結核患者との接触について
- ②平成26年後期新カリキュラムによる実習開始後の各専門分野からの概要報告
- ③インシデントの報告（2件）
- ④助手・助教の実習指導に関するFDの計画について
- ⑤平成27年度国際看護実習履修生の選考及び日程について

7) 第7回委員会

- ①インシデント報告（5件）
- ②助手・助教の実習指導に関するFD（企画案）の検討
- ③平成27年度国際看護実習履修生選抜について

④基礎看護実習Ⅱの9月～10月への移動によるロッカー及びカードキーの課題

⑤実習病院とのユニフィケーション

8) 第8回委員会

①インシデント報告(1件)

②学長より看護連携型ユニフィケーション事業の説明

③実習バスの運行について

9) 第9回委員会

①インシデント報告(1件)

②拡大実習委員会の日時、内容の検討

10) 第10回委員会

①助手・助教の実習指導に関するFD企画の最終案とアンケート案の検討

②平成27年度前期の地域看護実習グループメンバーの変更について

③実習バス運行に関する調整について

④拡大実習委員会の各分野での報告および全体協議に関する検討について

⑤平成27年後期の地域看護実習における交通手段と交通費補助に関する課題

11) 第11回委員会

①インシデント報告まとめ(平成26年度21件)

②助手・助教の実習指導に関するFDの報告と今後の課題の検討

③平成27年度前期の実習バスの運行について

④交通費の補助に関する今後の方向性について

(2) 成果

1) 新カリキュラムによる後期実習の実施と評価

平成26年後期から新カリキュラムによる12週間の専門領域の実習へと移行し、各分野による新たな課題への対処等により、大きな問題は無く順調に進行したことが確認された。

2) 平成26年後期からの自家用車による交通費補助に関する新たな取り組みについては大きな混乱はなく実施できたが、今後タクシー補助等に関する新たな課題も確認された。

3) 実習生の結核患者との接触に関する対応について

結核患者に接触した学生3名は、教務委員長からの生活指導、保健師による実習病院・保健所との連絡調整の結果、学生達は特に接触者健診をうける必要がないことが確認され、その後学生達の健康状態は良好に推移している。

4) 助手・助教の実習FDについて

「実習指導上困難を感じていることについての情報交換と対応策の検討」に関する実習担当者同士の話し合いは、内容や方法等に関して参加者に好評であったが、①4年間を通した系統的な学生への支援(学生の学習課題の継続支援)、および②指導が困難な学生に関する教員間の情報交換のシステムに関する課題が確認された。

5) 拡大実習委員会の開催

各分野の26年度の実習報告および検討課題を参加者に事前に提示し、会議では課題の確認と協議に焦点を当てることができ、今後の検討事項を合意できた。

3 今後の課題

(1) 喫緊の課題（懸案事項）

1) 実習交通費に関する今後の課題への対応

遠隔地の実習場所へのタクシー補助に関して、現状のとりきめでは、学生負担が大きく、公平性が保てない事態が予想される。また、補助の総額が増加している現状であり、27年度の財源の確保について喫緊の課題である。

2) 次年度の新たな実習場の確保による実習バスの運行管理に関すること

3) 実習FDの次年度開催に向けた検討

「学生の学習課題の継続」と、「指導が困難な学生の情報共有」に関して、今後、委員会として何らかの取り組み(調査等を踏まえた体制作りや新たな企画等)を検討する必要がある。

4) 実習施設とのユニフィケーションに関する委員会活動

4つの実習施設の臨床実習指導者との話し合いを基に、ニーズを把握しながら、①実習担当者の現代の学生の理解および、②施設を越えた担当者間の実習指導に関する情報共有、③施設側と大学関係者の関係構築等を促進し、よりよい実習環境を協働し構築していきたい。

5) 実習中の安全と事故防止に関すること

平成26年度のインシデントは21件と例年に比べ多かった。内容は、自己判断によるケアの単独実施9件、実習記録やメモ等の紛失6件などが多く、ガイダンスや各分野のオリエンテーション等での学生への周知・啓発によるインシデント防止の活動を行う必要がある。

(2) 将来的な課題

1) 実習交通費の財源の確保に関する課題

学生への実習費の徴収など財源確保に関して大学全体としての取り組みが必要である。

2) 実習の評価に関する指標の検討

平成26年度後期から開始した新カリキュラムによる実習の評価に関する指標の検討が必要である。

3) 実習指導に関する教員のFDの検討

多様な学生個々への教員の対応技術等の向上とともに4年間を通した学生の成長を支援するための学生および教員への体系的なプログラム等の検討が必要である。

第5節 入試検討委員会

1 所掌事項

- (1) 大学入試に関すること
- (2) 入試科目及び期日の選定に関すること
- (3) 合否判定の基礎資料に関すること
- (4) 入試の追跡調査に関すること
- (5) 入試のあり方に関すること
- (6) その他入試に関すること

2 活動と成果

(1) 委員会活動

開催回数	開催日	議 題
1	平成 26 年 4 月 15 日 (月)	1) 今年度の活動計画について 2) 各試験担当者の割り振りについて 3) 編入学試験の「停止」および「廃止」について 4) 編入学試験の募集要項について
2	5 月 13 日 (火)	・平成 27 年度入学者選抜に関する要項の確認
3	6 月 24 日 (火)	1) 平成 27 年度入学者選抜に関する要項の再確認 2) 平成 27 年度学生募集要項について 3) 入試業務配置表について 4) 一般選抜入学試験（前期日程・後期日程）の面接試験共通質問項目について
4	7 月 23 日 (水)	1) 平成 27 年度編入学試験の実施組織表について 2) 編入学試験の面接試験共通質問項目について 3) 編入学試験問題作成の進捗状況について
5	9 月 6 日 (土)	・平成 27 年度編入学試験結果一覧に基づく合否判定について
6	9 月 10 日 (水)	1) 平成 27 年度大学入試センター試験監督について 2) 平成 27 年度大学入試センター実施の主な変更点について 注) 平成 27 年度大学入試センター実施の変更点が複雑かつ多様なため、今年度は、第 1 回説明会を 11/18(火)研究科委員会終了後に実施することにした。
7	10 月 9 日 (木)	1) 平成 27 年度推薦・社会人入学試験の実施組織表 について 2) 面接試験の共通質問項目について 3) 「平成 27 年度大学入試センター試験監督要領」の説明
8	11 月 15 日 (土)	・平成 27 年度推薦・社会人選抜試験結果一覧に基づく合否判定について
9	12 月 11 日 (木)	1) 平成 27 年度大学入試センター試験 実施組織表 2) 試験室別受験者数等一覧表について 3) 監督要領附属資料について
10	平成 27 年 1 月 6 日 (火)	1) 平成 27 年度大学入試センター試験の問題冊子等の搬入および仕分け作業について 2) 本学の第 2 回センター試験説明会 (12/16) で出された意見、質問等への対応について 3) 本学の第 3 回センター試験説明会 (2015/1/13) について
11	2 月 3 (火)	1) 平成 27 年度学部入学試験関係日程 (案) について 2) 平成 27 年度一般試験前期日程試験および後期日程試験の組織表について 3) 一般試験（前期日程試験）における面接試験の共通質問項目について 4) 公立大学の入学者選抜に関する平成 27 年度実施日程について
12	2 月 26 日 (木)	・平成 27 年度一般試験（前期日程試験）の結果および合否判定
13	3 月 3 日 (火)	・一般試験（後期日程試験）における面接試験の共通質問項目について
14	3 月 12 日 (木)	・平成 27 年度一般入学試験（後期日程）の合格者について

(2) 成果

1. 平成 27 年度大学入試センター試験は、数学と理科の「旧履修課程」受験生に対応するため複雑かつ広範な変更となることから、万全を期するため、大学入試センター試験事前説明会を、11 月 18 日(火)と 12 月 16 日(火)と翌年 1 月 13 日(火)の計 3 回実施し、当日滞りなく終了できた。
2. 小論文試験採点における「素点方式」が定着してきた。
3. 面接試験の「共通質問項目」の運用が定着してきた。
4. 平成 28 年度編入学試験の「募集停止」が確定した。

3 今後の課題

(1) 喫緊の課題（懸案事項）

1. 平成 27 年度一般試験前期日程試験および後期日程試験の志願者数が激減した。特に、前期日程試験志願者数が、過去 5 ヶ年で最低の 1.7 倍まで落ち込んだ。今回の志願者激減の主因は、大手予備校が本学合格ラインの得点率を高く設定・公表したことによると思われる。しかし、長期に低迷していることも事実であることから、県内高校訪問、試験会場の増設等の積極的・包括的対策が喫緊の課題となっている。
2. 編入学試験「募集停止」から「募集廃止」を視野に入れた各選抜試験定員枠(特別枠等)の検討が急務となっている。

(2) 将来的な課題

1. 面接試験の配点化
2. 試験結果の開示範囲の検討
3. 推薦入学生の質確保対策(当該高校/教育委員会への依頼、アウトリーチ)
4. 各選抜試験別追跡調査
5. 推薦入学試験の出願資格における調査書の「全体の評定平均値 4.0 以上」の見直し(どのような学生を受け入れるかの全学的検討)

第6節 図書・紀要委員会

1 所掌事項

- 図書委員会：① 図書の整備及び購入計画に関すること
② 図書館の運営に関すること
③ 学内情報処理に関すること
- 紀要委員会：① 紀要に関する事項について調査及び審議すること

2 活動と成果

(1) 委員会活動

図書委員会

- 1) 第1回：平成26年4月22日（火）
 - ①委員会における人事について
 - ②平成26年度図書館開館カレンダーについて
 - ③図書館資料の除籍について
 - ④図書館業務の民間への委託に関するワーキンググループについて
- 2) 第2回：平成26年6月10日（火）
 - ①平成25年度の図書館活動報告

- ②図書館資料の除籍について
- 3) 第3回：平成26年7月29日（火）
 - ①平成27年度図書購読洋雑誌の見直し案について
- 4) 第4回：平成26年9月10日（水）
 - ①平成27年度図書購読洋雑誌の見直しについて
 - ②図書館資料の除籍について
- 5) 第5回（電子メールによる会議）：平成26年9月22日～9月26日
 - ①平成27年度図書購読洋雑誌の見直しについての再協議
- 6) 第6回：平成26年10月6日（水）
 - ①平成27年度図書購読年間購読予定額の変更について
 - ②JAIROCLOUDの負担金支出について
- 7) 第7回：平成26年11月11日（火）
 - ①平成27年度図書館購読洋雑誌について（報告）
 - ②図書館資料の除籍について（報告）
 - ③平成27年度電子ジャーナルの選定について
- 8) 第8回：平成26年12月15日（月）
 - ①平成27年度の図書館和雑誌の見直しについて
- 9) 第9回：平成27年1月30日（金）
 - ①平成27年度の図書館和雑誌の見直しについて
 - ②平成27年度図書館開館計画の策定について
- 10) 第10回：平成27年2月27日（金）
 - ①平成27年度図書館開館カレンダーおよび開館計画について
 - ②平成27年度メディカルオンラインの契約について
 - ③平成27年度医中誌WEB・最新看護索引WEB・CiNiiの契約について
- 11) 第11回：平成27年3月24日（火）
 - ①平成27年度図書館開館カレンダーおよび開館計画について
 - ②メディカルオンライン追加契約(覚書)について

紀要委員会

- 1) 第1回：平成26年4月22日（火）
- 2) 第2回：平成26年6月10日（火）
- 3) 第3回：平成26年7月29日（火）
- 4) 第4回：平成26年9月10日（水）
- 5) 第5回：平成26年10月6日（月）
- 6) 第6回：平成26年11月11日（月）
- 7) 第7回：平成26年11月27日（木）
- 8) 第8回：平成26年11月28日（金）
- 9) 第9回：平成26年12月11日（木）
- 10) 第10回：平成27年2月5日（金）
- 11) 第11回：平成27年2月16日（月）
- 12) 第12回：平成27年3月9日（月）
- 13) 第13回：平成27年3月24日（火）

以上の日程で次の事項を実施した

- ①平成26年度紀要原稿の募集日程について
- ②平成26年度紀要編集・発行日程について
- ③紀要原稿の査読者と編集担当者の決定
- ④紀要原稿の査読結果の取り纏めと編集作業
- ⑤紀要に係る経費の削減について

(2) 成果

図書委員会

- 1) 図書館開館計画の策定と図書館所蔵資料の廃棄・除籍など、円滑な図書館の運営
- 2) 購読雑誌及び電子ジャーナルの選定など、図書館予算の適正な執行

紀要委員会

- 1) 長野県看護大学紀要の発刊

3 今後の課題

(1) 喫緊の課題（懸案事項）

図書委員会

- 1) 図書館の運営にかかる年間予算は、本学におけるその他の予算と同様に、年々減額され続けている。こうした状況下にあつては、限られた予算をどのように活用し、現在の図書館機能を如何に維持していくかが喫緊の課題となるであろう。運営経費の減額に相応し、購読和洋雑誌タイトルの更なる削減や、購入書籍の精選、電子ジャーナルのより有効な活用等も含めて、具体的な見直しを提供サービスの全般について行う必要があると考える。

紀要委員会

- 1) 前年度の紀要委員会でも指摘されていたが、紀要の位置づけについて考える必要がある。本学においては、紀要原稿の査読候補者となる教員の数やその専門分野に限りがある。投稿原稿の内容について、それぞれに相応しい研究分野の査読者を決めていくが、それらが必ずしも符号するとは限らない。このことは査読結果における適正な評価や公平性に影響をおよぼす可能性もある。査読結果の妥当性を担保しつつ、投稿原稿の数と質を確保していくためには、これまでの査読システムの見直しも含めて、紀要の位置づけ自体を考えていく必要があるかも知れない。
- 2) 大学の運営経費については、このところマイナスシーリングが実施されている。紀要の発刊に係る経費の削減についても、発行部数の見直しや電子ジャーナルへの移行等の具体的な方策を探っていく必要がある。

(2) 将来的な課題

図書委員会

- 1) 現在、本学付属図書館業務の民間への委託について検討が行われている。委託が決定された場合には、その導入に際して大学側の図書館運営に係るシステムを再構築することが必要になる。委託先との連携の調整や業務の遂行に係る管理・連絡体制等の整備が不可欠となるであろう。

紀要委員会

- 1) 「喫緊の課題（懸案事項）」の項で述べたように紀要の位置づけについて考えるとき、紀要を学会誌とすることも方策の一つと考える。そうすることで、学外への投稿原稿の募集や査読の依頼が可能となるであろうし、投稿論文数をいま以上に確保することもできると思われる。また、年間を通しての投稿の受付や、年度複数回の発刊も可能となるかもしれない。将来的には、こうした議論も必要ではなかろうか。

第7節 学生委員会

1 所掌事項

- ①学部及び大学院の学生の生活指導及び援助に関すること（新入生オリエンテーション合宿に関することを含む）
- ②学部及び大学院の学生の課外活動に関すること
- ③学部及び大学院の学生の健康管理，健康相談及びカウンセリングに関すること
- ④寄宿舍及び寄宿生に関すること
- ⑤奨学生に関すること
- ⑥学部及び大学院の学生の就職に関すること
- ⑦その他学部及び大学院の学生の厚生に関すること

2 活動と成果

（1）委員会活動

開催日	活動内容（○報告 ●協議）
第1回 4月15日	○平成25年度キャリア支援活動報告○卒業生の進路報告・国家試験の結果報告○平成26年度看護師国家試験ガイダンス報告○平成26年度新入生ガイダンスの概要報告 ●平成26年度キャリアガイダンス実施計画●平成26年度学生委員会役割分担
第2回 5月13日	○就職情報会社への対応○平成26年度卒業予定者の進路希望○寄宿舍の設備状況○保健室年報 ●平成25年度新入生オリエンテーション合宿アンケート結果●平成26年度新社会人ワーキングセミナー実施計画
第3回 6月17日	○学生支援機構奨学金申請と返還○キャリアガイダンスⅠ○大学創立20周年記念事業の卒業生シンポ○鈴風祭○サークル活動 ●国家試験受験支援●進路面接（案）●学生生活アンケート●養護教諭の就職試験対策
第4回 7月15日	○オープンキャンパス○鈴風祭 ●学生生活アンケート調査日程●中山間地自治体の保健師確保困難な状況説明●アルバイト学生が抱える問題
第5回 9月16日	○鈴風祭の準備状況○ワーキングセミナー結果○学生のアルバイトアンケート調査予定○卒業予定者内定状況○国試日程 ●行政保健師採用試験調査●サークルの学外活動時の注意
第6回 10月21日	○卒業予定者進路状況○就職情報会社の就職先斡旋に関する注意喚起○学生生活アンケート集計状況○学生アルバイトに関するアンケート集計状況 ●就職・採用活動開始時期変更（厚生労働省）に係る対応●行政保健師採用試験アンケート内容の検討●キャリアガイダンスⅢ-①②（案）●委員会所要調査表
第7回 11月25日	○卒業予定者の進路状況○国試ガイダンスⅡ○国試公開模試結果（前年度卒業生との比較）○20周年記念卒業生シンポ ●国家試験特別補講（案）●キャリアガイダンスⅢ-①②（最終案）●学生アルバイトのアンケート集計結果
第8回 12月18日	○卒業予定者進路状況○国試公開模試結果○キャリアガイダンスⅢ-①の実施状況，Ⅲ-②の予定 ●平成27年度教務ガイダンスの時間配分●平成27年度オリエンテーション合宿日程と準備●学生便覧・学生相談しおり・進路指導手引き作成●学生相談状況

第9回 1月20日	○卒業予定者進路状況○キャリアガイダンスⅢ-②実施○国家試験受験説明会○インフルエンザ発症状況 ●平成27年新入生オリエンテーション合宿役割分担●学生便覧「学生生活」部分の点検●学生相談状況
第10回 2月13日	○卒業予定者進路状況○国家試験公開模試の結果○キャリアガイダンスⅢ-③○国家試験受験説明会○インフルエンザ発症状況（予防投与に関して） ●国家試験合格発表時の対応●公務員対策講座●平成27年度新生オリエンテーション合宿（各セッション説明）●学生の引越し日程
第11回 3月17日	○平成26年度卒業生・修了生進路内定状況○自治体保健師採用試験採用状況アンケート結果○平成27年度新生オリエンテーション合宿○国試合格発表時の対応確認 ●学生生活しおり●平成27年度キャリア形成支援（案）●平成27年度国家試験ガイダンス（案）

（2）定例の委員会以外で学生委員会が中心となった会議・活動等

学生生活ガイダンス	平成26年4月4・7日 各学年に対して学生生活ガイダンス 青少年生活設計講座（1・2・3・4年生） 年金制度説明会（1・2・3・4年生） 防犯講習会（1・2・3・4年生）
新生オリエンテーション合宿	平成26年4月8-9日，たつのパークホテル 参加者数：新生85名，教職員延51名（宿泊13名）
就職・キャリア支援関係	第6第2節参照
国家試験特別補講	・看護師：1月29日（13：00～16：50） 太田教授，坂田教授，喬教授 ・保健師：1月22日（10：30～17：50） 原非常勤講師，御子柴講師，北山教授，秋山講師 ・助産師：1月7日（9：00～12：00） 阿部准教授，西村講師
次年度新生オリエンテーション合宿準備会議	平成27年2月19日（木）：10：30～11：30
看護師保健師助産師国家試験会議	平成27年3月25日（水）：14：00～

（3）成果

- ・各学年に学生生活ガイダンスを学年顧問と協力して実施できた。
- ・新生オリエンテーション合宿を事故もなく滞りなく実施でき，新生どうし，あるいは新生と教職員の交流を図り，学生生活への移行を支援することができた。
- ・キャリアガイダンスⅠ・Ⅲ・Ⅳは計画通り実施することができた。
- ・キャリアガイダンスⅡは創立20周年記念事業のシンポジウムとして実現され，有意義な企画となった。
- ・「学生生活アンケート」の回収率を上げ，より正確な学生生活の実態調査につなげることができた。
- ・「学生アルバイトのアンケート調査」を初めて実施し，ブラックな雇用主と雇用環境の実態を把握することができた。
- ・「平成27年度4月採用「保健師採用試験」アンケート（自治体行政保健師の公募と応募状況の調査）を初めて実施し，公募しても応募者がいない深刻な実態が明らかとなった。
- ・卒業生・修了生キャリア形成支援部門と連携し，卒業生の職場での新人研修体制の実態をアンケート調査によって明らかにできた。

3 今後の課題

(1) 喫緊の課題（懸案事項）

- ・平成 26 年度のキャリアガイダンスⅡは創立 20 周年記念事業の卒業生シンポジウムとして実現されたが、参加を促した宣伝の割に在学生の参加が残念ながら少なかった。平成 27 年度のキャリアガイダンスⅡは、在学生と卒業生との交流を図ることを骨子に新たな構想が必要である。
- ・アルバイト学生の一部にブラックな雇用実態があることがアンケート結果から明らかになった。口コミによる安易な求人に応じないように、また、不本意な雇用実態がある場合は近くの教職員に相談できる体制が必要である。
- ・中山間の市町村が行政保健師の確保に難儀していることがアンケートから明らかになった。県内の保健医療福祉の人材を輩出する本学として軽視できないとの認識のもと、何らかの対応を考える必要がある。
- ・新入生オリエンテーション合宿の企画・運営を担当する教職員の負担が重いことに配慮し、新たな企画・運営の方策を工夫する必要がある。
- ・卒業生・修了生キャリア形成支援部門と連携を図り、卒業生の職場適応の状況や新人研修体制の実態を把握することができたが、これを継続する必要がある。
- ・看護師国家試験の合格率が全国平均を下回った事態を真摯に受け止め、4 年生が受験対策に早期に向き合えるようないくつかの対応が求められている。

(2) 将来的な課題

- ・新入生オリエンテーション合宿の企画・運営の在り方を見直し、学内実施を視野に入れて検討する。
- ・中山間地域において行政保健師確保に困難な市町村にリクルートの支援策を検討する。
- ・卒業生が国家試験に 100%合格できるように、各種の支援策を工夫する。

第8節 ネットワーク推進委員会

1 所掌事項

(1) 流通に関すること

- ア コンピューターネットワーク（以下「ネットワーク」という。）のデザイン策定と執行
- イ ネットワークにかかわる予算策定と折衝
- ウ ネットワークにかかわる機器の購入・設置・設定
- エ ネットワークのセキュリティ対策
- オ ネットワーク関連機器の監視
- カ ネットワークに関するクレーム対応
- キ アウトソーシング業者の窓口
- ク メールアドレスの登録削除変更の学内側の窓口
- ケ メールアドレス管理

(2) 公開に関係すること

- ア 「長野県看護大学ウェブサイト管理運営要領」および「ガイドライン」に示される業務
- イ 大学ウェブサイト（広報関係）の制作主体

(3) IT 啓発に関係すること

- ア 学内教職員（学生）向けの啓発活動

(4) その他委員会が必要と認める事項

2 活動と成果

(1) 委員会の開催 9 回と下記の関する活動を行った

- ・ Google Apps の管理
- ・ サイボウズの管理
- ・ SSLVPN の管理
- ・ 人事異動に伴う各種アカウントの処理
- ・ ESET および SPSS ネットワークライセンスの認証サーバーの構築
- ・ SPSS ネットワークライセンス(サーバー管理とインストの補助)
- ・ アンチウイルスソフト ESET Endpoint Protection(サーバー管理とインストの補助)
- ・ Firewall の機器更新の検討
- ・ バーチャルサーバー (インフォバレーと GMO の 2 台) の管理
- ・ ドメインの管理 (nagano-nurs. ac. jp および. com)
- ・ 大学ホームページの管理
- ・ ホームページを利用した広報活動
- ・ DHCP サーバー (L 2、L 3) 等の機器の管理
- ・ 新任教職員への G メール・サイボウズ等の使用方法のガイダンス
- ・ 新入生等への Gメールの使用およびスマホでの受信ガイダンス
- ・ 領域別実習の全体オリエンテーションでのメール受信方法ガイダンス
- ・ 学内の設置されている無線 LAN のパスワードによる使用制限の使用状況の監視
- ・ 大講義室と図書館の無線 LAN の管理
- ・ 大学院生室 1 から 4 の無線 LAN の管理
- ・ 大学院生室 1 から 4 のネットワークプリンターへの接続サポート
- ・ 上記以外の各種個別ガイダンスやサポート
- ・ 予算申請について

(2) 成果

○多くの活動等で、現状のレベルを維持または向上させ、IT インフラや広報的な点からも学内外へ貢献することができた (HP, Eメール, ESET, サイボウズ, SSLVPN, SPSS ライセンス, ドメイン管理等)。これらのインソースによる作業は、アウトソーシングした場合に比べ相当額の経費節減にも寄与したと考えられた。
これらの項目の中でも下記は特筆すべき成果であった。

- ・ ESET および SPSS ネットワークライセンスの認証サーバーの構築
学内の廃材を利用して PSS 認証 ESET アンチウイルスサーバーを自力で構築
(業者見積もり額 1067500 円税別、自力構築に要した費用約 30000 円)
- ・ 従来の受信方法からの変更による、学生所有のスマホでの大学メール受信率の飛躍的な向上と安定性の確保 (年間費用 0 円)
- ・ 一定レベルのスキルとキャパシティーを持つ委員の配置による委員会内役割配分や作業の正常化への前進があったこと
- ・ 簡易レベルでの HP の更新作業が可能な委員の増加による作業の迅速化 (特にイベント後の写真掲載などは、実施当日から数日後までに掲載できている)

3 今後の課題

(1) 喫緊の課題 (懸案事項)

- 1) 関連事項に一定の知識や経験を持った教職員でないと、活動内容の難易度・人的コスト・問題点の優先度などが理解にくい。この為、委員会外部から活動の一部

である HP の表示状態や内容などに改善の意見が集中する傾向がある。根幹のネットワークのインフラやシステムに関する知識の習得と適正な改善に、人的コストや金銭的成本を投じる必要がある。また、知識の習得に要する外部サポートの費用も、県への予算として要求が難しいとのことなので、自力での非効率な習得状況が発生していることも否めない。

- 2) 講師以上の人員が3名となっており、委員会構成の変更や離職などにもなう異動により、継続して委員会内に在籍する人員に過剰な負担がかかる仕組みとなっている。
- 3) サイボウズのバージョンアップができない状態にあること
- 4) 「.com ドメイン」のメールの廃止または「ac.jp ドメイン」への移行
- 5) GMO サーバーの移転または廃止
- 6) ホームページ管理運営要領には「ホームページの管理に必要な実務を大学の事務局が代行」、と定められている。このような管理が事務局で実際に実施されればより多くの学内教員が本推進委員会へ配置（担当）可能と考えられる。その一方、ホームページの管理には、継続した知識や専門的な知識を要する。短期間の異動の多い事務職員では難しい。またアウトソーシングとした場合も相当の費用を要する。
- 7) ホームページ管理運営要領には「大学の広報として公開するドキュメントは大学の事務局が作成するものとする。」と定められている。これらについては入試業務や人事採用などのかなり限定された範囲に限られている。一方で、事務局の職員が、HP の改変作業を体系的に習得するような場も設定されていない。

(2) 将来的な課題

委員会活動を行えるスキルを持っている教職員が依然として少なく、これらの教職員が離職した場合、各種システムが管理できなくなり、崩壊する可能性がある。また、必要なスキルを身につけるのに一定の時間がかかる為、現状の委員会の任期2年制とのギャップがあり、正常な委員会活動の維持そのものが危ぶまれる。

第9節 FD 委員会活動報告書

1 所掌事項

- ・教員の教育能力開発に関すること
- ・研究能力の開発に関すること
- ・カリキュラム開発への協力に関すること
- ・授業改善に関すること

2 活動と成果

(1) 委員会活動

- 第1回／平成26年4月14日(木)：平成26年度活動計画、副委員長指名（東先生）
- 第2回／平成26年5月14日(木)：平成26年度研修会内容、日程検討
- 第3回／平成26年7月1日(火)：第1回研修会準備、役割分担
- 第4回／平成26年8月26日(火)：第1回研修会準備、確認
- 第5回／平成26年9月16日(火)：第1回研修会振り返り、第2回研修会準備
- 第6回／平成26年12月11日(木)：第2回研修会振り返り、看護大学研究集会内容検討
- 第7回／平成27年1月20日(火)：第1,2回研修会のアンケート集計報告、平成26年度看護大学研究集会の準備、プログラム構成検討

平成 27 年度新任教職員オリエンテーション内容検討
第 8 回／平成 27 年 3 月 3 日（火）：看護大学研究集会準備、新任教職員オリエンテーションの準備

第 9 回／平成 27 年 3 月 19 日（木）：看護大学研究集会振り返り、新任教職員オリエンテーションの準備、平成 26 年度活動内容の再確認

（２）成果

①FD 研修会開催

以下の通り計 2 回の研修会を開催し、教職員の教育・研究の基盤となる情報の提供、課題提供を行い、教職員の教育・研究能力の向上に寄与したと考える。

＊第 1 回研修会：平成 26 年 8 月 28 日（木）

「文科省の要請に我々個人はどう対応したらいいのか？」

講師：加藤鉦三教授（信州大学高等教育研修センター・高等コンソーシアム信州教育部会長）

参加者：31 名（教授 6 名、准教授 4 名、講師 4 名、助教・助手 17 名）

＊第 2 回研修会：平成 26 年 9 月 24 日（水）

「科学研究費助成事業応募について」

講師：千葉准教授・阿部准教授・総務課白上課長補佐

参加者：24 名（教授 5 名、准教授 6 名、講師 4 名、助教・助手 9 名）

②平成 26 年度 長野県看護大学研究集会開催

長野県看護大学特別研究、県内看護職との共同研究、および長野県看護大学看護実践国際研究センターの各部門・各プロジェクトから 25 演題が発表された。昨年度からの取り組みとして県内諸施設参加を募り、9 題の看護研究、さらに今年度からの新しい取り組みとしてスマート看護・介護福祉研究会から 1 題、伊那谷アグリイノベーションから 2 題が発表された。参加者は計 84 名であり、本学教職員・学生、県内看護職等の参加者にとっての交流と学習機会の提供となり、研究能力の向上に寄与できたと考える。

③平成 26 年度新任教職員オリエンテーション

新任教職員を対象に、本学の理念、カリキュラム、システム、事務手続き等について各担当部署より説明を実施した。教育・研究活動、大学運営に関する活動について必須の情報を提供し、新任教職員の活動に役立てられたと考える。

3 今後の課題

（１）喫緊の課題（懸案事項）

①授業評価が行われていない科目（研究科目）評価についての検討が必要である。

②学生による授業評価に対する教員からのフィードバックが今年度（平成 26 年度）から開始している。授業評価の結果を踏まえ、教員の教育能力向上のための FD 活動を充実させる必要がある

（２）将来的な課題

長野県看護大学研究集会の学会への移行のため、本年度も県内看護職への発表機会の提供、他関連機構の参加について、さらに充実を図っていく必要がある。

第10節 評価委員会

1 所掌事項

自己点検・評価及び第三者評価（以下、「大学評価」という。）に関し、次の事項について審議し、取り組んでいる。

- ア 自己点検・評価の企画及び実施に関する事項
- イ 第三者評価への対応に関する事項
- ウ 自己点検・評価の結果の公表に関する事項
- エ 大学評価の結果に基づく活用及び改善方策に関する事項
- オ その他本学の大学評価に関する事項

2 活動と成果

（1）委員会活動

ア 自己点検・評価報告書の作成

平成25年度活動内容を取りまとめた自己点検・評価報告書を作成し、関係者及び教職員に冊子を印刷して配布するとともに、外部への公表として本学ホームページに報告内容を掲載した。併せて、次年度の報告書作成のための準備等を行った。

また、大学基準協会が実施した「長野県看護大学に対する大学評価（認証評価）」の指摘事項に対する対応について、進捗状況を確認した。

イ 学生による授業評価の見直し

学生による授業評価について、組織的な取組体制として、学部長、研究科長、FD委員長、事務局長、教務・学生課長をメンバーとする「授業評価小委員会」を平成26年度から設置した。小委員会では、学生による授業評価に対する教員のコメント様式や公表方法等について議論した。

評価委員会及び授業評価小委員会の開催状況

開催日	委員会	審議事項
5月21日	小委員会	・授業評価実施要領・様式について ・「学生による授業評価」に対するコメントについて ・公表の方法について → 第6回教授会で承認
11月11日	小委員会	前期授業の評価結果及びコメントについて → 第16回教授会で報告
2月24日	評価委員会	・次年度の自己点検・評価報告書の項目について ・基準協会による認証評価の課題の進捗状況について

（2）成果

- ① 平成25年度活動の自己点検・評価報告書を作成するなかで、大学や各委員会等の活動における課題等について、教職員間での共有を図ることができた。
- ② 学生による授業評価について、組織的な取組体制として授業評価小委員会を設置し、教員コメントの様式等を定め実施した。その結果は、冊子にして事務局へ設置し、学生等の閲覧に供した。

3 今後の課題

(1) 喫緊の課題（懸案事項）

大学基準協会が実施した「長野県看護大学に対する大学評価（認証評価）」の指摘事項に対する対応について、平成 27 年 7 月末までに報告する。

(2) 将来的な課題

引き続き長野県看護大学評価規程第 12 条に定められている「自己点検・評価」を計画的に実施し、その結果を改善につなげる。

第 11 節 倫理委員会

1 所掌事項

- ① 申請のあった人及び人に由来する試料を対象とした研究計画の審査
- ② 実施後の報告書の審査
- ③ 研究倫理教育に関すること

2 活動と成果

(1) 委員会活動

- 1) 毎月第 4 火曜日に定例審査及び、不正防止規程の作成や倫理審査申請書の改訂の検討などの会議を、計 12 回開催した。
- 2) 再提出 3 件を含む計 31 件の研究計画について、定例会議において審査を行った。
- 3) 条件つき承認となった 28 件の研究計画の修正再提出に対し、随時審査を行った。
- 4) 研修会のビデオを閲覧に供し、研修に代えた。
- 5) 文科省「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン」（H26. 8. 26）に対応した当大学の規程を作成し、教授会審議を経て、H27 年 4 月より施行した。
(名称:研究活動における不正行為への対応に関する規程(平成 27 年 4 月 1 日から施行))
- 6) 「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針ガイダンス」（平成 27 年 2 月 9 日）に基づき、以下の活動を実施した。
 - (1) 倫理審査申請書の研究計画書(資料 1)の見直し作業を行い、平成 27 年度 5 月より改訂版での運用を開始した。
 - (2) 「倫理委員会の構成及び会議の成立条件」について、指針の条件に沿って見直し、構成メンバーを指針どおりに再構成し外部委員を増員した。

(2) 成果

- 1) 申請の受付および審査を適正に行い、本学における教育、研究が倫理に沿って適正に遂行される条件を提供した。平成 26 年度の定例審査に申請された案件の審査結果の集計を次の表に示す。
- 2) 学内向けであった倫理審査に関するサイトを作成しなおして、大学ホームページ上に公開した。
- 3) 「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針ガイダンス」に則り、審査を効果的に行うため、研究計画書(資料 1)の委員会指定様式を改訂した。
- 4) 全教員へ「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針ガイダンス」の概略説明とそれに伴う倫理審査研究計画書(資料 1)の変更内容について、教授会及び 2 回の説明の機会を設け徹底をはかった。

表 倫理申請とその結果

月	申請 件数	承認	条件付き承認			決定 延期	備考
			承認	未確定	取下げ		
4	6		5			1	活動方針の審議
5	2		2				
6	1					1	
7	3		3				
8	4		3			1	
9	2		2				
10	2		2				
11	2		2				
12	3		3				
1	3		3				
2	0						不正防止規程作成会
3	3		3				
合計	31	0	28	0	0	3	

3 今後の課題

1) 研究者の研究報告の義務

研究計画の倫理審査の承認を受けた研究責任者は、研究結果の公表後、「研究を終了（中止の場合を含む）したときは、研究機関の長に必要な事項についての報告」を義務付けられている。 ○文部科学省「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」

第2章 第5（研究責任者の責務）2（7）

○長野県看護大学「倫理委員会規程」 第12条

この報告の義務が徹底されるようはたらきかける必要がある。

2) 研修のあり方の検討

定期的なものとするか、また新採用者対象の研修などをどのようにしたらよいか、そして研修の効力の期限はどのくらいにしたらよいかについて検討が必要である。

3) 研究倫理教育について、教職員及び学部生、大学院生を対象に研究倫理についての講演会または研修会を開催し、研究倫理教育の啓発が必要である。

第12節 ハラスメント防止委員会

1 所掌事項

- (1) ハラスメント防止のための啓発活動に関すること
- (2) ハラスメントの相談に関すること
- (3) ハラスメントに起因する問題の解決及び被害の救済に関すること
- (4) その他ハラスメントの防止等に関すること

2 活動と成果

(1) 委員会活動

- 1) 第1回ハラスメント防止委員会：平成26年4月9日（水）

- ① ハラスメント防止委員会における所掌事項の確認
 - ② ハラスメント防止委員会規定および細則の改正について審議
 - 委員の構成に関して
 - ③ 平成 26 年度年間計画について
 - 研修会の実施回数と時期および内容
 - 相談員研修会の実施とその方法
 - コミュニケーション促進月間の実施とその時期
 - 懇親会（暑気払い）
 - 相談員研修会開催および相談員ハラスメント防止委員の連絡会日程について
 - ④ 関連資料について
 - 相談員マニュアル
 - クローズド書類について
 - ハラスメント相談員用資料の改訂
- 2) 第 2 回ハラスメント防止委員会：平成 26 年 5 月 16 日（水）
- ① ハラ防研修会について
 - 開催回数について
 - ② コミュニケーション月間（ハラ予防月間）について
 - 実施と開催時期について
 - 標語の募集について
 - 懇親会（暑気払い）について
 - ③ 相談員研修会開催（および相談員とハラスメント防止委員の連絡会）について
 - 研修方法の現状について
 - ④ 案件になる前の対処、および相談員の受付書類の保管について
- 3) 第 3 回ハラスメント防止委員会：平成 26 年 6 月 20 日（水）
- ① ハラスメント防止委員会委員会規定および細則の改正作業の進行状況について
 - ② 相談受付用資料の改定について
 - ③ 暑気払いの予約状況について
 - ④ コミュニケーション月間（ハラ予防月間）について
 - ⑤ ハラ防研修会について
- 4) 第 4 回ハラスメント防止委員会：平成 26 年 7 月 24 日（木）
- ① ハラ防研修会の実施日について
 - ② 暑気払いの反省
 - ③ 標語の入選作の決定
 - ④ 相談員マニュアル関連の書類の改訂
- 5) 第 5 回ハラスメント防止委員会：平成 27 年 3 月 10 日（火）
- ① ハラスメント防止研修会について
 - ② 来年度の日程について
 - ③ リーフレットの改修について
 - ④ 相談受付票の修正について

（2）成果

1) 新規採用者及び学生へのガイダンス

平成 26 年度の新規採用教職員及び新入生を含めた学生を対象とし、年度始めのガイダンスにおいて、ハラスメント及びその防止に関する本学の対応を説明した。

2) コミュニケーション促進月間の実施

ハラスメントの防止を目的として、学生及び教職員間のコミュニケーションを促進させるため、「7 月をコミュニケーション促進月間」と定め次の活動を行った。

- ・教職員のみでなく学生からも標語を募集し、コミュニケーションの促進を呼びかけた。
- ・教職員だけでなく本学を職場として働く生協パート職員の方も含めて暑気払いを実施し、よりいっそうの親睦を図った。この催しには 50 名が参加し、相互の理解を深めるための一助になった。

3) ハラスメント防止研修会の実施

教職員への研修会を本年度は平成 27 年 3 月 19 日に実施した。講師には那須典正先生（天使大学）を招き、「お互いを認めあう職場にするために何をするべきか」と題した研修会を行った。年度末ではあったが 53 名の参加があり、講演後のアンケートでは概ね肯定的な評価が多数であった。

4) ハラスメント防止委員会委員会規定および細則の改定

任期中の委員の不必要な異動を避ける為、委員が在任中に昇任した場合でも、任期を満了できるように、また懲罰委員会の委員との重複を避ける為、本学の「ハラスメント防止委員会委員会規定および細則」を改定した。

5) ハラスメント防止に関するリーフレットの改訂

毎年 4 月に学内者に配布しているリーフレット「ハラスメント防止のために」に、募集した標語を掲載するとともに、事案発生から被害者の救済までの流れ図をより理解しやすいように改修した。

3 今後の課題

(1) 喫緊の課題（懸案事項）

ハラスメント対策ガイドラインを実際に運用する際に必要となる書式や書類、および具体的なマニュアル等の整備が必要である。具体的には、ハラスメント事案への対応を申し立てる際の手続きに要する書式や、ガイドラインに則したハラスメント相談マニュアルの改訂が挙げられる。

複数の学部を有する他大学に比べ、単科大学である本学は、教職員及び学生相互間の関係が、より近くて深い傾向にある。一方で、この近い傾向が、事案が発生した場合の調査や措置などの公平性について、謂れのない疑義を生じさせる可能性もある。したがって、外部からの委員を加えるなどをして、疑義を払拭するための対策が必要であり、この準備はしておかなければならない。

(2) 将来的な課題

ハラスメント防止の効果が、よりいっそう高い活動の樹立。また、ここ数年、ハラスメント相談員への相談件数が皆無に近い状態が続いている。この原因が、学内の人間関係がよい状態なのか、相談員への相談がしにくい状態なのかなどを見極めていくシステムの構築や検証が求められる。この際、総合的な組織づくりの構築も必要と思われる。

第 13 節 動物実験委員会

1 所掌事項

- (1) 動物実験計画書の申請及び審査に関すること
- (2) 動物実験の実施状況及び結果に関すること
- (3) 施設等及び動物実験の飼養保管状況に関すること
- (4) 自己点検・評価に関すること
- (5) 動物実験の適正な実施のための必要事項に関すること
- (6) その他、学長の諮問に関すること
- (7) 実験動物管理者、動物実験実施者及び飼養者を対象として教育訓練のための講習会を開催する

2 活動と成果

(1) 委員会活動

- 1) 第1回動物実験委員会：平成26年7月15日
 - ・計画書の審査(5件)
 - ・平成25年度動物実験従事者の教育訓練講習会の日程
 - ・動物慰霊碑祭の日程
 - ・動物愛護団体からのアンケート結果の冊子について
- 2) 第2回動物実験委員会：平成26年8月28日
 - ・計画書の審査(3件、再審査1件を含む)
- 3) 第3回動物実験委員会：平成26年9月2日
 - ・計画書の再審査(3件、第2回からの継続)
- 4) 第4回動物実験委員会：平成26年10月14日
 - ・文部科学省研究振興局による、「研究機関等における動物実験等の実施に関する基本指針」等に関する説明会への参加について
 - ・「研究機関等における実験動物等の実施に関する基本指針」等の遵守状況に関する報告案について
 - ・実験動物慰霊祭の実施方法について
 - ・「長野県看護大学 動物実験施設飼養・保管マニュアル 案」及び「長野県看護大学 動物実験施設における災害対策マニュアル 案」について
- 5) 第5回動物実験委員会：平成26年11月25日
 - ・文部科学省研究振興局による、「研究機関等における動物実験等の実施に関する基本指針」等に関する説明会の内容とその検討について
 - ・本学での動物実験に関する情報公開について
 - ・外部検証について
- 6) 第6回動物実験委員会：平成26年11月25日
 - ・長野県看護大学 ホームページ「動物実験の研究倫理」ページの修正について
 - ・長野県看護大学動物実験規定について
 - ・長野県看護大学 動物実験施設飼養・保管マニュアルについて
- 7) 第7回動物実験委員会：平成27年1月16日
 - ・長野県看護大学 ホームページ「動物実験の研究倫理」ページの修正について
 - ・平成27年度動物実験に関する講習会の開催日程について
 - ・長野県看護大学動物実験飼養・保管マニュアルについて
- 8) 第8回動物実験委員会：平成27年1月23日
 - ・長野県看護大学動物実験飼養・保管マニュアルについて
- 9) 第9回動物実験委員会：平成27年2月5日
 - ・長野県看護大学動物実験飼養・保管マニュアルについて
 - ・長野県看護大学 動物実験施設における災害対策マニュアルについて
- 10) 第10回動物実験委員会：平成27年2月16日
 - ・長野県看護大学動物実験飼養・保管マニュアルについて
 - ・長野県看護大学 動物実験施設における災害対策マニュアルについて
- 11) 第11回動物実験委員会：平成27年3月13日
 - ・平成26年度 動物実験報告書の確認
 - ・平成26年度 使用実験動物数・動物実験等の成果について報告書の確認
 - ・平成26年度 動物実験に関する自己点検・評価報告書の確認と委員会承認
 - ・平成26年度 実験動物の飼養及び保管に関する記録の確認
 - ・平成27年度 動物実験講習会の日程と実施について
 - ・平成27年度 動物慰霊祭実施日の検討
 - ・動物実験施設の査察

(2) 成果

- 1) 動物実験計画書の審査と委員会承認 (7 件)
- 2) 平成 26 年度 動物実験に係る教育訓練の実施：受講者 10 名
- 3) 平成 26 年度 動物実験に関する自己点検・評価報告書の作成及びその公表
- 4) 動物実験等に関する情報の web サイトでの公表
- 5) 動物慰霊祭の実施
- 6) 動物実験飼養・保管マニュアルの作成
- 7) 動物実験施設における災害対策マニュアルの作成
- 8) 動物実験施設の査察

3 今後の課題

(1) 喫緊の課題 (懸案事項)

- 1) 第三者による外部検証実施のための方法の構築・選定とこの実施

(2) 将来的な課題

- 1) 申請された計画書の委員会での審査時に、大学の規模の都合上、申請者と利害関係を有する委員を含まざるを得ない。関係者を含めた現状の審査体制に内外から疑問を持たれないような方策の構築が必要になることも予想される。たとえば、委員会審査時に、申請者や利害関係者を含めた 1 次審査と、含めない 2 次審査にする。2 次審査においては、委員の人数が減少することから委員長も議決権を有することなどが考えられる。

第 14 節 感染症対策委員会

1 所掌事項

- (1) 本学におけるインフルエンザ、ノロウイルス等の感染症発生の予防と対応に関すること
- (2) 感染症に関する情報の収集、調査に関すること
- (3) その他感染症に関すること

2 活動と成果

(1) 委員会活動

- 1) 委員会での審議、感染症予防活動等

年月日	内 容
26. 4	ガイダンスにおいて学生に本学における感染症対策を周知
26. 4	高病原性鳥インフルエンザについて注意喚起、予防対策指導 (掲示)
26. 7	感染性胃腸炎について注意喚起、予防対策指導 (掲示)
26. 9	デング熱について注意喚起 (掲示)
26. 10	インフルエンザについて注意喚起、予防対策指導 (掲示)
26. 11	インフルエンザ予防策 (予防接種) について情報提供 (掲示)
26. 12	第 1 回感染症対策委員会にて長野県看護大学新型インフルエンザ等発生時業務継
26. 12	ノロウイルスによる感染性胃腸炎について注意喚起、予防対策指導 (掲示)
26. 12	長野県インフルエンザ注意報発令を受け、注意喚起 (掲示及び学生へメール配信)
27. 1	インフルエンザ流行のため注意喚起 (掲示及び実習参加者へはメール配信)
27. 1	ノロウイルスによる感染性胃腸炎について注意喚起、予防対策指導 (掲示)

2) 感染症発生時の対応（感染者の把握・情報収集と対応）

年月日	対 応
26. 4	带状疱疹の学生 1 名に保健指導
26. 4	インフルエンザの職員 1 名に療養指導及び保健指導実施
26. 12	食中毒の学生 1 名に保健指導
27. 1	带状疱疹の学生 1 名に保健指導
27. 1	インフルエンザの学生 13 名が出席停止、保健指導実施
27. 1	ノロウイルスによる感染性胃腸炎の疑いの教員 1 名に療養指導及び保健指導実施
27. 2	インフルエンザの学生 1 名が出席停止、保健指導実施
27. 2	インフルエンザの教員 2 名に療養指導及び保健指導実施

(2) 成果

- 1) インフルエンザ（疑いを含む）のため 14 名の学生が出席停止となった。また教職員の 3 名がインフルエンザ、1 名がノロウイルスによる感染性胃腸炎（疑い）を発症した。発症した者及びその接触者に対する保健指導と、大学全体に向けての注意喚起・予防啓発を繰り返し行った。その結果、重症化した者はなく、また学年閉鎖や集団感染は生じなかった。
- 2) 带状疱疹や食中毒と診断された学生 3 名に対し、療養指導及び保健指導を行った。その結果、新たな感染拡大はなかった。
- 3) 長野県看護大学新型インフルエンザ等発生時業務継続計画を制定した。

3 今後の課題

- ・学生及び大学院生・教職員に対して、有症状時の受診や出席停止等について引き続き周知徹底していく。
- ・新興感染症等が出現した時には、長野県看護大学新型インフルエンザ等発生時業務継続計画の応用や新たな対応の検討が必要である。

第 15 節 コンソーシアム運営委員会

1 所掌事項

委員会の所掌事項を定めた学内規定等はない。設置の目的は、「コンソーシアム信州に加盟している本学が、これに関する活動を学内外で実施する際、円滑に行われる様にする」と委員会は認識している。事実上の暫定的な所掌事項として下記の項目が挙げられる。

(1) コンソーシアム信州の教育部会に関する事

- ア 教育部会への出席と、本学窓口としての協議
- イ 推進チーム会議への出席と、本学窓口としての協議
- ウ 遠隔授業等の発信および受信（受講）に関する事項
- エ ピア・メンター育成合宿に関する事項遠隔授業の受信に関する事項
- オ 長野県内大学単位互換制度の、本学窓口としての協議
- カ その他、コンソーシアム信州の活動に関する事

(2) コンソーシアム信州の学生教育部会に関する事

- ア 学生教育部会への出席を本学学生委員会に要請

(3) コンソーシアム信州の推進チーム会議に関する事

- ア 推進チーム会議への出席と、本学窓口としての協議

(4) その他委員会が必要と認める事項

2 活動と成果

(1) 委員会活動

- 1) 第1回委員会：平成26年5月13日（火）
 - ・役割分担
 - ・本学発信の遠隔授業について
 - ・遠隔システムの本学機器の点検は信大の関わりとはまた別に、本学が自主的・定期的に依頼する。
 - ・本学からの配信セミナー（旧名：K3 茶論）について
 - 2) 第2回委員会：平成26年6月3日（火）
 - ・県内大学市民開放セミナーについて
 - ・学生募集共同PRに関するWGについて
 - ・アルプス圏高冷地フィールド共同利用拠点（中央アルプス圏山岳森林フィールド共同利用拠点）の利用について
 - 3) 第3回委員会：平成26年10月6日（月）
 - ・遠隔授業（宮越准教授）の実施について
 - ・ピア・メンター育成キャンプの報告：本学から学生2名参加
 - ・9月FDとの共催で市民開放セミナーの実施報告（今井先生による講演）：学内から16名参加（うち学外3名）
 - ・来年度予算案の検討
 - ・来年度の教員免許更新講習のテーマ案の検討
 - 4) 第4回委員会：平成27年3月3日（火）18:00～18:10
 - ・県内大学市民開放セミナーについて
- ・次年度の国際看護学の遠隔授業の支援体制について

(2) 成果

- 1) 遠隔授業（宮越准教授）を今年も実施した。本学の履修生以外に、信州大学医学部医学科の学生7名の受講生があった。
- 2) ピア・メンター合宿に本学学生2名と教員1名が参加した。
- 3) 県内大学市民開放セミナーや長野県大学連携シンポジウム「大学生の心理と理解に関するFDシリーズ」など計7回を受信した。
- 4) 教員免許更新講習会を行い、1つの講座を開設し、計36名の小、中、高等学校の教員が受講されました。
- 5) 教務ガイダンスに学生への遠隔授業を案内した。
- 6) 新設の男女共同参画推進部会や学生共同募集PR事業に参加した。

3 今後の課題

(1) 喫緊の課題（懸案事項）

- 1) 遠隔授業については引き続き学生などへの案内等を通じて、受講者の獲得に努める必要がある。

(2) 将来的な課題

- 1) 高等教育コンソーシアム信州の存続について。

第16節 防災委員会

1 所掌事項

近年多発する自然災害への対応や学内における防災意識のさらなる高揚を図るため、大学内に初めて防災委員会を設置した。防災委員会の任務は以下の事項について調査及び審議する。

- 1) 大学及び大学院における防災及び減災の教育に関すること
- 2) 大学の学生及び教職員並びに大学施設の防災及び減災に関すること
- 3) 地域との防災及び減災の連携に関すること
- 4) その他防災及び減災に関すること

2 活動と成果

(1) 活動内容

- 1) 防災委員会の設置
- 2) 委員会の開催

防災マニュアル作成、今年度防災訓練への確認打ち合わせ、安否確認システム立ち上げの打ち合わせを含め 11 回の会合を持った。

- 3) 防災訓練への参加

10 月 27 日の学内防災訓練に防災委員会として参加した

(2) 成果

- 1) 防災マニュアルの作成

「大規模地震等災害対応マニュアル」の新規作成

近年続発する大規模自然災害等に対応するため、新たに、「大規模地震等災害対応マニュアル」を作成した。このマニュアルは、教職員・学生が災害発生時にとるべき基本的な行動を示すほか、本学が、駒ヶ根市の指定避難施設に指定されており、避難所の基本的な運営方法を定めている。

- 2) 上記マニュアルに基づいた防災訓練の実施

26 年度の防災訓練は、新たに作成した「大規模地震等災害対応マニュアル」に基づいて 10 月 27 日に実施した。また、本年は特に教職員・学生の安否確認を重点項目として訓練に臨んだ結果、安否確認メールにより約 86%の学生から返信があった。ただしこの結果は、実習中の学生に対しては SMS での再送信はしていない結果である。

- 3) 防災訓練参加者から意見収集

10 月 27 日の防災訓練に参加した教職員から防災体制、訓練に関する意見を収集した。安否確認をもっと頻回にしたほうが良いのではないか。管理棟の玄関はガラス飛散の可能性があるが、災害対策本部がそこにある事務室で良いのか。ヘルメットや救急グッズは教員の部屋にあると良い、など貴重な意見が多数あった。

- 4) 防災物品の設置

防災訓練後の意見も踏まえ、緊急時に早期の対応が可能となるよう、管理棟及び教育研究棟の各階エレベーターホールに、防災物品を収納したロッカーを設置した。

- 5) 安否確認システムの構築

今までの安否確認方法は、平常時に大学から全教職員・全学生へ発信する学内メールにより行っていたが、学内メールの転送ができない学生がいた。緊急時により確実に連絡を取るために、携帯電話、スマートフォン、PC、タブレットなどの多くの端末に対応することが可能な看護大学独自の安否確認システムを新たに構築し運用していくこととした。なお、このシステムの運用に当たって、サーバーとアプリケーションの保守を地元業者の（有）キャリコが担当することで、個人情報の適正な管理と、低コストを実現することが可能となる。

- 6) 防災ハンドブックの作成

今回作成した防災マニュアルは教職員が対象であり学生向けには学生便覧に「大学消防計画」「災害発生時の対応マニュアル」があるが、防災訓練後の意見からも学生や新

人教職員に周知しているとは言い難いことが判明した。具体的に個人としての行動がわかり、持ち歩いて非常時の連絡ができるようなハンドブックを作成中

7) 学部生卒業研究での本学学生の防災意識調査結果報告

本学学生全員を対象に地震に関する防災意識・備蓄に関するアンケート調査を実施した。貴重な調査であることから、教授会で調査結果を報告した。調査の結果から、学生は漠然と地震は起こるだろうと思っている。また備蓄が必要な物品も分かっているが、6割の学生が備蓄をしていないことが明らかになった。

8) 学生のアンケート調査の結果を受け、27年度の入寮生に対し赤穂地区のハザードマップを配布し同時に防災教育を実施する予定。

3 今後の課題

(1) 喫緊の課題（懸案事項）

1) 防災マニュアルは完成したが、実働できるマニュアル運用細則が必要。事務の県職員は3～4年で交代する、教員の入れ替わりも多い。人が入れ替わってもすぐに動けるマニュアルにする必要がある。27年度の防災訓練で使えるよう、運用細則の作成と共にアクションカードを作成する必要がある。

2) 災害時救護班に指名されている教職員への救命救急対応、応急処置・担架搬送の訓練をするシステムを入れる必要がある。

3) 学生へ防災ハンドブックを配布するときに防災教育を実施できるようにする必要がある。また新教職員オリエンテーションにもハンドブックの配布と赤穂地区のハザードマップを配布し同時に説明会を開催したい。

(2) 将来的な課題

学生の災害に対する意識が低い。食料などの備蓄をしている学生は16.6%しかいない。一方で備蓄の予定なしと答えた学生が33%に達している。今後災害看護の授業だけでなく、様々な機会を捉えて防災教育をしていく必要がある。また災害時は生協の食料を学生に提供するなど学校での備蓄を考える必要がある。学生のアンケート結果から学祭の時に防災イベントをすると効果があるのではないかと提言がある、今後実施できる方法を考えたい。

第17節 安全衛生委員会

1 所掌事項

- (1) 教職員の危険及び健康障害を防止するための基本となるべき施策に関すること
- (2) 教職員の健康の保持増進を図るための基本となるべき対策に関すること
- (3) 公務災害の原因及び再発防止対策に関すること
- (4) その他教職員の危険及び健康障害の防止並びに健康の保持増進に関すること

2 活動と成果

(1) 委員会活動

年月日	内 容
26.7.17	職員安全衛生管理規程に基づく第1回安全衛生委員会を開催。安全衛生管理体制や教職員の健康管理状況、年次休暇取得状況及び超過勤務実績状況等について協議、検討
26.9.2	大学組織として安全衛生委員会を設置することを教授会に提案、承認

26. 9. 2	長野県看護大学安全衛生委員会設立、規程施行
26. 10. 9	全教職員に「労働者の疲労蓄積度自己診断チェック表」を配信、心身のセルフケアについて啓発
26. 11. 10	職場点検チェックリストを活用した職場巡視実施
随時	交通労働災害防止等について教授会等で啓発
随時	定期健康診断や人間ドック、各種検診について周知、受診勧奨、精密検査等の事後指導実施

(2) 成果

長野県看護大学安全衛生委員会を設立、規程を施行した。

3 今後の課題

健康障害の防止や健康の保持増進等に関わることについて、教職員への啓発や受診勧奨等を継続、強化していく。

第 18 節 創立 20 周年記念事業実行委員会

1 所掌事項

- ①創立 20 周年記念事業の企画
- ②創立 20 周年記念事業の実施

2 活動と成果

(1) 委員会活動

1) 活動期間

平成 25 年 4 月～平成 27 年 3 月（以降残務）

＊特殊な委員会であるため、2 年度にわたる事項を本報告書に記載。

2) 委員会構成（他の箇所に記載がないため、ここで記載）

委員長： 西垣内磨留美

副委員長： 多賀谷昭（国際シンポジウム部会長兼任）

安田貴恵子（卒業生シンポジウム部会長兼任）

記念式典部会長：内田雅代

祝賀会部会長： 渡辺みどり

記念誌部会長： 坂田憲昭

記念 DVD 作成部会長：北山秋雄、（副）太田克矢

事務局：小林資典（25 年度）、吉川篤明（26 年度）、上田穂積

学長：清水嘉子（26 年度）

3) 委員会開催

上記期間にわたり、稟議を含め、16 回の会議を開催。（各部会会議は除く）

主たる審議内容は下記。

- ① 委員会及び部会構成の決定
- ② 記念事業の企画
- ③ 各事業担当部会進捗状況報告
- ④ 問題への対応策協議、決定
- ⑤ 各事業実施報告

(2) 成果

創立 20 周年記念事業として、11 月に記念式典を挙行之、同日、卒業生シンポジウム、及び祝賀会を開催した。それに先立ち、6 月に学外よりシンポジストを招き、国際シンポジウムを開催した。また、事業の一環として、記念誌を発行し、記念式典で上映するための記念 DVD を制作した。加えて、20 周年を記念し、大学タグラインを作成し、記念式典において披露した。その他、記念品として、記念クリアファイル、手提げ袋を制作し配付した。事業実施にあたっては、学外者の協力を得るとともに、学内教職員が一丸となって取り組んだ。記念事業実施に要する費用は、大学関係者に寄付金を募り、捻出した。

記念行事の内容は下記。

1) 記念式典

期日：平成 26 年 11 月 22 日

次第：
記念 DVD 上映
学長挨拶
知事挨拶
来賓祝辞、来賓紹介、祝電披露
感謝状贈呈
大学タグライン披露
学歌斉唱

出席者：178 名

2) 卒業生シンポジウム

期日：平成 26 年 11 月 22 日

テーマ：「ヒューマンケアの担い手を育み、学びあう場の創造」

シンポジスト：久保貴三子、穂高幸枝、中村英基、柿沼佑果（ビデオ参加）

座長：安田貴恵子（本学学部長）

参加者：173 名

3) 国際シンポジウム

期日：平成 26 年 6 月 14 日

テーマ：「認知症と生きるコミュニティと看護」

シンポジスト：ウィリアム・リンチ（元パロアルト退役軍人病院脳損傷リハビリテーション部門長）

アン・デーヴィス（本学名誉教授）

パトリシア・リンチ（サンフランシスコ大学看護保健学部副学部長）

エセタ・ホープ（サモア国立大学応用科学部長）

阿保順子（本学前学長）

座長：小西恵美子（本学名誉教授）

参加者：242 名

3 今後の課題

(1) 喫緊の課題（懸案事項）

記念事業に関する文書や写真を、各事業担当部会で USB メモリ、および CD-R に記録し、30 周年記念事業担当者へ引き継ぐ予定であるが、完成に至っていない。また、非常勤講師への記念品配付の残務があるが、間もなく終了する見込みである。

第 19 節 研究科委員会教務部会

1 所掌事項

長野県看護大学看護学研究科教務部会は、看護学研究科博士前期課程、博士後期課程の大学院教育に関する以下の内容を扱う。

1. 看護学研究科カリキュラムに関すること
 - 1) カリキュラムの検討と作成
 - 2) 非常勤講師について（依頼と決定）
2. 看護学研究科単位取得に関すること
 - 1) 博士前期課程・後期課程の大学院生の単位取得状況の確認
3. 看護学研究科科目履修に関すること
 - 1) 大学院科目履修の決定
 - 2) 科目履修生の選考
4. 看護学研究科院生の休学、退学、長期履修などに関すること
 - 1) 休学・退学願、長期履修願、奨学金返済免除者の審査
 - 2) 長期履修希望者の選考
5. 看護学研究科修士論文、博士論文の審査及び学位授与に関すること
 - 1) 修士論文審査基準と審査方法の見直し
 - 2) 修士論文発表会の進行
 - 3) 博士論文審査委員選出
 - 4) 博士論文審査基準の見直し
 - 5) 博士論文発表会進行
 - 6) 博士論文審査結果公表の手続き等
6. 上記 1～5 に関わる学則の検討
7. 看護学研究科院生の大学院生活全般に関すること
 - 1) 年 1 回の大学院生と教務部会委員との話し合いの開催

2 活動と成果

(1) 部会活動

第 1 回教務部会（4 月 11 日）

- ① 退学願 1 名、休学願 4 名について協議した。
- ② 修士・博士論文指導教員を確認した。休学中の学生に指導体制は復学後検討することとした。

第 2 回教務部会（5 月 15 日）

- ① H25 教務部会活動報告を確認した。
- ② H26 修士論文研究テーマ(仮)・論文指導及び審査委員(案)休学願について協議した。
- ③ 大学院授業科目の履修登録状況(修士・博士)について確認した
- ④ 学位規程に関する内規について協議した。

第 3 回教務部会（6 月 10 日）

- ① 学位規程に関する内規（修士論文研究計画書・論文審査基準）を協議し修正した。
- ② 学位規程に関する内規を協議し修正した。
- ③ 学外者による論文の指導教員及び審査委員に関する内規の整備を協議し修正した。

第 4 回教務部会（7 月 9 日）

- ① 休学願 1 名について協議し承認した。
- ② 2013 年度博士学位論文要旨および審査結果要旨について記載内容を確認しホームページで公表することを決定した。

- ③ 学外者による修士論文の指導教員及び審査委員に関する内規の整備について協議をし、次回継続協議することにした。
- ④ 学外者による博士論文指導 1 名は指導教員から提出されたため、指導教員としての適格性を審議し承認した。
- ⑤ 今年度の大学院生との話し合い日程を検討した。

第 5 回教務部会（9 月 8 日）

- ① 修士学生 1 名、博士学生 2 名から休学願いが出され、審議し承認した。
- ② 長野県看護大学学位規定内規について、博士論文研究計画書委員の構成を「副指導教員及び副指導教員の審査基準を満たした 2 名」とした。新しい内規に併せて、学位規定 12 条（学位授与の議決）第 2 項の規定を変更した。博士後期課程の議決は「副指導教員以上の資格を有する教授および審査に関わった准教授」によるとした。
- ③ 学外者による論文の指導教員及び審査委員に関する内規の整備について協議修正した。
- ④ 修士論文・博士論文の指導・審査の流れを図式化し協議した。
- ⑤ 修士課程共通選択科目（看護心理学）の新設について協議し研究科委員会に諮ることとした
- ⑥ 平成 26 年度前学期ティーチングアシスタント実施状況を確認した

第 6 回教務部会（10 月 9 日）

- ① 平成 27 年度大学院博士前期・博士後期課程入学願書提出者における長期履修希望状況を確認し、長期履修の申請条件（博士前期課程 3 名、博士後期課程 1 名）を確認し、承認した。
- ② 博士前期課程における目標等を協議し、「修士論文コース」と「専門看護師コース」で分けないこととした。
- ③ 学位論文指導・審査の流れについて審議した。
- ④ 大学院シラバス・学生便覧作成スケジュールについて確認し、博士後期課程シラバス作成手順を研究科委員会に提案することにした。

第 7 回教務部会（11 月 11 日）

- ① 休学願（博士後期課程 1 名）を審議し承認した。
- ② ディプロマポリシー（博士後期課程）（案）を協議し研究科委員会に諮ることにした。
- ③ カリキュラムポリシー（博士前期課程・後期課程）（案）を協議し、継続協議することにした。
- ④ 大学院科目担当の変更を協議し、研究科委員会に諮ることにした。
- ⑤ 大学院生との話し合い日程が調整できなかったためメールでの意見集約となった。
この内容を確認し研究科委員会に諮ることにした。

第 8 回教務部会（12 月 10 日）

- ① 休学願（博士後期課程 1 名）を審議し承認した。
- ② ディプロマポリシー（博士前期課程）（案）を協議し研究科委員会に諮ることにした。
- ③ 博士前期課程及び博士後期課程カリキュラム・ポリシー（案）を協議し研究科委員会に諮ることにした。

第 9 回教務部会（1 月 15 日）

- ① 長期履修希望者の申請条件の 2 名を確認した。
- ② 退学願 1 件、休学願 2 件を確認した。
- ③ 平成 26 年度修士論文発表会の日程を確認、承認した。
- ④ 平成 27 年度大学院学年暦および論文審査日程を確認、承認した。
- ⑤ 平成 27 年度科目履修生募集要項（案）、研究生募集要項（案）を確認、承認した。
- ⑥ 平成 27 年度長野県看護大学県内大学単位互換履修生募集要項（案）を確認、承認した。

第 10 回教務部会（2 月 13 日）

- ① 長期履修在学期間の短縮について 1 名より申し出があり承認した。
- ② 大学院修了予定者単位取得状況について確認した。

- ③ 平成 27 年度大学院学生便覧・シラバスの主な変更点について確認した。

第 11 回教務部会（3 月 10 日）

- ① 退学願 1 名（博士前期課程）、休学願 1 名（博士前期課程）を承認した。
- ② 博士前期課程、後期課程在学生の修得単位を確認した。
- ③ 平成 27 年度研究生 1 名の選考を行い承認し、研究科委員会に諮ることにした
- ④ 平成 27 年度大学院時間割を協議確認した。
- ⑤ 平成 27 年度大学院教務ガイダンス日程を確認した。

（2）成果

- ① 大学基準協会より指摘されていた、ディプロマ・ポリシー（博士前期課程・後期課程）、カリキュラムポリシー（博士前期課程・後期課程）を作成することができた。
- ② 大学基準協会より指摘されていた博士後期課程のシラバスを作成することができた。
- ③ 大学基準協会より指摘されていた修士論文・博士論文指導教員の表記を、H27 年度大学院学生便覧、シラバスに明示した。
- ④ 大学基準協会より指摘されていた修士論文指導教員によって審査体制を新たなものにした。

3 今後の課題

- （1）論文博士審査において、学位規程があるものの、その手順が明確ではない。
- （2）大学院修士課程の授業、特に演習科目の単位数と時間数について検討を始める必要がある。

第 20 節 研究科委員会入試部会

1 所掌事項

- （1）入試科目及び期日の選定に関すること
- （2）合否判定の基礎資料に関すること
- （3）入試の追跡調査に関すること
- （4）入試のあり方に関すること
- （5）その他入試に関すること

2 活動実績と成果

（1）部会活動

- 1) 第 1 回入試部会
 - ①入試部会の規程の確認と副部会長の選出、②今年度の入試日程の確認
 - ③平成 27 年度学生募集要項の検討、④今年度の活動計画・課題の確認
- 2) 第 2 回入試部会
 - ①募集要項の確認、②部会員の役割分担検討、③アドミッションポリシーの検討
 - ④「充足率」の達成が困難な場合の定員の変更
 - ⑤入試業務の担当者への説明の必要性および説明の方法
- 3) 第 3 回入試部会
 - ①大学院リーフレットの修正、②受験者確保対策、
 - ③アドミッションポリシーの検討
- 4) 第 4 回入試部会
 - ①大学院募集要項・リーフレット送付先、卒業生への案内文検討
 - ②アドミッションポリシーの検討
- 5) 第 5 回入試部会

- ①アドミッションポリシーの検討、②事前相談状況の確認
- ③大学院入試従事者予定表の確認、④博士前期課程出願資格認定審査
- 6) 第6回入試部会
 - ①大学院入試 部会合否判定、②2次試験の募集人員の検討
- 7) 第7回入試部会
 - ①博士前期課程2次試験出願資格認定審査、②2次試験事前相談状況の確認
 - ③2次試験従事者配置の確認
- 8) 第8回入試部会
 - ①大学院2次試験 部会合否判定、②入試業務従事者配置基準の確認
- 9) 第9回入試部会
 - ①平成25年度入試日程、②1年間の入試システムの検証
 - ③入学者の推移の検討、④受験者確保対策
- 10) 第10回入試部会
 - ①1年間の入試システムの検証、②受験者確保対策、③入試実施状況の確認
 - ④定員に関する意見交換 ⑤平成26年度入試部会報告概要の検討
- (2) 成果
 - 1) アドミッションポリシーの作成

数回の部会での検討及び運営委員会・研究科委員会の協議を経て、本学大学院のアドミッションポリシーを作成することができた。今後、ホームページ、平成28年度募集要項、大学院リーフレットに明示することにより、受験者に本学が求めている学生像が明確に伝わると考えられる。
 - 2) 受験者確保対策

大学院リーフレットについて、①英語の試験が免除になる特別選抜、②受験資格の多様性（専門学校や短期大学の卒業生も受験可能）、③長期履修制度、④修了生の人数および修了後の具体的な活躍の様子 を追加記載することとし、受験生が本学大学院の特徴をより明確に理解すること、修了後の活動をイメージしやすくなったと考えられる。
 - 3) 入試システムの検証

①募集要項、②入試業務処理要領、③各科目の得点率の算出方法、④合否判定基準等について見直しを行い、①②の必要箇所を一部修正するとともに、③④に関しては、独立性、公平性、公正性が確保されていることを確認した。

3 今後の課題

(1) 喫緊の課題

- 1) 受験者および入学者の確保（具体策の検討と実施・評価）
 - ①部会において大学院 HP の充実が認識されていたが具体的な検討には至らず、教員の研究内容紹介の記載欄が空欄であるもの、データが更新されていないもの等の現状の改善および論文指導可能な教員全員の研究内容紹介の追加記載等を通して、受験生にとって魅力的な大学院 HP となるよう充実を図る。
 - ②入試実施状況の詳細な検討、近隣病院等への広報・卒業生対策の再検討をする。

(2) 将来的な課題

- 1) 公正・公平な入学試験実施と定期的な入試判定の適切性の検証 を継続する。
- 2) 大学院博士前期課程の定員に関して研究科委員会にて検討する。

第6章 学生生活及び学生への支援

第1節 学生支援活動

1 学生支援会議の開催

1) 所掌事項

学生支援に関し、継続的な支援を要する事例について、報告、対応方法を検討する。

構成：学生委員会委員長，学年顧問，保健室保健師，学生支援員，就職支援員，臨床心理士，ハラスメント相談員，健康センター長

2) 活動と成果

(1) 活動：活動実績なし

全体会議 開催実績なし

内 容 活動内容なし

(2) 成果：支援会議は開催していないが，学年顧問の抱える事例の今後の問題解策を随時アドバイスし，学生委員長が対処を支援した。

3) 今後の課題

(1) 喫緊の課題（懸案事項）

・平成25年度分自己点検・評価報告書には，学年顧問の役割と活動が大学組織内での位置づけが明確でないとの指摘があるが，《新しい学生支援体制》（作成年月日不明）では，「学生支援会議」の構成員に位置付けられていることになっている。

(2) 将来的な課題

・学生支援会議設置規程では審議事項が4項目定められている。構成員の人数（各学年顧問2名参加するとして会議構成員が15名）を考えると，これらを審議する会議の招集が困難で事例の緊急性には到底対応できない。また，事例によっては学生のプライバシーに触れる内容も考えられるため，支援会議の構成員全員で問題状況を共有することが不適切な場合も考えられる。

・学生支援会議が審議する4項目の(1)は自傷行為に関連する事例に触れているが，学生のプライバシーに係ることであり，そもそも学生支援会議で情報共有すべきことではない。しかし対処に困る場合は，保健室の保健師や精神看護 CNS などに対処を依頼することがあってもよい。(2)は発生した事例の性質上ハラスメント相談に繋がる事例であるため，学生支援会議はこの問題に関与する第一の当事者ではない。(3)の学修支援に関しては，学生支援会議の構成員が学生の履修状況や単位取得状況を直接関知する立場になく，当事者性を欠いているため，教務課と教務委員会の守備範囲とも考えられる。(4)の継続的支援を要する事例は緊急性が低く，経過を観察し必要な支援と対処を間違わないように，また各担当者が事例を抱え込むことで対処が遅くならないように，問題解決を適切な部署に繋げるという意味では，学生支援会議の役割とするのに適切である。しかし，今後の支援のありようを検討する場として，15名による学生支援会議は必ずしも必要ではなく，学生委員長と事例を抱える学年顧問，そこに事務担当者に同席してもらう小会議で対処策を検討することのほうが現実的である。

・以上のことから，学生支援会議による問題解決の仕方については，問題を抱える学生への支援を継続しその経験を踏まえ《新しい学生支援体制》も含めて今後継続して見直す必要がある。

2 学年顧問の設置

1) 学年顧問の役割

学年顧問は、学生にとって身近な存在として学生の学習面や生活面の相談にのり、学年の進捗とともに同じ学年を4年間（編入学生は2年間）担当し、学生をサポートする教員である。

学生相談に対するニーズに迅速に対応でき、学年顧問の教員が1人で抱え込まず、相談しながら対応できる体制とするため、各学年2名の教員が担当する。

学年顧問の主な仕事と本学の関連部署/担当者との連携に関して以下のとおり。

①学年顧問の主な仕事

- (1) 学生の生活面の困りごとに関する相談
- (2) 学生の学習面の相談（履修単位の修得、実習に関すること、休学・退学等）
- (3) 学生の健康面に関する相談
- (4) 学生の進学・就職、国家試験の準備等に関する相談、看護師国家試験不合格時の支援
- (5) その他 奨学金の推薦状の作成等
- (6) 学生支援会議への出席

②学生からの相談に関して学年顧問が連携する部署/担当者

学生の相談内容や問題となっている事項に応じて、就職支援員、学生支援員、保健室保健師、健康センター長、卒業研究担当教員、科目担当教員、教務・学生課と連絡をとる。また、必要に応じて学生委員長、教務委員長に報告・相談をする。

③学生の保護者との連絡のとり方

学生の保護者と連絡をとることが必要な場合は、その理由を明らかにし、学生支援会議や関係者会議等で合意の上で行う。問題の性質、緊急度、学生と保護者との関係性等を考慮して、保護者と会う人（学年顧問、単位認定者、学生委員長、学部長、健康センター長他）を選定する。緊急対応を要する場合は、その事由に応じて学部長、健康センター長等と相談して対応する。いずれの場合も、保護者との連絡経過を書面で学部長ならびに学生委員長に報告する。

④在学期間が4年を超えた学生は、原則としてそれまで担当していた学年顧問が任務を継続する。

平成 26 年度学年顧問

学年	1 年生	2 年生	3 年生	4 年生
顧問の氏名	三沢講師	竹内准教授	屋良准教授	井村准教授
	秋山講師	上田講師	御子柴講師	宮越准教授

2) 学年顧問の活動報告

①1 学年

新生活、また新しい人間関係に順応していくことが必要であるものの、初期の段階から躓きをみせる学生がいた。後学期にも人間関係の悩みから、情緒不安定となる事例があった。親元を離れ人間関係が狭い学生間に依存するといった要因により、ささいな悩みが深刻化したものと推察している。アルバイトについては、多くの学生が早い段階で開始したい、またはすでに従事していると答えていた。経済的な事情のほか、上級生からの勧誘も影響していると考えられる。

② 2 学年

1 年次と違い専門科目も授業時間も増え、それに伴い学習課題も多くなる。そのため、授業についていけずに、精神的に追い詰められる学生が目立つようになった。

実習に向けた準備や実習経験によって情緒的に不安定になりやすく、看護師としての適性についても悩みを深くする時期にあると考えられる。

また、アルバイトに時間を取られ、学習時間が確保できずに単位を落とす学生や再試や再々試験でギリギリ合格という学生も見受けられた。

1 年次の時間割に余裕がある時期にバイトをいくつも始めてしまい、2 年生になり、授業時間が増え課題も多くなるのに、1 年次と同じ感覚でバイトを続けてしまっている学生が見受けられる。バイト先に事情を話しにくく、断われない、辞められない状況も見聞きする。アルバイトに関しては、1 年生の早い時期から注意喚起する必要があると思われる。

③ 3 学年

多くの学生は安定して授業・実習に取り組めていたが、アルバイトが学業を妨げている大きな原因となっている学生も見受けられた。経済的理由から学業優先という原則が守れなくなったり、雇用主による理不尽な要求に NO と言えなかったり等、社会的に未熟な学生ならではの課題が浮き彫りとなった。個別の指導はもちろんであるが、大学全体としても注意喚起が必要であると考えられる。

④ 4 学年

4 学年次になって進路に迷う、実習態度が問題になるなどの状況はなくなり、それぞれが決めた進路に向けて準備を進められるようになった。

実習が終わる秋までは、健康センターや保健室保健師からの情報を共有し、国家試験模試終了後からその結果を受けて個別に対応した。12 月末まで卒業研究等に追われたことを模試の成績不振の理由にする学生が多いが、国家試験模試の時期を早めて早期に成績不振の学生を捉え指導できるような環境づくりの対策が必要と考えられる。

3) 今後の課題

・「学年顧問の主な業務」の(5)に「奨学金の推薦状の作成等」があげられているが、推薦書を求める奨学金（主に医療機関による奨学金で卒業一定期間の就労を求めるもの）は貸主と借主間の個人契約によるものである。よって推薦書の作成により、学年顧問に貸主に対する学生の保証を義務付けることがあってはならない。貸主は推薦書を求めるのではなく、取得単位を明示する成績表の提出や面接を学生に求めるべきである。

・学年顧問の(4)に関する支援内容のうち、「学生の進学・就職、国家試験の準備などに 関する相談」に関しては、4 年次の卒業研究担当教員も積極的に関わりアドバイスすることが望ましい。

3 新学期の学生生活ガイダンスの実施

(1) 新学期の学生生活ガイダンスの実施

新学期開始直前に、各学年に対して学生生活ガイダンスを実施した。

(2) 防犯講習会の開催

新学期開始直前に、すずらん寮に入居する 1 年生とアパート暮らしを始める 2 年を対象に、駒ヶ根警察署の警察官を講師に防犯講習会を実施した。

第2節 キャリア形成支援

1. 在学時における進路支援

1 支援の概要

1) 就職・進学に関する支援

(1) キャリアガイダンスの実施

(2) 進路希望調査の実施

4月：求職票の提出（4学年） 12月：進路希望調査票の提出（3学年）

(3) 個別面談の実施 7月：卒業予定者全員を対象

(4) 求人票・募集要項等の整備

(5) 「進路の手引き」（キャリア支援ハンドブック）の作成

全学年および全教員に配布

(6) 求人等に関する来訪の対応

(7) 職場体験（インターンシップ）・職場見学等の紹介や斡旋

(8) 各種進路関係情報の提供（合同説明会の開催等の情報提供、進路情報誌の配布など）

(9) 大学院等の募集要項の整備

(10) 大学等からの教員募集要項等の整理

(11) 応募及び採用試験への支援

希望者に応募書類作成支援、面接試験個別練習、面接ビデオや関係図書の整備など

(12) 公務員・養護教諭等の受験対策

県内市町村の保健師採用予定調査、公務員対策講座等の参加斡旋、参考図書等の整備

(13) 新社会人ワーキングセミナーの開催

2) その他

(1) 県内市町村の保健師採用に関わる実態調査

(2) キャリア支援のあり方について見直し・検討

2 支援の実施状況・結果

1) キャリアガイダンスの実施状況

<一年次><編入一年次>

キャリアガイダンスⅠ 5月13日(火)14:40～16:10

ねらい	○大学における進路選択や就職活動等についての基本的な知識を身につける。 ○本学の卒業時に取得できる免許や資格等を理解する。 ○卒業生の進路動向等により卒業後の進路の可能性を考える。 ○卒業後の進路を見通すことによって学習意欲を高める。 ○学内外の様々な進路選択に関するサポート資源を理解する。
内 容	○本学の進路指導体制や卒業生の進路先など基本的な事項の説明を行う。

<全学年対象>

キャリアガイダンスⅡ（卒業生シンポジウム）11月22日(土)

ねらい	○複数の卒業生による就職活動や職業生活に関してのシンポジウムに参加し、 進路意識を育むとともに看護職のキャリア形成について考えを深める。
-----	---

内 容	○卒業生による体験等を踏まえたキャリア形成のためのシンポジウムを行う。 (本学創立 20 周年記念事業として実施) シンポジスト 久保 貴三子 (諏訪中央病院師長、学部 1 期生、大学院前期 5 期生) 穂高 幸枝 (伊那中央病院専門看護師、学部 3 期生、大学院前期 11 期生) 柿沼 佑果 (カリフォルニア大学サンフランシスコ小児病院看護師、学部 7 期生) 中村 英基 (須坂市健康づくり課保健師、学部 8 期生)
-----	---

<三年次><編入一年次>

キャリアガイダンスⅢ 4月7日(月)9:50~10:05 教務ガイダンス内において進路説明

①12月16日(火)13:00~14:30 ②1月8日(木)13:00~14:30 ③2月3日(火)13:00~14:30

ねらい	○卒業学年を控えて、希望や個性、特性に応じた進路先を考え、その実現を図るための情報を得るなど就職活動に必要な知識や態度を養う。
内 容	①就職活動のための情報収集や施設見学・職場体験等のポイント、行政保健師(公務員一般試験)および養護教諭(教員採用試験)等について、就職先の選び方などについての指導を行う。 担当者:岡田 実(本学教授)、御子柴 裕子(本学講師)、唐澤 淳(就職支援員) ②就職先として可能性のある職場の管理者等を招いて、医療現場の状況や県看護大学生への期待などについて話をしていただく。 講 師:伊藤 まさ江(伊那中央病院看護部長) 中村 恵子(松本保健福祉事務所健康づくり支援課長、保健師) ③就職情報会社の社員を招いて、履歴書(エントリーシート)の記入や筆記試験、面接試験等就職活動の実際を知るとともに身だしなみ、挨拶、言葉遣い等社会人としてのマナーについての具体的な説明をしていただく。 講 師:吉田 優太(㈱マイナビ キャリアサポート課長)

<四年次><編入二年次>

キャリアガイダンスⅣ 4月7日(月)10:35~10:55

ねらい	○卒業学年として、就職活動に必要な知識や手続きを確認する。
内 容	○求職活動の手順、履歴書(エントリーシート)の書き方、面接試験や小論文等の筆記試験への対応、求職票の提出についてなど、具体的な就職活動を進めるにあたって必要となる事項の説明を行う。

2) 卒業生の就職・進路状況

- (1) 県内の医療機関等への就職者数は 45 名 (57.0%) であり、昨年度に比較すると県内への就職比率は若干下降した。近年の傾向として、県内就職率は 60%前後で推移している。
- (2) 県内外の都市部の大規模病院や大学病院等への就職を希望する者が、依然として多く見られた。
- (3) 県内市町村等の保健師は 1 名が採用されたが、県外と合わせても行政保健師はこの 1 名のみであり近年の傾向として著しく減少している。養護教諭については、義務・高校とも応募・採用がなかった。

平成26年度 卒業生・修了生の進路状況 平成27年3月31日現在

平成27年3月31日現在

〔看：看護師、助：助産師、保：保健師 教：教員〕 (単位 名)

長 野 県 外	看	保	助	教	他	計
医療機関・行政機関等						
東京歯科大学市川総合病院	2		1			3
東京臨海病院	2					2
虎の門病院	1		1			2
名古屋市立大学病院	2					2
雄勝中央病院	1					1
太田記念病院	1					1
みさと健和クリニック透析センター	1					1
千葉大学医学部附属病院			1			1
日本医科大学付属病院	1					1
三井記念病院			1			1
河北総合病院			1			1
聖路加国際病院	1					1
NTT東日本関東病院	1					1
荏原病院	1					1
横浜南共済病院	1					1
横須賀共済病院			1			1
北里大学病院	1					1
新潟西蒲メディカルセンター病院	1					1
市立砺波総合病院	1					1
静岡県立こども病院	1					1
静岡県立静岡がんセンター	1					1
静岡済生会総合病院			1			1
愛知医科大学病院	1					1
名古屋医療センター	1					1
藤田保健衛生大学病院	1					1
京都第二赤十字病院			1			1
北野病院	1					1
さわ病院	1					1
(株)HITEN					1	1
計	25	0	8	0	1	34
県内・県外 合計	65	1	12	0	1	79

(3)その他 (7名)

家居			7
----	--	--	---

- (1) 卒業生の就職先として、県内における定着率を高める必要がある。とりわけ、県内の地域中核病院や小規模自治体(行政保健師)への就職について、関係機関等との連携を図りつつ学生の関心を高めるような方途を引き続いて探っていく。
- (2) 就職先での早期退職を防ぐことや卒業生の生涯にわたるキャリア形成に資するため、卒業後における看護職としての適応状況などの実態を把握するなどして、より充実したキャリア支援活動を実施するための方策について、卒業生・修了生キャリア形成支援部門との協力関係のなかで取り組んでいく。
- (3) 県内公立学校等における養護教諭の採用は厳しい状況が続いているが、地域貢献の意味合いとともに学生の進路保障の観点や県教育委員会の意向等も踏まえながら、採用数の増加につながるような支援体制について具体的な対策を模索していく。
- (4) 三年次におけるキャリアガイダンスは、現場の管理者から具体的な話がきけて進路意識を高める効果があったが、より医療現場との連携を深めつつインターンシップ等の参加を促進するための対策も検討する必要がある。

2. 国家試験の対応状況

1 国家試験への支援の概要

- 1) 模擬試験の実施
看護師 3 回、保健師 2 回、助産師 2 回実施
本学教員に対して模試結果等の関係資料を情報提供
- 2) 国家試験受験手続説明会の開催
11 月 願書の記入について指導、願書の取りまとめ、願書提出(郵送)
2 月 受験票の交付及び受験に関する留意事項等の説明
- 3) 国家試験受験関係業務
受験に必要な書類(願書、修業見込書等)の整備・点検および提出
- 4) 免許申請手続き説明会の開催
2 月 免許申請書類の配布及び留意事項等の説明
- 5) 合格発表後の進路指導
合否状況の確認 不合格者に対する支援
- 6) 既卒不合格者の受験手続や模試等の支援
- 7) 国家試験対策補講の実施(1 月に実施)
- 8) 国家試験受験対策ガイダンス(4 月と 11 月に実施)
- 9) 受験参考書籍等の整備と斡旋

2 国家試験に関する実績

- 1) 保健師、助産師及び看護師の国家試験については、平成 23 年度の助産師国家試験(9 名の受験者のうち 3 名が不合格)を除けば、ここ数年、本学新卒者は全国平均よりも概ね高い合格率を維持してきていたが、本年度は看護師国家試験で 6 名の不合格者が出た。

＜平成 26 年度国家試験の合否状況＞

	総 数				新 卒				既 卒			
	出願者数	受験者数	合格者数	合格率	出願者数	受験者数	合格者数	合格率	出願者数	受験者数	合格者数	合格率
第101回保健師	92	92	92	100%	86	86	86	100%	6	6	6	100%
第98回助産師	12	12	12	100%	12	12	12	100%	0	0	0	－
第104回看護師	84	84	78	92.9%	84	84	78	92.9%	0	0	0	－

3 課題及び方策

国家試験対策については、本年度看護師国家試験で 6 名の不合格者を数えたことに鑑み、受験者全員の合格を目指して、受験ガイダンスや公開模擬試験および特別補講などの今までの取り組みを更に発展・充実した内容となるよう検討していく。とりわけ、助産師の受験者に対しては十分な受験準備が出来るように配慮していく。また、既卒の不合格者に対しても受験手続きの相談に応じるとともに公開模試の受験促進などの支援を継続する。

第3節 保健厚生

1 概要

保健室では、学生が心身共に健康で充実した学生生活を送れるよう健康診断や健康相談、傷病等緊急時の応急処置などを行っている。設備は、ベッド、応急セット、衛生用品、薬品棚、書類保管庫、寝具入れ、車椅子 1 台、血圧計、身長体重計、視力計などがある。保健室

には、常勤保健師 1 名が配置されている。必要に応じて学校医へ相談し、また学内の健康センター（活動内容は第 2 章第 5 節に記載）や学生支援員（看護師）、学年顧問と協力・連携して対応している。

○保健室の役割・業務内容

- ①傷病者の応急処置に関すること
- ②健康診断、健康管理に関すること
- ③保健指導及び健康相談に関すること
- ④教育研究活動中の災害を補償する保険に関すること
- ⑤感染症予防や予防接種に関すること
- ⑥学校行事等の救護
- ⑦その他保健に関すること

2 実績

（1）保健室利用状況

平成 22 年度から 26 年度の保健室利用状況を表 1 に示す。相談内容は、体調不良、怪我、月経に関すること、友人関係、進路、精神的問題に関することなど多岐に渡っている。体調不良や怪我等の状況により、受診同行や保護者への連絡などの支援も行った。救急搬送も 1 例あった。

また、平成 26 年度にはインフルエンザ（疑いを含む）のため 14 名の学生が出席停止となった。発症した学生等や接触者に対する保健指導、大学全体に向けての注意喚起・予防啓発を行い、その結果、重症化した学生や感染拡大・集団感染はなかった。

表 1 保健室利用状況

区分	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度
健康相談（身体）	399	277	190	168	273
健康相談（精神）	77	42	81	68	61
相談（その他）	111	96	71	69	76
合計	577	415	342	305	410

（2）定期健康診断の項目と受診状況

定期健康診断の項目は、①身体測定（身長と体重）、②視力測定、③血圧測定、④胸部 X 線検査（間接撮影）、⑤血液検査（貧血）、⑥尿検査、⑦内科診察の 8 項目である。平成 22 年度から 26 年度の定期健康診断の受診状況（学部生）を表 2 に示す。未受診の未受診項目は、尿検査だった。

定期健康診断の結果、各項目に異常が見られた者や自覚症状のある者には、受診指導や保健指導を行っている。精神的不調の兆候が見られる者には、個別面接を実施し、必要に応じて定期的な面接、健康センターへの紹介、受診支援などを行っている。

また、入学年度の定期健康診断では B 型肝炎抗原・抗体検査及び小児ウイルス感染症（麻疹、風疹、水痘、流行性耳下腺炎）抗体検査を併せて実施している。B 型肝炎抗原・抗体検査でいずれも陰性であった者に対しては、予防接種を実施している。小児ウイルス感染症

抗体検査で抗体陰性及び陽性低値の者には、予防接種を指導（勧奨）している。

表 2 定期健康診断受診状況（学部生）

	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度
健診対象者	340	339	337	339	342
受診者数（全項目を受診した者）	326	332	336	336	338
受診率（％）	95.9	97.9	99.7	99.1	98.8

3 今後の課題

学生相談の窓口としては、保健室、健康センター、学生顧問など複数整備され、学生は相談者を選択することができる。相談対応者は、学生支援会議や個別のカンファレンス等による情報共有や支援の連携が必要であり、その際には本人の同意やプライバシー保護に十分留意することが重要である。

また、受診支援や救急搬送の際には家族への連絡が必要となるが、家族からの支援を受けることが難しい学生もあり、支援体制の検討が必要である。

心身の健康問題が学業に及ぼす影響は大きく、特に科目試験が重なる時期や実習期間などには食事の乱れや睡眠不足から体調を崩す傾向がみられる。激しい月経痛などから失神する事例もあるため、学生が日頃からセルフケアできるよう指導していく必要がある。

第4節 修学資金等

（1）修学資金

事務局で取り扱っている奨学金は「日本学生支援機構奨学金」、「長野県看護職員修学資金」、「上伊那広域連合看護師等修学資金」の3種である。本学独自の奨学金はない。

（1）日本学生支援機構奨学金

大学全体の貸与率は40.6%、学部生では44.2%で概ね半数の学生が利用している。採択率は、追加割当があるため、ここ数年は100%である。

第一種奨学金の貸与を受けた大学院生で、在学中に特に優れた業績を挙げた者は、「長野県看護大学大学院奨学金返還免除候補者選考規程」に基づき、返還免除候補者として日本学生支援機構に推薦している。

（2）長野県看護職員修学資金

大学全体の貸与率は4.1%と低い。これは、貸与対象者を「免許取得後（若しくは大学院修士課程修了後）、直ちに県内の返還免除対象施設で就業する意思があること」としているためと考えられる。返還免除対象施設は以下のとおり。なお、採択率は100%である。

<学部生>

- ・病床数200床未満の病院
- ・精神病床を80%以上有する病院
- ・過疎地域にある病院（木曽病院）
- ・診療所
- ・重症心身障害児施設
- ・母子健康センター（助産師に限る）
- ・地域保健法に規定する特定町村（保健師に限る）
- ・訪問看護ステーション（上記免除施設で3年以上の実務経験が必要）

<大学院生>

- ・医療法第1条の2第2項に規定する医療施設
- ・母子健康センター
- ・地域保健法に

規定する特定町村 ・訪問看護ステーション（医療施設で３年以上の実務経験が必要）

(3) 上伊那広域連合看護師等修学資金

上伊那広域連合が、地域医療再生基金を原資として平成 23 年度に創設した制度で、貸与対象者は、将来上伊那地域において看護職員の業務に従事しようとする者である。

地域を上伊那地域に限定していること、将来返還義務が生じない他の貸与制度との併用ができないことから、貸与率は 1.7%と低い。

2. 実 績

各修学資金の貸与実績については、以下のとおりです。

日本学生支援機構奨学金貸与状況（平成26年度実績）

種別	学年	学部生					大学院生		合計
		4学年	3学年	2学年	1学年	計	修士課程	博士課程	
第一種		17	14	16	13	60	1	0	61
第二種		21	14	19	20	74	0	0	74
併 用		3	3	5	1	12	0	0	12
計(A)		41	31	40	34	146	1	0	147
学生数(B)		80	82	85	83	330	20	12	362
貸与率(A/B)		51.3%	37.8%	47.1%	41.0%	44.2%	5.0%	0.0%	40.6%

長野県看護職員修学資金貸与状況（平成26年度実績）

種別	学年	学部生					大学院生		合計
		4学年	3学年	2学年	1学年	計	修士課程	博士課程	
貸与者数(A)		6	4	2	3	15	0	0	15
学生数(B)		80	82	85	83	330	20	12	362
貸与率(A/B)		7.5%	4.9%	2.4%	3.6%	4.5%	0.0%	0.0%	4.1%

上伊那広域連合看護師等修学資金貸与状況（平成26年度実績）

種別	学年	学部生					大学院生		合計
		4学年	3学年	2学年	1学年	計	修士課程	博士課程	
貸与者数(A)		1	0	4	1	6	0	0	6
学生数(B)		80	82	85	83	330	20	12	362
貸与率(A/B)		1.3%	0.0%	4.7%	1.2%	1.8%	0.0%	0.0%	1.7%

(2) 授業料の減免

1) 概要

長野県看護大学条例では、経済的理由により授業料を納付することが困難な者、休学等の事情がある者に対して、授業料を減免することができることとしている。

また、希望する者について、年４回（４月、７月、９月、１月）に分納して授業料を納付することができることとしている。

2) 項目に係る実績

平成 26 年度においては、経済的理由により納付が困難と認められた者 16 名（東日本大震災関連 1 件含む）に対して、授業料の減免を行った。

平成 25 年度は 14 名、平成 24 年度は 17 名、23 年度は 15 名、22 年度は 11 名、に対して減免している。

第5節 サークル活動及び大学際

(1) サークル活動

正課の授業以外に行う課外活動を行うサークルは、平成26年度は22団体である。

サークル活動は学生の自主性を尊重しつつ、サークル顧問として教員が関わりサークル活動の相談・支援を行っている。

平成26年度団体・サークル等一覧表

団体・サークルの名称	構成	活 動 内 容 等	顧 問
軽音楽サークル	58	ライブ（新入生歓迎、学園祭等）、ライブに向けての練習	御子柴講師
茶道サークル	9	外部講師による茶道のお稽古、学祭でのお茶会	有賀助教
書道サークル	7	外部講師による書道、ペン習字	屋良准教授
ほがらかふれあい農園サークル	51	作物や花の作付・栽培	太田教授
わらわらサークル	31	全国医学生ゼミナール参加	屋良准教授
美術・文芸サークル	18	絵を描く、文を書く、文化祭の出展	御子柴講師
Talk & Nurse	10	医療英会話をういたディスカッション、ロールプレイ、記述等	田中助教
ハモネプサークル	21	入学式、卒業式、鈴風祭での発表	千葉准教授
よさこいサークル	63	鈴風祭での発表、様々な行事への参加	田中助教
弓道サークル	3	大会参加、合宿練習	多賀谷特任教授
硬式テニスサークル	41	練習、ゲーム	太田教授
山岳サークル	17	登山、ハイキング、バーベキュー等アウトドアを楽しみながら自然に親しむ	北山教授 秋山講師
バスケットボールサークル	61	練習、ゲーム	牛山助手
バドミントンサークル	62	練習、ゲーム	森野助教
バレーボールサークル	30	練習、ゲーム	安田教授
スノーボードサークル	98	スノーボード、スキー	高橋助教
ダンスサークル	13	鈴風祭での発表	千葉准教授
室内楽サークル	20	入学式、卒業式での演奏 施設・病院・学校・イベント等で演奏活動	千葉准教授
卓球サークル	10	練習・大会への参戦	喬教授
剣道サークル	3	練習・大会への参戦	三浦助教
吹奏楽サークル	13	入学式、卒業式での演奏 施設・病院・学校・イベント等で演奏活動	千葉准教授
フットサルサークル	18	練習・大会への参戦	森野助教

(2) 大学祭

長野県看護大学大学祭（名称「鈴風祭」：すずかぜさい）は、毎年9月中旬～下旬に2日間の日程で開催している。運営は1・2年生が中心となり、約80名による鈴風祭実行委員会を組織し、4月から約半年間をかけて準備を進めている。

平成26年度は9月21日(土)22日(日)に開催した。看護大学ならではの特色ある企画として、ヘルスチェックやハンドマッサージコーナーを開設するとともに、地域の方々や子どもたちにも喜んでもらえるような催し物を開催し、近隣住民の方をはじめ、老若男女問わず大勢の方々と賑わった。

また、会場の一角には「大学説明コーナー」を設け、広報交流委員会のメンバーが、本学への進学を検討している高校生に対し、進学相談を行った。

○事前の周知活動

- ・PRのための学校訪問：小学校6校、中学校3校
- ・パンフレット広告スポンサー：約100社

○当日の主な催し物

- ・ヘルスチェック、ハンドマッサージ等の健康サービス
- ・大学説明コーナー
- ・サークル発表
（よさこい、ハモネプ、室内楽、軽音楽、茶道、書道、美術・文芸）
- ・バルーンショー、ビンゴ大会等の開催
- ・地元高等学校の音楽発表
- ・各種模擬店

第6節 関係団体の活動

1. 大学生協

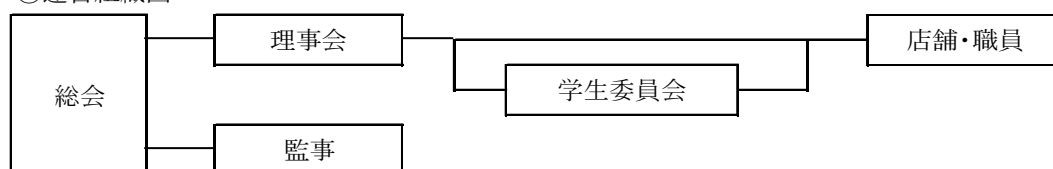
1 概要

(1) 組織

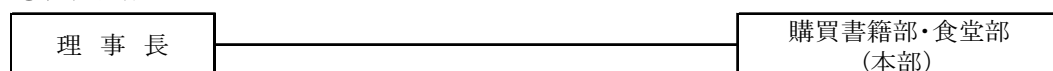
総会で選任された理事を構成員とする理事会の基に、第生活協同組合活動を応援する学生からなる学生委員会と教職員及び店舗職員が共同して、各種の学生生活を応援する活動を行っている。また、生協活動および決算等について監査を行う監事についても、総会で選任され、財務等の監査を行っている。

経営は、理事長の指示の元に、主として購買書籍部及び食堂部の職員が信州大学生生活共同組合と連携を図りながら、日々の業務を行っている。

①運営組織図



②経営組織図



(2) 業務

看護大学生協同組合は、平成 10 年 1 月 21 日に前身の看護大学福利組合から業務を引き継いで運営が開始され、今日に至っている。

その目的は、看護大教職員、学生等の組合員の生活の文化的、経済的な改善向上を目指し、活動に取り組んでいる。

2 活動実績

(1) 主な日常の業務

大学生協パート職員により、以下の業務を行った。

食堂部：昼食及び臨時の夜の飲食を提供した。

購買書籍部：書籍、文具、生活用品及び保管食品を販売した。

(2) 総会・理事会等開催

大学生協の理事及び理事等役員(理事：13名、監事：4名)による理事会等を以下により開催した。

項目	開催日	主な議題
第一回理事会 (総会)	26 年 5 月 20 日	理事長、専務理事、専務補佐の互選について 代表理事の選出
第二回理事会	26 年 7 月 15 日	夏期・冬期営業日程、定時職員契約更新について
第三回理事会	26 年 10 月 21 日	アレルゲンの表示について 代議員選出について
第四回理事会	26 年 12 月 15 日	予算作成基準について 全国総会代議員選出について
第五回理事会	27 年 2 月 21 日	2014 年度決算見込みと 2015 年度予算について 春期営業及び総会日程について
第六回理事会	27 年 4 月 14 日	2014 年度決算報告 総会議案及び運営について

※ 看護大学生協の会計年度は 3 月から 2 月まで、役員の年度は 5 月の総会後から、翌年の総会までとなっている。

(3) 学生委員会総会・理事会等開催

看護大学の学生により、生協の活動を PRするとともに、学生の生活を支援するため、学生委員会を組織し以下の活動を行った。

学生委員会の活動報告

月	主な活動内容（学生委員会の活動含む）
2014 年 5 月	食堂装飾①、デザートバイキング企画計画、生協総会(看護大学 in 大講義室) (5/20 実施)
6 月	デザートバイキング (in 生協食堂) 企画実行(6/3 実施)、七夕企画計画
7 月	食堂装飾②、七夕企画実行(7/7～11 実施)、夏祭り企画計画・実行 (7/24 実施)
8 月	鈴風祭模擬店計画・準備、生協サマースクール参加 (8/24～26 開催、2 年生 2 名参加)

9 月	鈴風祭模擬店出店(9/20,21 実施)
10 月	食堂装飾③、ハロウィン企画計画・実行(10/15~10/31 実施)
11 月	クリスマス会計画、「Ns の☆」の制作、信州の集い参加（11/23 開催、1 年生 3 名参加）
12 月	食堂装飾④、「ナースの☆」制作、クリスマス会実行（in 生協食堂）(12/16 実施)
2015 年 1 月	「ナースの☆」完成（1/7）
2 月	GI 年度末慰労会計画・実行（2/17 実施）
3 月	お友達企画計画、卒業式生協食堂手伝い（3/14 実施）、引っ越しお助け隊①(3/21,22 実施)、②(3/28,29 実施)
4 月	食堂装飾⑤、入学式生協食堂手伝い（4/3 実施）、お友達企画実行（in 生協食堂）(4/2 実施)、新入生歓迎パーティー企画・実行（4/17 実施）

（４）その他の成果

近年の粗利の減少傾向および総供給高の減少から、平成 25 年度の運営は危ぶまれていた。この傾向は一部で加速する傾向にあったものの、公募型相見積の制度に積極的に対応するなど、相当の業務形態の改善をはかったところ、損益を最小限に抑えることができた。また、信州大学生協に委託していた業務の一部などを、本生協で処理することにより、委託費の削減と業務の効率化を望める体制とした。

3 課題及び方策

（１）喫緊の課題

- ・小さな諸問題はあるものの、組合員から概ね支持された食堂運営や購買部の活動がなされているが、この活動を維持していく手段が一部のパート職員のみ依存しており、多忙を極めている。したがって、パート職員の増員と職員同士がお互いの分担をカバーしあえる体制づくりが最も急がれる課題である。

（２）長期的な課題

- ・正規職員の不在による不安定な運営が持続している。

2007 年に正規職員（店長）の退職後、パート職員のみで現場が運営されている。中でも、歪を理解しないまま「黒字経営状態で健全運営ができている」との認識が広がっているのは、最も大きな問題の 1 つである。実態は、店長を雇用する余力がない状態であることが、周囲の会員や大学に理解されていない。今後、理事を様々な教職員に経験させるなど、経営の根幹的な問題に直面する機会を増やすとともに、教職員、大学生にこの状態を周知し取り組んでいく必要がある。

- ・学生委員会の活動を旺盛に進め、生協の活動を知らせるよう取り組む必要がある。

自治会と協力しての企画も求め、その活動を周知する必要がある。

2. 後援会

1 概要

長野県看護大学の運営に協力援助を行い、もって教育研究の発展に寄与するとともに、学生が豊かで充実した学生生活を送れるよう福利厚生事業を行うことを目的として、平成7年4月8日に発足したものである。

組織は、総会及び会員から選出された理事及び監事からなる役員会があり、業務・立案は、理事から選ばれる会長及び副会長と理事により行われている。事務局は、会則に基づき、看護大学事務局総務課に置き、看護大学事務局次長が事務局長として庶務会計の事務を行っている。

主な業務

- ・学生の課外活動に対する援助。
- ・学生の生活指導・厚生等に対する援助。
- ・大学の運営・教育設備の設備充実等に対する協力 等

2 活動実績

(1) 主な業務

①新入生のオリエンテーション合宿(4/8～9)、学生自治会へ補助しました。

合宿に使用した文房具等、自治会活動（鈴風祭、サークル）へ補助

②進路指導や福利厚生のために必要な事業等に対して援助しました。

B型肝炎ワクチン予防接種（1年生・編入1年生対象：3回）、B型肝炎抗体検査（全学年）、国家試験対策ガイダンス・進路指導書等への補助

③学外実習旅費（交通費・宿泊代）へ補助しました。

実習交通費・宿泊費等の補助

④卒業式等（卒業式、卒業生を送る会等）、地域との交流等に対して援助・協力を行いました。

送る会への補助、町内会費、区費、看住協議会への交付金

⑤後援会だよりの発行

第17号（450部）の発行

(2) 総会・役員会等開催

項目	開催日	主な議題
第一回役員会	26年 4月2日	総会議題等について
総会	26年 4月3日	・平成25年度事業報告・収支報告書について ・平成26年度事業計画・収支予算、役員選任について ・後援会会費の改定について
第二回役員会	26年 9月20日	・平成26年度中間報告、卒業式、就職求人状況等について ・平成27年度役員体制案について
第三回役員会	27年 3月13日	・平成26年度事業決算見込みについて ・平成27年度新役員体制の確認等について

3 課題及び方策

実習交通費、学生自治会の予算確保のため、今年度入学生から会費を値上げしたが、消費税増税により財政は厳しい状況にあるため、補助の在り方を見直す必要がある。

3. 同窓会

1 概要

同窓会「鈴風会」は平成 15 年、長野県看護大学の創立 10 周年を機に設立された。この名称は、母校の学園祭「鈴風祭」と同様に、駒ヶ根市を象徴する「すずらん」と「風」をイメージして付けられている。

鈴風会は、会員相互の親睦を図り、併せて母校と看護学の発展に寄与することを目的として活動しており、その目標は「母校と会員（卒業生・修了生）とをつなぐ架け橋となること」である。

主な業務は、以下のとおりである。

- (1) 会員名簿の作成及び会報の発行
- (2) 総会、講演会、研修会等の開催
- (3) 母校の後援及び相互の連携に関する事項

最高決議機関として総会があり、ここで鈴風会に関するすべての決定がなされる。総会で決定された枠組みの中で、実務機関として執行部会があり、会長・副会長・庶務・会計の各役員によって運営されている。

会員は、会員（卒業生・修了生）、準会員（在学中の学生）に分けられる。

2 活動実績

- (1) 平成 26 年度基本方針

- ・会員同士のネットワーク強化
- ・同窓会活動の充実

【活動内容】

＜会員同士のネットワーク強化に関すること＞

○ホームページの活用

ホームページ管理者との契約期間終了に伴うホームページのリニューアルに向け、新たな管理者との契約、ホームページ機能と付加サービスの検討を行った。

○会員の参加・アクセスしやすい活動方法の検討

ホームページやツイッターの周知を行った。同窓会からの郵送物に同窓会ホームページのお知らせを加え、会員がホームページの存在を知ることができる機会を増やした。

＜同窓会活動の充実に関すること＞

○同窓会活動に関する意見募集

同窓会活動に対する意見収集として、随時ホームページ上で受け付けた。

○会員サービスの検討

平成 26 年 11 月 22 日に大学創立 20 周年記念行事の一環として、祝賀会を大学と共催で実施した。当日は、110 余名の参加があった。会員からのお祝いコメントを募集してパネル展示を行い、好評であった。

○母校との連携

大学から申し出を受けた事務室借用について、執行部会で検討を行った。

(2) 総会・執行部会の開催

項目	開催日	主 な 議 題
第1回 執行部会	26年4月25日	・大学創立20周年記念行事への参加について ・ホームページ管理について
第2回 執行部会	26年8月8日	・大学創立20周年記念祝賀会について ・大学創立20周年記念行事案内はがき発送準備
第3回 執行部会	26年10月24日	・大学創立20周年記念祝賀会について ・会員からのメッセージ募集について
20周年 記念行事	26年11月22日	大学との共催による祝賀会の開催
第4回 執行部会	26年12月5日	・大学担当者より祝賀会の報告を受領 ・第14回総会について ・ホームページ管理について（管理者との打合せ）
第5回 執行部会	27年1月31日	・第14回総会について ・ホームページ管理について
第14回 総会	27年3月13日	定例総会開催
第6回 執行部会	27年3月13日	・新旧役員引き継ぎ

3 課題及び方策

同窓会活動の充実に関することについて以下のような課題がある。なお、同窓生の経験を活かしたシンポジウムの開催などテーマはあるが、実現するには人的資源の問題など、課題が多い状態である。

(1) 会員同士のネットワーク強化

- ・ホームページリニューアル後の活用方法を検討する。
- ・会員に向けたホームページの周知方法を引き続き検討する。

(2) 同窓会活動の充実

- ・会員から同窓会活動に関する意見を引き続き募集する。
- ・大学学園祭に合わせて、より会員の参加できる企画を検討する。
- ・大学より貸与された事務室の使用規定を作成し、活用法を検討する。
- ・現行の活動は継続しつつ、より会員の参加・アクセスしやすい活動方法を検討する。
- ・母校との連携を図り、大学の発展に寄与できるよう、本会に対する要請に柔軟に対応していく。また、大学のキャリア形成支援部門と引き続き協力していく。

第7節 学生生活アンケート

1 アンケート調査の概要

(1) 目的

学生（学部学生）の生活状況を把握して、教育活動ならびに学生生活指導を検討する資料とする。

(2) 実施時期

平成 26 年 8 月～10 月

*平成 26 年度調査のポイント

- ・平成 24 年度調査の平均回答率が 68%で学年によってばらつきがあった.
- ・学年毎の学生生活の現状を正確に反映させるために、各学年ともに 80%以上の回収率達成を目標に講義や演習終了後に調査に入った.

2 結果の概要

1) 回答者数 289 (学部在籍者総数 342 に対する割合 : 84.5%)

2) 平成 26 年度の学年比較の特徴

- ・日本学生支援機構からの奨学金を受けている学生は、各学年共に 33～43%を占めている.
- ・医療機関からの奨学金を受けている学生は学年の年次が進むにつれて増えており、4 年生は 4 人に 1 人がこの奨学金を受けている.
- ・実家からの仕送り金額は学年を通じて 3～5 万円が多く、学年の年次が進むにつれて仕送金額が増えている.
- ・アルバイトに従事している学生数は 1 年生 (77%) から 3 年生 (94%) にかけて増加しているが、4 年生では減少している. しかし、4 年生の 47%はまだ 5～20 時間のアルバイトに従事している.
- ・アルバイト収入は各学年共に 3～5 万円が多く、5～10 万円の収入のある学生の比率は 3 年生が最も多い (32%).
- ・1 ヶ月あたりの食費は各学年共に 1～2 万円が多く (43～62%), 特に 4 年生では 90%が食費に 1～3 万円をかけている.
- ・進路の悩みは「少し悩んでいる」割合が 1 年生から 3 年生にかけて増え 4 年生では減少しているが、4 年生では「とても悩んでいる」割合が 30%を占めている.
- ・悩み事の内容では、「自分のこと」が各学年共に 16～19%と一定の割合を占め、2・4 年生は「大学での勉強・研究」が最も多くを占め (22～24%), 3 年生では「卒後の進路」が 26%を占めている. 悩み事の多くは友人や親に相談して解決していた.

3 集計結果について

- ・学生の生活経済の実態を正確に把握するために、今後も高い回収率を目指す.
- ・アンケートを通じて得られた結果を、学生生活向上に役立てる.

学生生活アンケート集計結果(平成24年度と平成26年度の比較)						
年度別	平成26年度			平成24年度		
	在籍数	回答数	回答率(%)	在籍数	回答数	回答率(%)
1年生	83	72	86.7	83	37	44.6
2年生	83	75	90.4	80	61	76.3
3年生	82	65	79.2	76	71	93.4
4年生	90	77	85.6	86	52	60.5
合計	338	289	85.5	325	221	68.0

2 平成26年度 学生生活に関する調査 集計結果 (抜粋)

- (11) あなたは進路のことで現在悩んでいますか。
最も当てはまるものを1つ選んで下さい。

	1年生		2年生		3年生		4年生	
	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率
とても悩んでいる	7	9.7%	6	8.0%	15	23.1%	23	29.9%
少し悩んでいる	36	50.0%	44	58.7%	43	66.2%	28	36.4%
どちらともいえない	13	18.1%	10	13.3%	2	3.1%	7	9.1%
あまり悩んでいない	14	19.4%	11	14.7%	5	7.7%	9	11.7%
まったく悩んでいない	2	2.8%	4	5.3%	0	0.0%	10	13.0%
合 計	72		75		65		77	

- (18) あなたは現在奨学金を受けていますか。
受けている奨学金をすべて選んで下さい。

	1年生		2年生		3年生		4年生	
	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率
奨学金は受けていない	36	46.8%	28	35.4%	34	49.3%	23	26.4%
日本学生支援機構	29	37.7%	34	43.0%	23	33.3%	36	41.4%
長野県看護修学資金	4	5.2%	5	6.3%	3	4.3%	5	5.7%
病院の奨学金	6	7.8%	4	5.1%	8	11.6%	21	24.1%
その他の奨学金	2	2.6%	8	10.1%	1	1.4%	2	2.3%
合 計	77		79		69		87	

- (19) あなたは現在実家などから仕送りを1ヶ月にどの程度受けていますか。
最も当てはまるものを1つ選んで下さい。

	1年生		2年生		3年生		4年生	
	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率
仕送りは受けていない	25	35.2%	32	42.7%	25	39.1%	27	35.1%
3万円未満	18	25.4%	10	13.3%	7	10.9%	4	5.2%
3万円以上5万円未満	18	25.4%	18	24.0%	15	23.4%	27	35.1%
5万円以上10万円未満	10	14.1%	12	16.0%	13	20.3%	17	22.1%
10万円以上	0	0.0%	3	4.0%	4	6.3%	2	2.6%
合 計	71		75		64		77	

- (20) あなたは現在アルバイトを1週間にどの程度行っていますか。
最も当てはまるものを1つ選んで下さい。

	1年生		2年生		3年生		4年生	
	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率
アルバイトは行っていない	16	22.2%	7	9.3%	4	6.2%	27	35.1%
2時間未満	4	5.6%	4	5.3%	3	4.6%	3	3.9%
2時間以上5時間未満	2	2.8%	6	8.0%	7	10.8%	6	7.8%
5時間以上10時間未満	14	19.4%	16	21.3%	19	29.2%	16	20.8%
10時間以上20時間未満	27	37.5%	28	37.3%	26	40.0%	20	26.0%
20時間以上	9	12.5%	14	18.7%	6	9.2%	5	6.5%
合 計	72		75		65		77	

- (21) あなたは現在アルバイトによって1ヶ月にどの程度収入がありますか。
最も当てはまるものを1つ選んで下さい。

	1年生		2年生		3年生		4年生	
	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率
アルバイトは行っていない	15	20.8%	8	10.7%	4	6.2%	26	33.8%
3万円未満	14	19.4%	14	18.7%	18	27.7%	17	22.1%
3万円以上5万円未満	30	41.7%	28	37.3%	26	40.0%	26	33.8%
5万円以上10万円未満	13	18.1%	24	32.0%	16	24.6%	7	9.1%
10万円以上	0	0.0%	1	1.3%	1	1.5%	1	1.3%
合 計	72		75		65		77	

- (22) あなたは食費に1ヶ月あたりどの程度使いますか。
最も当てはまるものを1つ選んで下さい。

	1年生		2年生		3年生		4年生	
	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率
1万円未満	29	40.3%	19	24.4%	12	17.6%	4	5.2%
1万円以上2万円未満	35	48.6%	34	43.6%	42	61.8%	48	62.3%
2万円以上3万円未満	8	11.1%	19	24.4%	12	17.6%	22	28.6%
3万円以上4万円未満	0	0.0%	4	5.1%	1	1.5%	2	2.6%
4万円以上	0	0.0%	2	2.6%	1	1.5%	1	1.3%
合 計	72		78		68		77	

- (24) あなたは現在悩んでいることがありますか。
悩んでいる内容について、当てはまるものをすべて選んで下さい。

	1年生		2年生		3年生		4年生	
	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率
自分のこと	30	18.2%	31	19.6%	30	18.3%	34	16.2%
友達のこと	19	11.5%	9	5.7%	6	3.7%	12	5.7%
異性のこと	14	8.5%	9	5.7%	8	4.9%	12	5.7%
家族、家庭のこと	12	7.3%	8	5.1%	12	7.3%	16	7.6%
アルバイト	19	11.5%	19	12.0%	13	7.9%	12	5.7%
サークルなどの活動	7	4.2%	5	3.2%	1	0.6%	7	3.3%
大学での勉強、研究	30	18.2%	35	22.2%	30	18.3%	51	24.3%
卒業後の進路	18	10.9%	28	17.7%	44	26.8%	39	18.6%
経済状態	12	7.3%	11	7.0%	14	8.5%	21	10.0%
その他	4	2.4%	3	1.9%	6	3.7%	6	2.9%
合 計	165		158		164		210	

- (25) あなたは、困った時や悩んだ時には誰に相談しますか。
当てはまるものをすべて選んで下さい。

	1年生		2年生		3年生		4年生	
	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率
友人	50	37.6%	58	38.4%	49	35.8%	62	42.5%
親	41	30.8%	54	35.8%	46	33.6%	45	30.8%
兄弟姉妹	14	10.5%	22	14.6%	12	8.8%	8	5.5%
学年顧問	0	0.0%		0.0%	1	0.7%	1	0.7%
保健室保健師	2	1.5%	1	0.7%	5	3.6%	3	2.1%
就職・学生支援員	1	0.8%	1	0.7%	0	0.0%	3	2.1%
健康センター	1	0.8%	1	0.7%	1	0.7%	1	0.7%
大学の教職員	1	0.8%	1	0.7%	2	1.5%	6	4.1%
大学やアルバイト先の先輩	11	8.3%	6	4.0%	11	8.0%	5	3.4%
高校時代の担任	0	0.0%		0.0%	0	0.0%	1	0.7%
相談する人がいない	0	0.0%		0.0%	2	1.5%	2	1.4%
誰にも相談したくない	8	6.0%	4	2.6%	2	1.5%	7	4.8%
その他	4	3.0%	3	2.0%	6	4.4%	2	1.4%
合 計	133		151		137		146	

第7章 施設の管理運営等

第1節 施設の状況

(1) 施設の全体概要

1. 校地

本学の校地面積は、75,733 m²と学生数の割に広大であり、東に南アルプス、西に中央アルプスを望む恵まれた自然環境の中で、古代ギリシャ都市の「アゴラ」に倣って設けた中央広場を中心に、その周りに図書館・教育研究棟・講堂・学生食堂・管理棟を配置している。また、道路を挟んで屋内プール棟・有酸素運動研究コース・語らいの並木が併設されている。

校舎敷地	運動場用地	寄宿舍用地	プール他用地	計
36,951.00 m ²	15,948.00 m ²	5,760.00 m ²	17,074.00 m ²	75,733.00 m ²

2. 施設・設備

1) 管理棟 (2,248.81 m²)

学長室、事務室、会議室、保健室、食堂、売店が配置されている。食堂については、カフェテリア方式で185席の利用が可能となっており、また、売店が併設され、パン・おにぎりなどの食品や文具等を販売している。両部門とも、長野県看護大学生活協同組合が組織され、経営を行っている。

2) 教育研究棟 (9,079.39 m²)

講義室、演習室、実験室、自習室、情報処理教室(パソコン53台)、LL教室(機器48台)、研究室(講師以上は個室、助教・助手は複数人で1室)、大学院生研究室等を配置している。

講義室が大・中・小合わせて8室、実習室が「基礎」「成人」「母性・小児」「地域・老年」など看護領域ごとに4室、その他実験室、自習室などを完備している。その他大学院生用として、大学院生研究室が4室ある。なお、中講義室のうちの1室には、県内8大学を結ぶ遠隔講義システムを導入しており、他大学が配信する授業を自大学で受講することが可能になっている。

3) 講堂 (962.43 m²)

511席を配置し、AV設備、音響設備等を備えたもので、ピアノも設置している。

利用は、入学式や卒業式その他、公開講座とともに、学生の音楽系サークル活動(練習、ライブ、コンサート等)にも利用されている。

4) 図書館 (1,200.62 m²)

閲覧室80席、教員学習室、グループ学習室、AVコーナーを設置している。

開館時間は平日の場合、9時～19時で土曜日にも開館しているほか、病院の実習期間中は、21時まで利用可能としている。

5) 体育館 (893.68 m²)

木材を多用した造りで、バスケットボール1面、バレーボール2面がとれるひろさとなっている。学生は、鍵の貸与により常時利用可能としている。

6) 学生棟 (802.21 m²)

学生ホール、自治会室、クラブ室等を配置し、自治会活動や学生のサークル活動に利用している。

7) 屋内プール棟 (1, 131. 64 m²)

通年で利用可能な6コース(25m)の温水プールを設置し、そのうち1コースがスロープコースとなっている。また、筋力トレーニング機器を備えた健康増進研究室(ジム)と講義・測定室が併設されている。

学生は常時これらの設備を使用できるほか、温水プールについては、本学主催の高齢者水中運動教室等教育研究活動の一環としても活用されている。

また、長野県障害者福祉センターの南信地域における拠点である障害者水泳支援センターとして障害者に開放しているほか、地元駒ヶ根市の健康教室、消防署の救助訓練等にも利用されている。

8) グラウンド・テニスコート (15, 948. 00 m²)

250mトラックが設置可能なグラウンドと、夜間照明を備えた全天候型テニスコートが4面併設されている。

学生は常時利用できるほか、休日にはグラウンド・テニスコートを地域のスポーツ少年団等を中心に開放している。

9) 有酸素運動研究コース (12, 505. 00 m²〔隣接の「語らいの並木」を含む〕)

コース延長 600mの歩経路のほか、地域住民と学生が協働して植付け・管理を行う「ふれあい花壇」、「ほがらか農園」を設置している。

また、大学正面へ続く学園通りを囲んでケヤキ並木の語らいの並木を整備している。

10) 寄宿舍 (2, 504. 44 m²)

2棟80室(1DK)に学部1年生が入居しており、2年以降は地元のアパートを借りている。

11) 非常講師勤宿舍 (328. 00 m²)

全国各地から非常勤講師を招聘できるよう、1棟8室の宿泊施設を整備している。

また、研究のために帰宅が遅くなる大学院生の宿舍としても活用している。

教育研究棟	管理棟	学生棟	図書館	
9, 079. 39 m ²	2, 242. 13 m ²	802, 21 m ²	1, 200. 62 m ²	
体育館	講堂	寄宿舍	非常勤宿舍	合 計
893, 68 m ²	962, 43 m ²	2, 504. 44 m ²	328. 00 m ²	18, 012. 90 m ²

○教育研究棟

教 員 研 究 室	個人研究室	45室
	共同研究室	5室
講 義 室	大講義室	1室
	中講義室	4室
	小講義室	3室
演 習 室	演習室	4室
実 験 ・ 実 習 室 等	生化学・生理学実験室	1室
	微生物・病理実験室	1室
	基礎看護実習室	1室
	母性・小児看護実習室	1室
	成人看護実習室	1室
	地域・老人看護実習室	1室
情 報 処 理 学 教 室	情報処理教室	1室
語 学 学 習 室	LL教室	1室

3. 設備機器

○情報処理機器等

学内 LAN は、管理棟、教育研究棟、図書館、非常勤講師宿舍、寄宿舍の全域に配置し、利便性を保つと同時に、教職員使用領域と学生の使用する領域を分離、高度な機密情報の保持を徹底している。

教育研究棟内の情報処理教室にパソコン 53 台を設置し、授業以外の時間は学生に開放し、随時使用できる体制となっている。

LL 教室には、LL 学習システムがインストールされた教員用パソコン及び学生用パソコン 48 台（いずれもヘッドセット付き）を設置し、語学学習等に活用している。

4. 課題及び方策

開学から 20 年が経過し、空調設備、温水プールの諸設備など修繕を必要とする箇所が増えてきており、今後更に修繕箇所が増えることが予想される。

設備の修繕や更新には多大な費用がかかるため、緊急性等を勘案しながら優先順位を付けて、改修計画を策定するとともに、予算の確保に努め、修繕、更新を行っていく必要がある。

また、今後も学内の植栽等を常時整備して、教育研究を行うにふさわしい緑豊かな環境を維持しつつ、一層地域住民から愛され、誇りとされるような大学となるよう努めていく。

(2) 図書館

1. 概要

図書館の利用状況

付属図書館は、在学生（学部生・院生）、教員の学習・研究に資するため、図書、雑誌、電子資料などの学術情報の収集、提供を行っている。

1) 図書館施設・設備

閲覧スペースである開架と、閉架書庫に図書・雑誌がそれぞれ配架されているが、利用者はどちらも自由に利用できる。

閲覧席は、個人閲覧席の利用が多い。国試前などの時期によっては席数が不足することもある。通常期は、4 人掛けの閲覧席も含め席数はほぼ充足している。

平成 22 年度に、退館バーの外にソファを設置し、飲食可能スペースとした。

グループ学習室は、グループワークなどに活発に利用されていたが、平成 21 年度に DVD 機器を設置したことで、視聴覚教材のグループ視聴にも利用されるようになった。

データベース検索用の端末は 3 台だが、利用が集中する時期は順番待ちで利用することも多い。データベースのバージョンアップに機器のバージョンが対応できない状況も発生している。

蔵書の収容可能冊数は 10 万冊、現在の蔵書は 71,776 冊である。

表 館内面積および設備

総面積 1200 m ²							
閲覧スペース	688 m ²	書庫	131 m ²	事務室	57 m ²	その他	325 m ²
閲覧席 80 席(内個人閲覧席 12 席)/教員学習室 3 室/グループ学習室/AVルーム(個人ブース 10 席)/館内検索用端末 2 台/データベース検索端末 3 台/コイン式複写機 1 台							

2) 図書館資料

① 図書

図書は看護学の新刊を中心にシラバスの内容に即したものの、教員・在学生（学部生・院生）からの購入希望、その他関連領域の必要と思われるものを図書館司書が選定し購入している。実習に必要な図書は、利用状況をみながら複本も整備している。

また、国家試験や、就職試験に対応するコーナーを設けるなど学生の資料要求に応えられるよう取り組んでいる。

表 図書館蔵書数の推移

年度	和図書	洋図書	合計
2009 年度末	53,753	6,898	60,651
2010 年度末	56,173	6,952	63,125
2011 年度末	58,590	7,136	65,726
2012 年度末	60,677	7,251	67,928
2013 年度末	62,605	7,296	69,901
2014 年度末	64,725	7,051	71,776

表 蔵書における分野別の割合

年度	看護学		医学		その他一般書		合計
	冊数	割合	冊数	割合	冊数	割合	冊数
2012 年度末	15,139	22.2%	19,672	28.9%	33,117	48.9%	67,928
2014 年度末	15,342	21.3%	21,179	29.5%	34,597	49.2%	71,118

②雑誌・新聞

最新の研究成果や分野における動向を知るために雑誌は欠かせない資料であるが、限られた予算の中で、実際の利用に伴った収集タイトルにするために 2010 年度から複写、閲覧などの実際の利用状況を調査し、購入タイトルの見直しを行っている。

表 受入雑誌タイトル数の推移

年度	和雑誌（種類）		洋雑誌（種類）		合計	電子ジャーナル	
	購入	寄贈	購入	寄贈		和雑誌	洋雑誌
2010 年度	128	210	58	17	413	687	610
2011 年度	120	208	53	23	404	915	605
2012 年度	112	238	37	6	393	972	605
2013 年度	103	304	32	11	450	1,048	536
2014 年度	96	278	29	8	411	1,079	757

2013 年度契約電子ジャーナル 和雑誌：メディカルオンライン 洋雑誌：CINAHL With Full text
現在購読している新聞は、全国紙 4 紙地方紙 3 紙である。過去 3 年分を保存している。

③視聴覚資料

看護学の専門領域を中心に DVD 資料の充実に努めている。

表 視聴覚資料数の推移

年度	DVD	VHS	CD	その他	合 計
2010 年度	215	1,790	104	75	2,184
2011 年度	296	1,794	104	76	2,270
2012 年度	308	1,841	107	77	2,333
2013 年度	363	1,842	107	81	2,393
2014 年度	395	1,844	108	82	2,429

④文献検索データベース

文献検索のデータベースは「医中誌 Web」「看護索引 Web」「NACSIS-Cinii」エブスコ社「MEDLINE」「CINAHL with Full Text」「PsycINFO」が利用できる。

検索結果から該当雑誌の当館の所蔵がすぐ確認できる OPAC リンクを貼り利便性を高めている。これらは学内 LAN 接続のパソコンであればどこからでも利用できる。

3) 利用状況

①開館時間・日数

平日の開館時間は、9時から19時まで、長期休業中は17時までであり、土日祝日は休館である。但し、実習期間である5月から12月については、平日は9時から21時、土曜日は10時から16時まで開館している。

利用対象者は、在学生（学生・院生）、教職員、学外者、2011年度から開講された認定看護師養成課程の受講生である。

2014年度は、入館者数・貸出ともに僅かに増加したが、2010～11年度の水準に回復していない。

表 開館日数及び入館者数

年度	平日開館日数	土曜開館日数	開館日数合計	入館者数	1日平均
2010年度	234	20	254	45,813	180.3
2011年度	234	20	254	47,058	185.2
2012年度	235	23	258	43,515	168.7
2013年度	242	24	266	40,882	153.7
2014年度	232	25	257	40,295	156.8

表 貸出条件

	学 生	院 生	教 員	学外者
貸出期間	2週間			
貸出冊数	5	15	15	5

表 貸出冊数の推移

貸出冊数	学生/院生	教職員	合計
2010年度	11,269	2,141	13,410
2011年度	10,910	1,776	12,686
2012年度	9,264	1,974	11,438
2013年度	9,124	1,987	11,111
2014年度	9,601	1,769	11,370

4) 外部開放

①概要

平成16年度より、18歳以上の一般の人を対象に、図書館を開放している。利用時間は、9時から授業日は19時まで、休業日は17時までとなっており、貸出冊数は5冊、貸出期限は2週間となる。初めて来館した際に身分証明書を提示してもらい、利用証を発行する。2回目以降は、入館の際に利用証提示を求めている。貸出・複写のほか、文献検索データベースの利用も提供している。

②利用状況

入館者数は、直近3年間医療関係者が毎年平均1千人規模で利用している。

2014年度入館者数は増加したが、貸出冊数は大幅に減少した。

表 学外者の入館者数および貸出冊数の推移

年度	学外入館者数（概数）			貸出冊数
	医療関係者	他学学生	その他	
2010年度	1,119	209	281	2,780
2011年度	1,011	156	219	2,654
2012年度	1,024	131	197	2,430
2013年度	1,040	176	259	2,601
2014年度	1,027	110	434	2,275

2. 成果及び課題

資料費は年々削減されているが、貸出、閲覧、複写などの状況から雑誌や図書の利用動向を把握し、資料選定に反映させている。今後も在学生（学部生・院生）や教員からの購入希望も取り入れ学習・研究に必要な資料要求を満たせる蔵書構築を行っていききたい。

雑誌については、有料の電子ジャーナルや、現在増加しているインターネットで公開されているデジタル化された学術資料へのアクセスを利用者に分かりやすく提示するなど、利用可能な資料を最大限利用できるような工夫に努めたい。

入館者数、貸出数ともに減少傾向にある。課題、実習との連携（コーナーの設置、利用者に分かりやすい配架、資料の紹介、カウンター対応の向上、図書館利用の広報など資料活用向上のため努めていきたい。

開学して21年が経過し資料的価値が低くなった図書が増加したことと、研究室から移管される図書が増加したことにより、書庫の狭隘化が進んでいる。今後は重複本の除籍など、配架場所確保のための方策をとる必要がある。

以上、今後も、学生・教員の資料要求に応えられる蔵書の構築、資料活用のサポート、設備の充実に努め、学習・研究支援の場としての機能を高めていきたい。

（3）施設の利用開放状況

1 概要

大学のほとんどの施設は、学内利用との調整を図りながら、「長野県看護大学行政財産の目的外使用に関する規程」に基づいて学外者に開放しており、テニスコート、グラウンド、屋内プールなどスポーツ施設の学外者利用度が高くなっている。

屋内プールについては、大学の使用しない時間帯は、長野県障害者福祉センターの南信地域における拠点である障害者水泳支援センター施設として障害者に開放している他、地元駒ヶ根市の健康教室、消防署の救助訓練等にも利用されている。

グラウンド及び体育館は、災害発生時における地域住民の避難場所となっている。

講堂は、1年に2回程度公開講座を開催しており、広く市民に利用されている。

大学南側に道路を隔てて設置されている有酸素運動コースは、ふれあい花壇に隣接していることもあり、近隣の市民の憩いの場ともなっており、随時ウォーキングなどに利用されている。

2 利用実績

学外者に対する施設の開放については、学内利用との調整を図りながら行っているところであるが、利用日数、利用者数とも一定の利用がある。

学外者の利用状況

年度	施設名	テニスコート	グラウンド	屋内プール	講堂	講義室	体育館
	利用日数	41	61	312	0	0	17
平成26年度	利用者数	810	1,580	9,560	0	0	218

3 課題及び方策

市民の交流によって地域に開かれた大学となっており、一定の利用もあるこの状況を今後とも継続していく。しかしながら、施設開放にあたり、保安上の問題など構造的に不便な箇所があることや、経年劣化等による施設の修繕や設備改修等が懸念され、予算上の制約などにより万全な状況での開放が困難となることが予想されることから、できる限り必要な予算等の確保に努め、大学運営に支障のない限り、大学施設を障害者のスポーツ活動や地域住民などへ開放していくこととしたい。

第2節 財政の状況

1 概要

(1) 予算、決算

本学の予算編成は県全体としての予算編成の中に組み込まれており、県の財政担当課から示される予算編成方針等に基づき予算を編成している。したがって大学独自に財政計画を策定する状況ではなく、県全体の緊縮財政の流れの中で、厳しい財政運営を強いられている。

予算執行は、県の条例、規則に基づき事務処理を行い、会計局会計センターによる検査・指導や県監査委員事務局による監査を受けながら、適正な予算執行に努めている。

(2) 外部資金の獲得

県全体の緊縮財政の流れの中で、教育を支える研究活動を積極的に行うため、外部競争資金の獲得を図っている。

2 実績

(1) 予算、決算の状況（平成26年度）

歳入は、大学の自主財源である学生納付金（授業料など）が約3割、県の一般財源が約7割を占めている。県立大学として、教育研究活動を安定的に遂行するために必要な財政基盤を確立している。

歳出は、教職員及び非常勤講師等の人件費が約7割、大学の管理運営に必要な物件費が約2割、教育研究に必要な物件費が約1割を占めている。

（歳入）

財源、歳入科目等				予算額（円）	決算額（円）	構成比
特定財源	自主財源	使用料	授業料	220,954,000	204,663,250	25.5%
			寄宿料	5,664,000	5,162,500	0.6%
			行政財産使用料	49,000	49,704	0.0%
		手数料	入学料	24,584,000	25,944,000	3.2%
			入学審査料	7,439,000	7,020,800	0.9%
			証明事務手数料	61,000	40,800	0.0%
		財産収入	204,000	204,479	0.0%	
		諸収入	1,633,000	1,425,293	0.2%	
		計	260,588,000	244,510,826	30.5%	
		国庫支出金			0.0%	
	基金繰入金	3,724,000	3,724,000	0.5%		
計	264,312,000	248,234,826	30.9%			
一般財源			554,547,393	554,702,242	69.1%	
合計			818,859,393	802,937,068	100.0%	

(歳出)

歳出科目等	予算額 (円)	決算額 (円)	構成比
報酬	9,467,000	9,356,755	1.2%
給料	335,158,000	336,346,000	41.9%
職員手当	164,110,000	162,683,000	20.3%
退職金	14,595,101	14,595,101	1.8%
共済費	106,497,606	106,304,519	13.2%
賃金	8,799,232	8,740,091	1.1%
報償費	22,672,000	19,399,438	2.4%
旅費	19,408,716	14,896,526	1.9%
交際費	45,000	0	0.0%
需用費	79,543,000	75,830,352	9.4%
役務費	9,889,000	6,551,294	0.8%
委託料	20,935,000	21,965,860	2.7%
使用料及び賃貸料	20,488,000	20,336,683	2.5%
工事請負費	0	0	0.0%
備品購入費	3,774,000	3,019,896	0.4%
負担金・補助金及び交付金	3,383,738	2,824,753	0.4%
公課費	94,000	86,800	0.0%
合計	818,859,393	802,937,068	100.0%

(2) 外部資金獲得の状況 (平成26年度)

文部科学省所管の科学研究費助成事業の公募に対し、新たに20件の研究課題について応募し、選考の結果、7件が採択された。25年度以前からの継続採択課題や他の研究機関との転出入課題（転出3件、転入2件）とあわせて、24件、23,600千円の外部資金を獲得し、積極的な研究活動を行っている。

	新 規・継 続			新 規			補助金額 (千円)
	応募件数	採択件数	採択率	応募件数	採択件数	採択率	
応募採択分①	37	25	67.60%	20	8	40.00%	25,600
転出分②		3			1		3,800
転入分③		2			0		1,800
本学執行分 ①－②＋③		24			7		23,600

3 課題及び方策

- (1) 県予算全体の緊縮傾向が続く中、固定的経費である人件費の割合が高まっているため、物件費の効率的な予算執行が求められている。限られた予算を有効に活用するためには、物品購入等にあたり積極的に競争原理を導入する必要がある。
- (2) 看護の発展に寄与する優秀な人材を確保、育成するとともに、安定的な財源を確保するために、学部生、大学院生及び認定看護師養成課程受講生の積極的な募集を行う必要がある。
- (3) 施設、設備の適切な維持管理を行うことは、安全、安心な大学生活を送るために欠かすことができないが、十分な予算が確保できていない。計画的な修繕・改修を行うため粘り強く予算の確保に努める必要がある。
- (4) 教育を支える研究活動を積極的に行うため、更なる外部資金を獲得していく必要がある。

第8章 自己点検・評価総括

平成 26 年度の自己点検・評価の総括として長野県看護大学の中期構想、認証評価機関による審査の課題、その他の課題から総括する。

1. 長野県看護大学の中期構想

平成 26 年度より策定した長野県看護大学の中期構想では、長寿県としての長野県民の健康を支える役割を担うこと、豊かな人間性と看護の心を携えた看護職者の育成を目指し、学部教育の充実、大学院教育の強化、看護国際実践センターの強化、大学改革の推進について進めていくこととしている。この中期構想について 1 年目の状況进行评估する。

1) 学部教育の充実

平成 26 年末に看護連携型ユニフィケーション事業推進の一環として 4 つの臨地実習施設と基本協定を締結し、教育連携・相互研修・研究交流を軸とした教育の協働の取り組みがスタートした。年 2 回の定例会議により年間計画と評価を行ないながら事業を推進していく。

災害看護の充実のために、検討委員会を立ち上げほぼ全領域における災害看護教育が災害看護論の中で行われるようになった。また、防災マニュアルを作成し、一斉メールによる安否確認等の緊急時の対応、備蓄など整備をした。また、授業評価のフィードバックシステムを整備し、教員の学生のコメントに対する回答コメントや学生への閲覧を行なった。編入試の廃止に向けた選抜枠の検討については引き続き行っていく。

2) 大学院教育の強化

研究科教員の学内審査体制の明確化については、平成 26 年度よりスタートした。3P（アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシー）の明確化について検討がなされ、平成 27 年度学生便覧・入試要項等に反映した。また、博士後期課程のシラバスの作成や学位論文に係る学外指導教員及び学外審査委員に関する内規の整備、修士論文の審査体制の変更を行った。

大学院の入学者の定員増に向けた対策は入試部会で検討を進めている。

3) 看護実践国際研究センターの強化

具体的には平成 28 年度より新計画を推進していく。認定看護師部門では、県の方針の確認やバックアップを求めながら入学者数を確保すると共に、認定看護師教員の主任教員・専任教員体制の整備に取り組む。

4) 大学改革の推進

大学の運営資金の有効な活用のため学部教育の教育備品等の全体を把握し優先度を定め整備することとした。また、教育内容に応じた教員の適正な配置を進めるために、助教から講師への昇任人事を行なうとともに、教員の育成を推進している。図書館の改革では、他大学の視察を行い、それをもとに引き続き検討を進めている。

独立行政法人化については、新県立大学は理事長並びに学長の就任予定者が決まり、平成 28 年度に文科省に申請し、平成 30 年度に開学となるが、本学は平成 24 年度に、勉強会を行い結論としては現行どおり直営のままとすることを大学の意向としてとりまとめている。今後は、健康福祉部と情報を共有しつつ、1 法人 2 大学のデメリット、メリット、直営による運営のメリット、デメリットを改めて整理しておくとともに、直営の現状において改革改善に取り組んでいくことが大切であると考えている。

2. 認証評価機関による評価の課題

平成 23 年度に受けた認証評価機関の審査で努力課題として指摘された事項は、「(1) 看護学研究科の大学院担当教員の選考に関する規定が明確に定められていない。(2) 教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針を具体的に示す。(3) 授業評価の検証体制が不十分であり、組織的な取り組みが望まれる。(4) 学生便覧やシラバスの記載に精粗がある。論文主担当教員の記載が不明確である。博士課程の講義のシラバスが示されていない。(5) 博士後期課程における単位取得による退学後に再入学の手続きをとらずに学位論文を提出して、課程博士として扱っていることは適切ではない。(6) 看護学研究科の博士前期・後期課程において、学生の受け入れ方針が定められていないので、改善が望まれる。」であった。

これらについて、平成 27 年 7 月末までに中間報告を行うべく、課題に取り組み、平成 26 年度には (2) を除くすべての課題に対応した。(2) については、27 年度中をめどに検討が進められている。今後は、3 P (アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシー) の評価について検討すると共に、大学自らの自立と自治の取り組みとしての内部質保証のシステム化について、中期構想に加えながら引き続き取り組んでいかなければならないと考える。

3. その他の課題

1) 創立 20 周年記念事業

平成 26 年度は、20 周年記念事業として 6 月に国際シンポジウムを開催した。前学長に加え、本学と協定を結んでいるサモア国立大学、カリフォルニア大学サンフランシスコ校 (UCSF) に加えサンフランシスコ大学 (USF) から講師として来日した。11 月には、記念式典が挙行され感謝状の贈呈や 20 周年を記念してタグライン「自分を知る 人を知る そして未来を描く」を配置したロゴマークを創設した。記念誌の発行と

共に DVD を作成した。記念セレモニーとして、卒業生シンポジウム、祝賀会を開催した。次の 30 周年記念事業担当者へ引き継ぐための整理等の課題が残されている。

2) 学校教育法改正に伴った学内規程の整備

学校教育法改正に伴う本学規程を検討し修正を行なった。教授会規程、教員選考基準細則、看護大学学則の一部改正、長野県看護大学学長が教授会の意見を聞くことが必要なものとして定める事項に関する規程等を整備した。

3) 研究活動に伴う倫理委員会の整備や倫理審査の見直し

長野県看護大学倫理委員会規定による倫理委員会の組織員の見直しと共に、長野県看護大学倫理委員会規定施行細則の改正により、用語の定義や迅速審査についての見直しを検討した。また、これらの改正に伴う研究計画書様式の見直しを行った。次年度に向けては、研究倫理に関する FD 等の課題がある。

4) 教員業績評価

平成 24 年度に実施したものを踏襲している。ただし、若干の課題として残されていた点として、卒業研究の担当時間と、卒業研究担当人数について、助手・助教の記載に於いて重複する点を加点しないこととした。また、評価対象者は、採用形態に関わらず研究費を配分されているため、評価年度に在籍していた者とした（次年度研究費配分の時点で退職が明確な教員は対象から除く）。

大学教員の仕事の枠組みは変えず教育・研究・地域貢献・大学運営とし、領域別のウエイトについてもほぼ同様としているが、今後は、大学内のさまざまな課題に取り組む上で大学運営に対するウエイトの若干の見直しを検討したいと考えている。

5) その他

すでに機能していた教職員の労働環境、健康管理等を取り扱う安全衛生委員会を、学長直属の委員会として組織上明確に位置付け活動の活発化を図った。また、客員研究員制度を作り、特に本学の博士後期課程に所属する学生が研究者番号を取得し、科研費の獲得による研究を可能とするとともに、臨床の看護職が科研費による研究に参画する道筋を作った。

長野県看護大学長 清水嘉子

自己点検・評価報告書（平成 26 年度分）

2015 年 12 月発行

編集 長野県看護大学 評価委員会

発行 長野県看護大学

〒399-4117 長野県駒ヶ根市赤穂 1694

TEL 0265-81-5100 FAX0265-81-1256

印刷 (株)宮澤印刷



長野県看護大学